

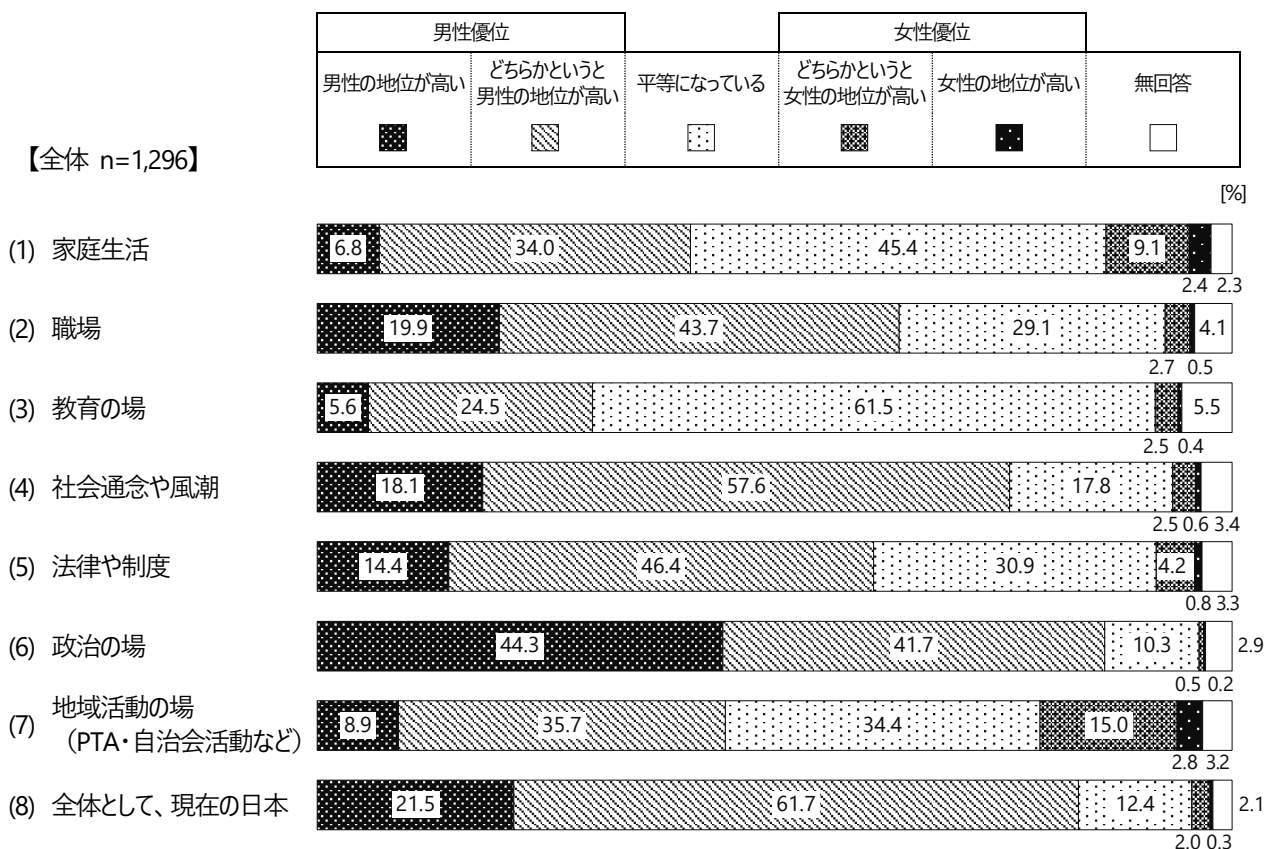
Ⅲ. 調査の結果

1. 男女平等に関する意識について

1-1 分野別男女平等感

問1 あなたは、次のような面で男女の地位が平等になっていると思いますか。(1)～(8)のそれぞれについて、あなたの感じ方に近いものを選んでください。(○はそれぞれ1つつつ)

図表 1-1-1 分野別男女平等感

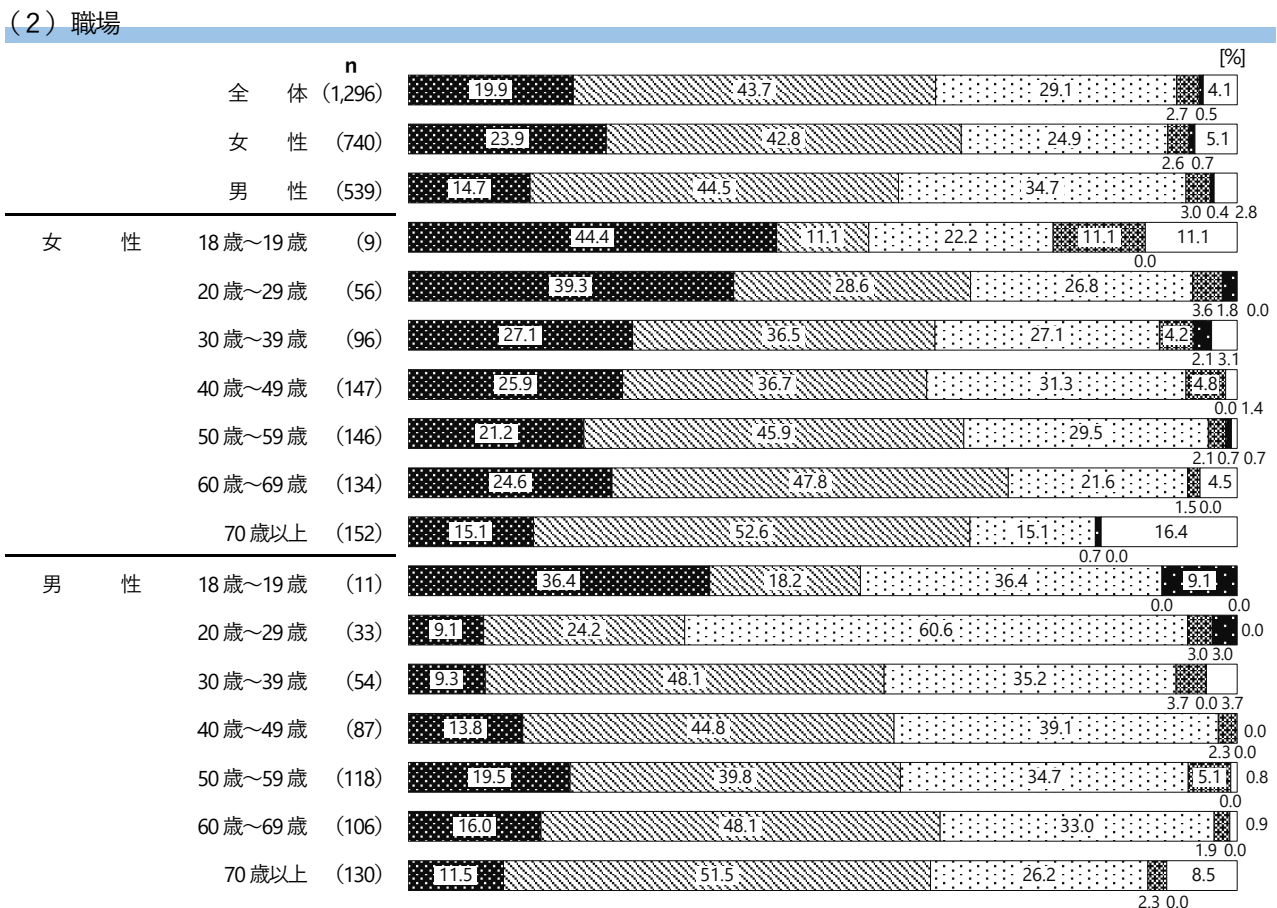
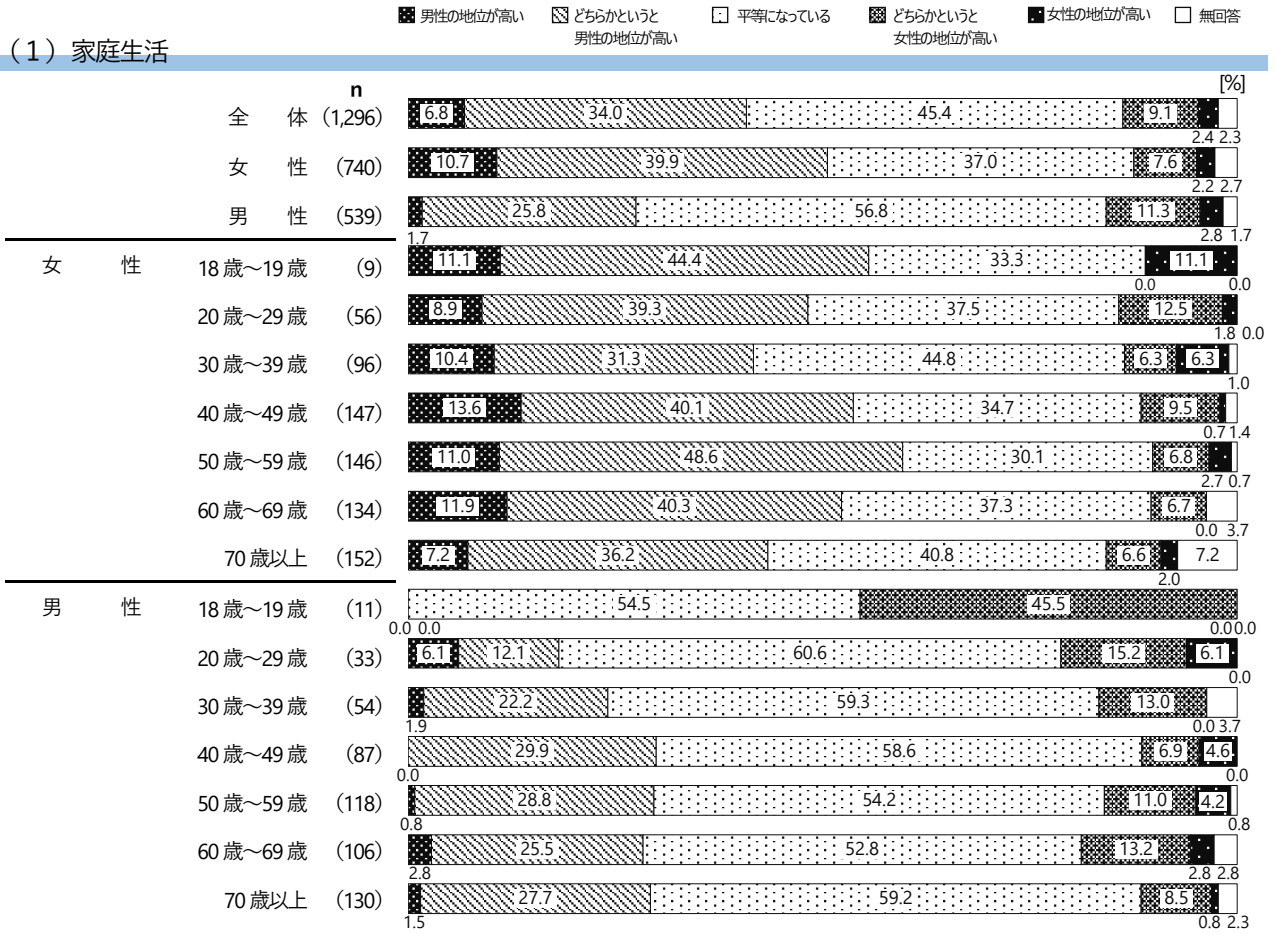


8つの分野において、男女どちらの地位が高いと感じるか調査した。

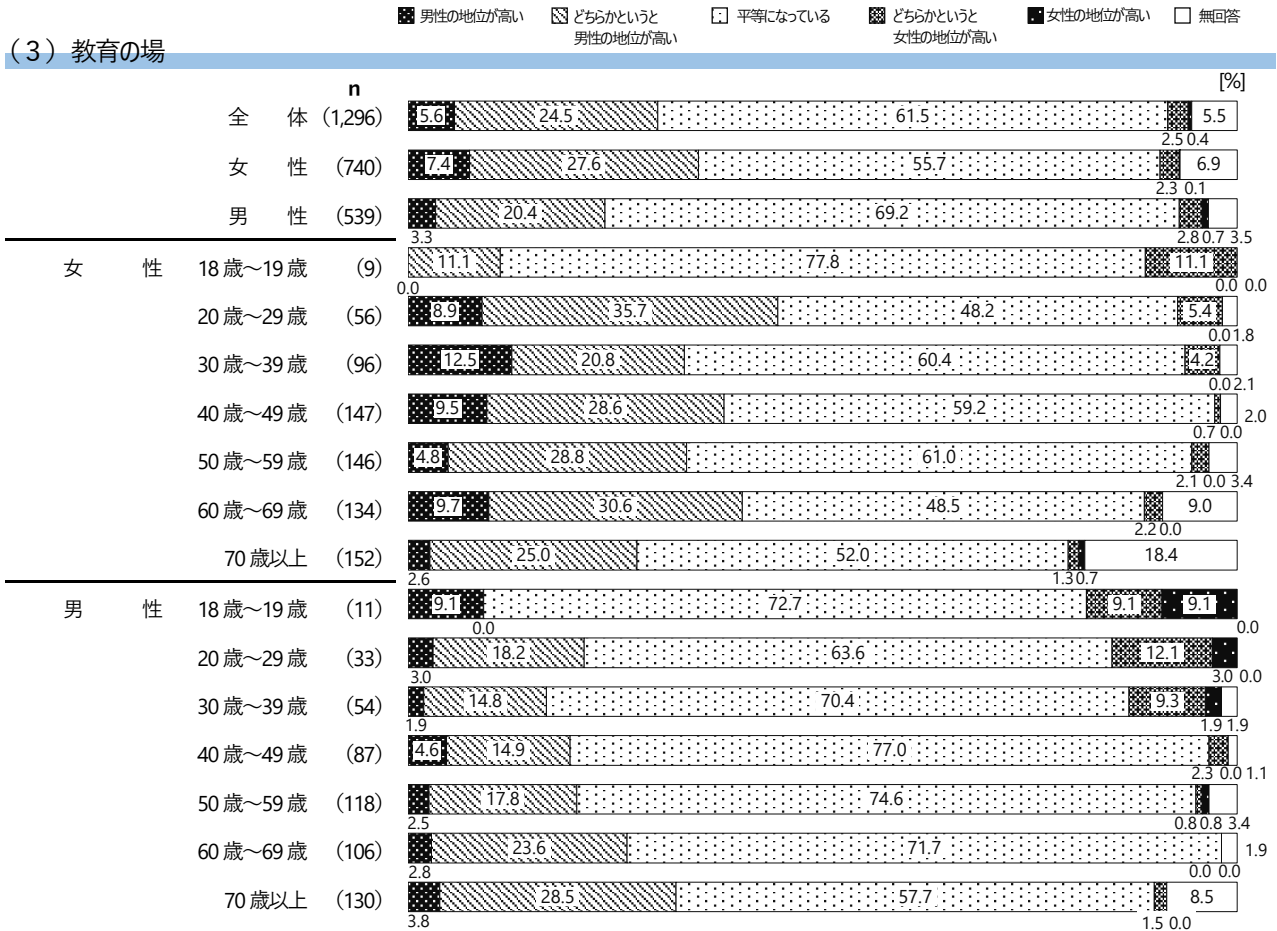
全体でみると、「平等になっている」は【(3) 教育の場】(61.5%) が最も高く、次いで【(1) 家庭生活】(45.4%)、【(7) 地域活動の場 (PTA・自治会活動など)】(34.4%)、【(5) 法律や制度】(30.9%) の順となっている。

「男性の地位が高い」と「どちらかというと男性の地位が高い」を合わせた『男性優位』は、【(6) 政治の場】(86.0%) が最も高く、次いで【(8) 全体として、現在の日本】(83.2%)、【(4) 社会通念や風潮】(75.7%) の順となっている。(図表 1-1-1)

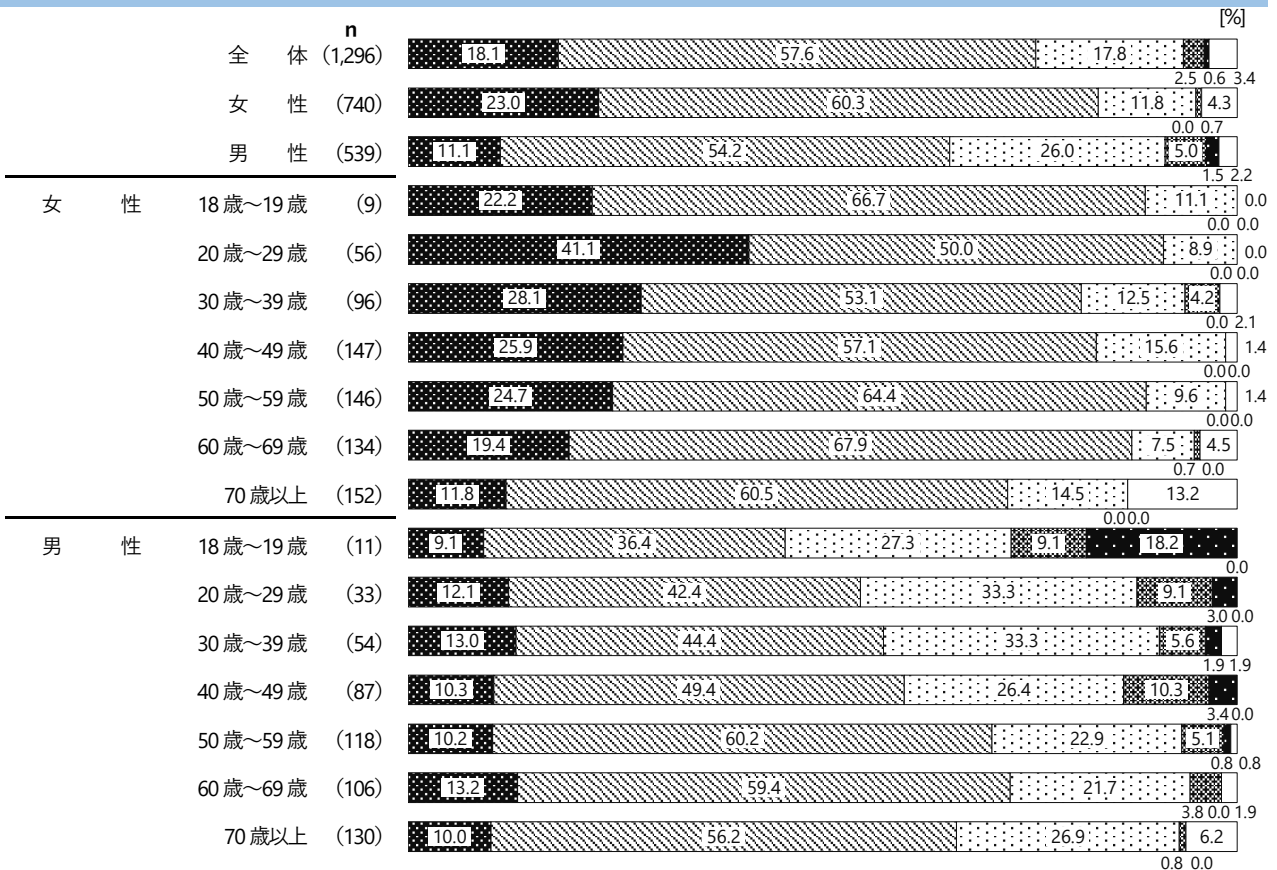
図表1-1-2 分野別男女平等感（性・年代別）



図表 1 - 1 - 2 分野別男女平等感（性・年代別） つづき

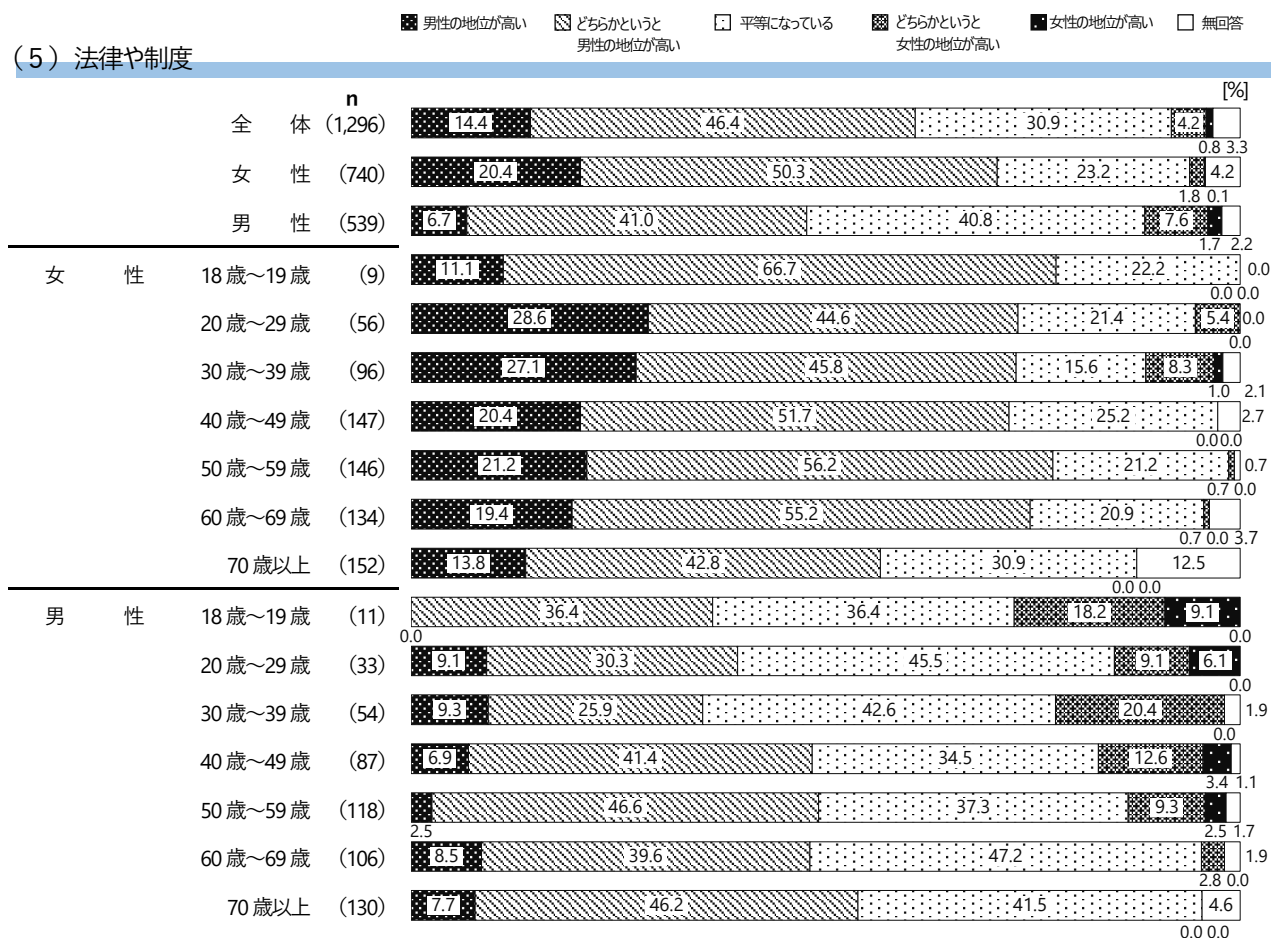


(4) 社会通念や風潮

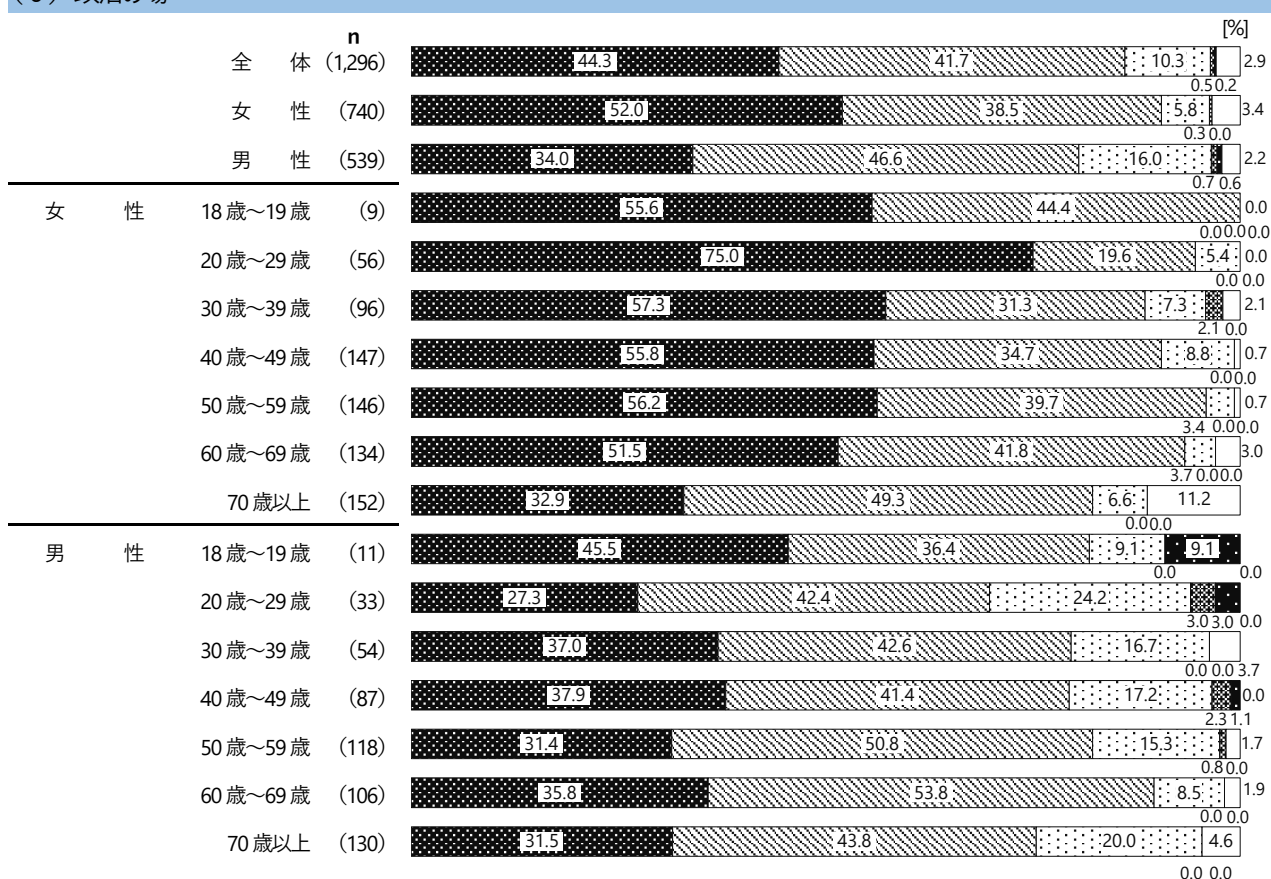


図表1-1-2 分野別男女平等感（性・年代別） つづき

(5) 法律や制度



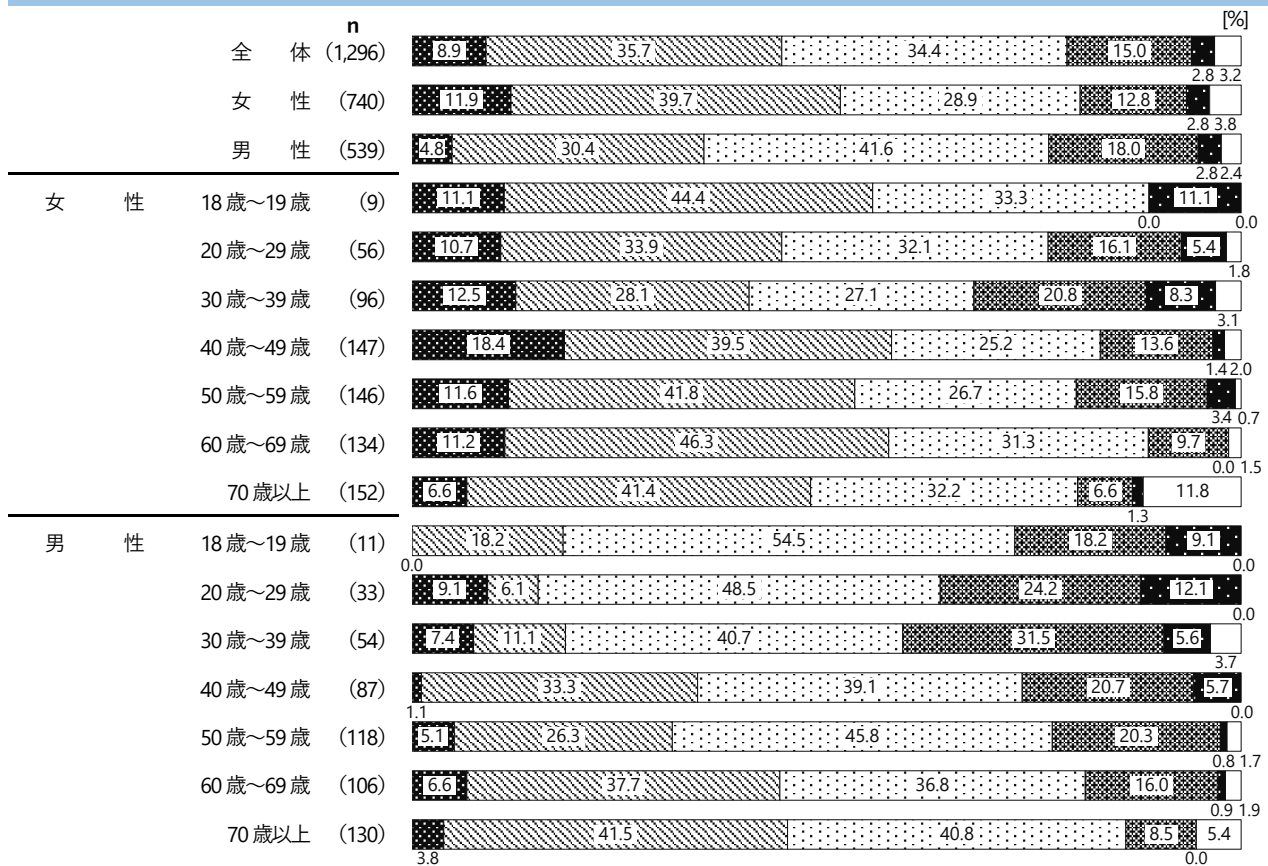
(6) 政治の場



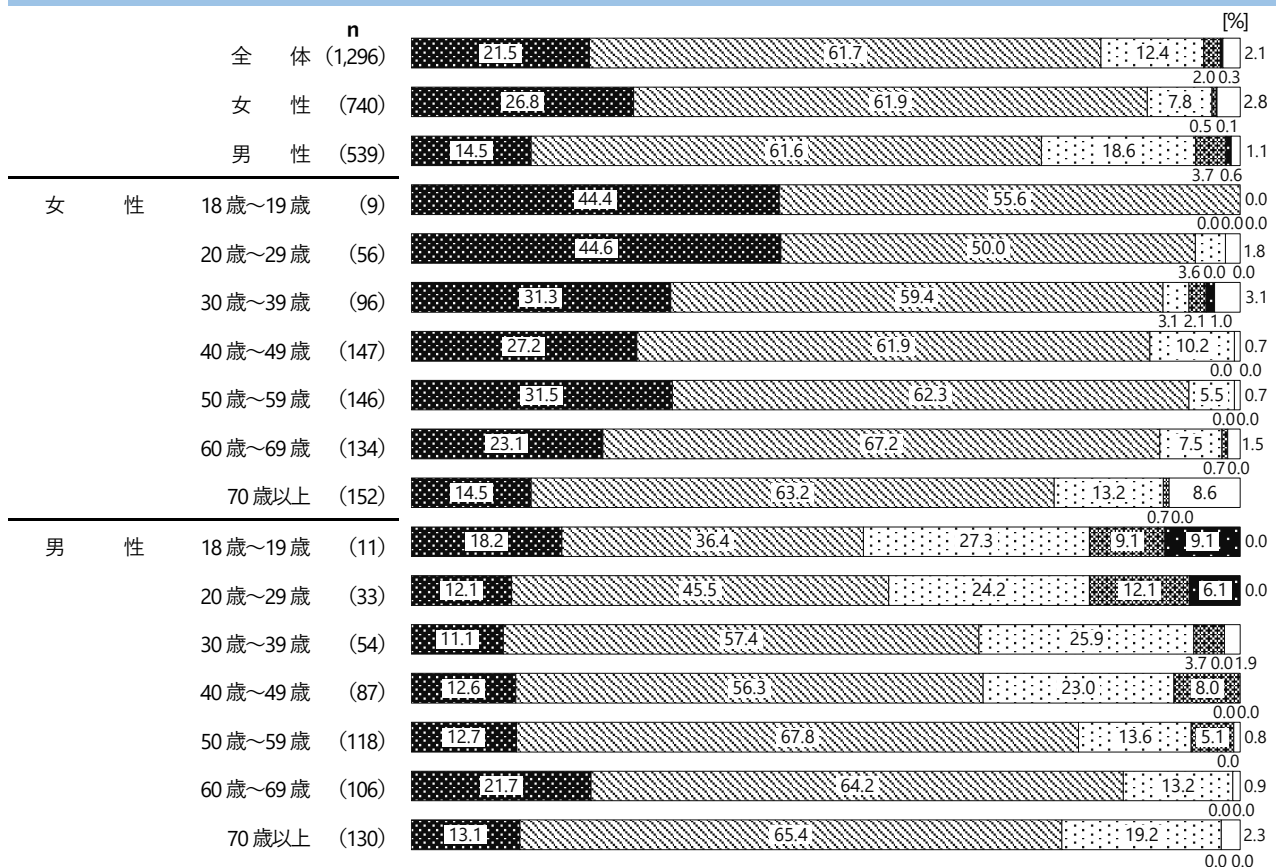
図表1-1-2 分野別男女平等感（性・年代別） つづき

■ 男性の地位が高い ■ どちらかというと男性の地位が高い □ 平等になっている ■ どちらかというと女性の地位が高い ■ 女性の地位が高い □ 無回答

(7) 地域活動の場（PTA・自治会活動など）



(8) 全体として、現在の日本



(※) nが30未満である女性18歳～19歳、男性18歳～19歳の結果は参考扱いとする。

性別でみると、『男性優位』は、すべての分野で女性が男性を上回っており、特に【(1) 家庭生活】と【(5) 法律や制度】では、女性が男性より 20 ポイント以上高くなっている。また、『男性優位』は、女性では、【(4) 社会通念や風潮】、【(6) 政治の場】、【(8) 全体として、現在の日本】で 8 割以上と高くなっている。一方、「平等になっている」は、すべての分野で男性が女性より約 10 ポイント高く、【(1) 家庭生活】では、男性 (56.8%) が女性 (37.0%) より 19.8 ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、(1) 家庭生活について、『男性優位』は、女性では、40 歳代から 60 歳代で 5 割以上となっている。また、『男性優位』は女性 50 歳代 (59.6%) が最も高く、同じ年代の男性 50 歳代 (29.6%) よりも 30.0 ポイント高くなっている。

(2) 職場について、『男性優位』は、女性では、すべての年代で 6 割以上となっており、女性 60 歳代 (72.4%) が最も高い値となっている。「平等になっている」は、男性 20 歳代 (60.6%) が最も高く、同じ年代の女性 20 歳代 (26.8%) よりも 33.8 ポイント高くなっている。

(3) 教育の場について、『男性優位』は、女性 20 歳代で 44.6%、女性 60 歳代で 40.3%、女性 40 歳代で 38.1% の順で高くなっている。「平等になっている」は、男性の 30 歳代から 60 歳代で 7 割以上と高くなっている一方で、女性では、50 歳代 (61.0%) が最も高い値となっている。

(4) 社会通念や風潮について、『男性優位』は、女性 20 歳代 (91.1%) が最も高く、同じ年代の男性 20 歳代 (54.5%) よりも 36.6 ポイント高くなっている。また、『男性優位』は、男性では、年代が上がるにつれて増加する傾向がある。

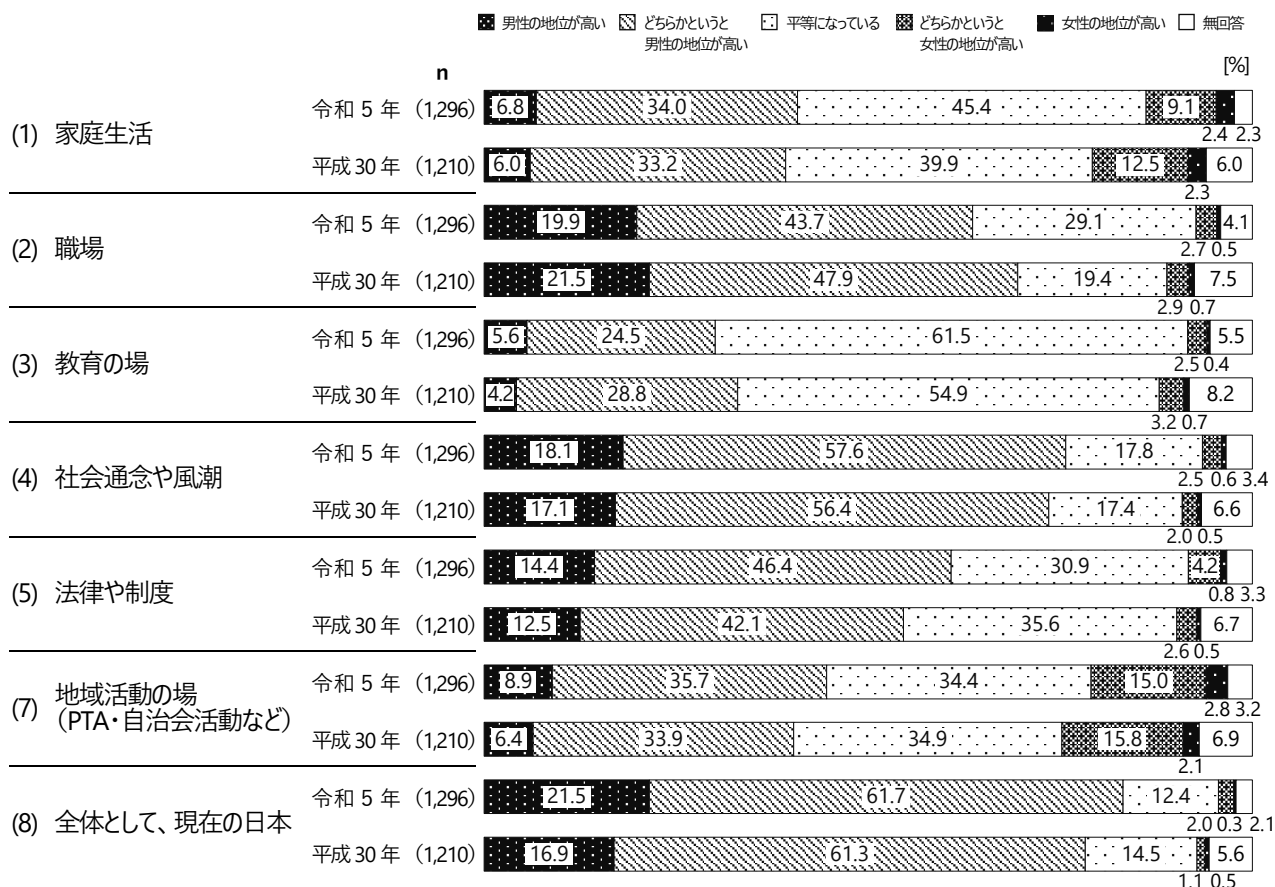
(5) 法律や制度について、『男性優位』は、女性では 70 歳以上 (56.6%) を除くすべての年代で 7 割以上となっている。男性では 70 歳以上 (53.9%) が最も高いが、女性 70 歳以上の方が、なお 2.7 ポイント高くなっている。

(6) 政治の場について、「男性の地位が高い」が、女性では、70 歳以上 (32.9%) を除くすべての年代で 5 割以上となっており、『男性優位』は、女性のすべての年代が 8 割を超えている。また、「男性の地位が高い」は、男性では、20 歳代 (27.3%) を除くすべての年代で 3 割以上となっている。

(7) 地域活動の場 (PTA・自治会活動など) について、『男性優位』は女性 40 歳代から 60 歳代で 5 割以上となっている。一方で、「女性の地位が高い」と「どちらかという女性の地位が高い」を合わせた『女性優位』は、男性 30 歳代で 37.1%、男性 20 歳代で 36.3%、女性 30 歳代で 29.1% の順となっている。

(8) 全体として、現在の日本について、『男性優位』は、女性では、70 歳以上 (77.7%) を除くすべての年代で約 9 割となっている。また、『男性優位』は、男性では、年代が上がるにつれて増加する傾向があり、50 歳代 (80.5%) と 60 歳代 (85.9%) で 8 割以上と高くなっている。(図表 1-1-2)

図表 1－1－3 分野別男女平等感（前回調査との比較）



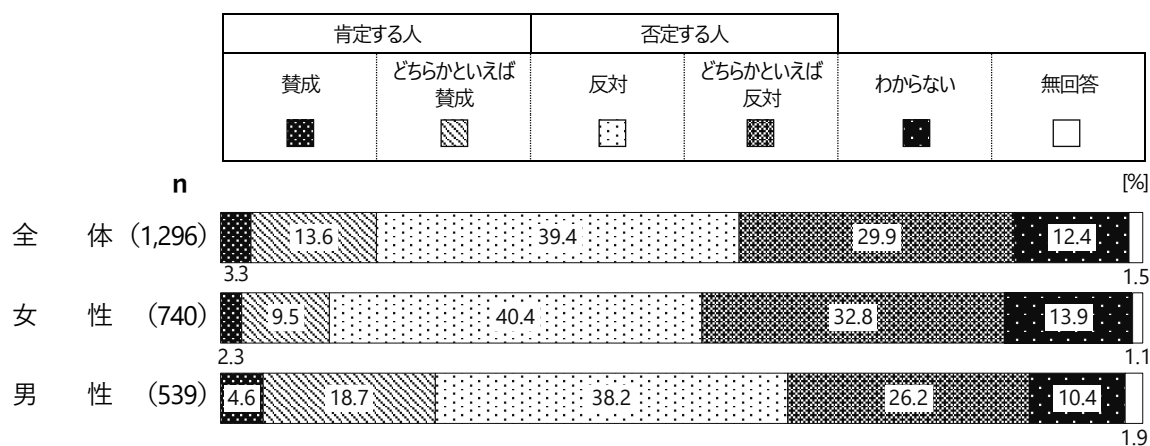
※「(6)政治の場」は今回調査で新設された問のため除いている。

前回調査との比較についてみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表 1－1－3）

1-2 性別役割分担

問2 たとえば「男は仕事、女は家庭」のように、性別で役割を固定することについて、あなたはどのように思いますか。(○は1つだけ)

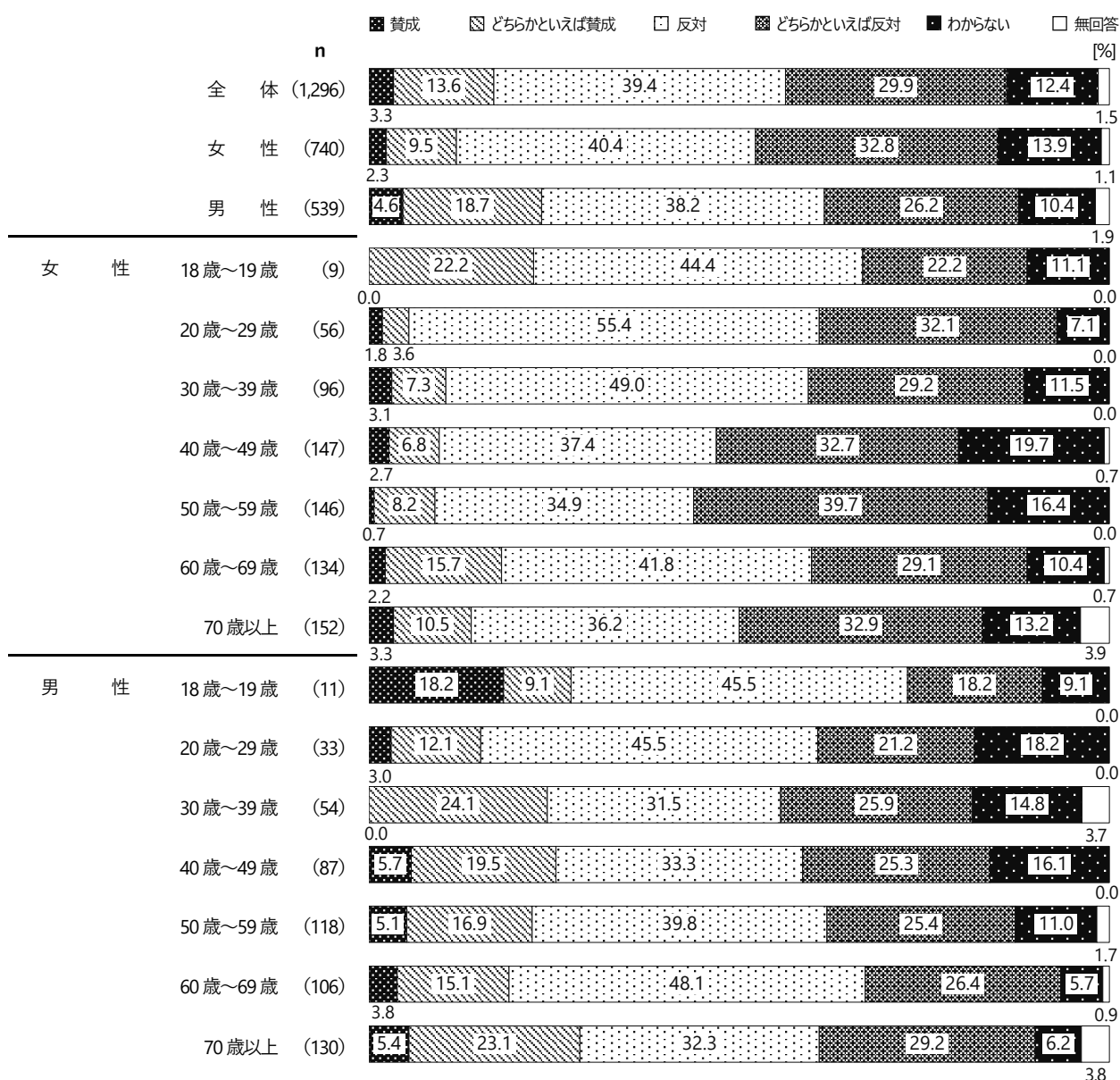
図表1-2-1 性別役割分担（性別）



性別で役割を固定することについて、全体でみると、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた『肯定する人』は16.9%だった。一方、「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた『否定する人』の意見は69.3%だった。

性別でみると、女性の『否定する人』の割合が73.2%と、男性の『否定する人』(64.4%)に比べて8.8ポイント高かった。(図表1-2-1)

図表 1 - 2 - 2 性別役割分担（性・年代別）

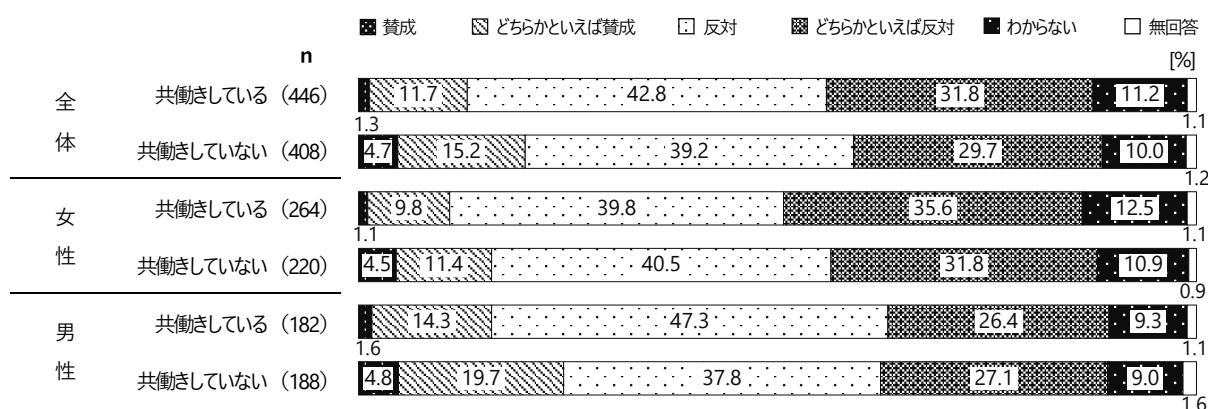


(※) nが30未満である女性18歳～19歳、男性18歳～19歳の結果は参考扱いとする。

性別で役割を固定することについて、性・年代別でみると、『肯定する人』は男性70歳以上（28.5%）が最も高く、男性40歳代（25.2%）、男性30歳代（24.1%）、男性50歳代（22.0%）の順で高くなっており、2割を超えている。

一方、『否定する人』は、女性20歳代（87.5%）と女性30歳代（78.2%）で約8割と高く、次いで女性50歳代（74.6%）、男性60歳代（74.5%）の順となっている。また、「反対」についても、女性20歳代（55.4%）と女性30歳代（49.0%）で約5割と高くなっており、次いで男性60歳代（48.1%）、男性20歳代（45.5%）の順となっている。（図表1-2-2）

図表 1－2－3 性別役割分担（性・共働きの有無別）

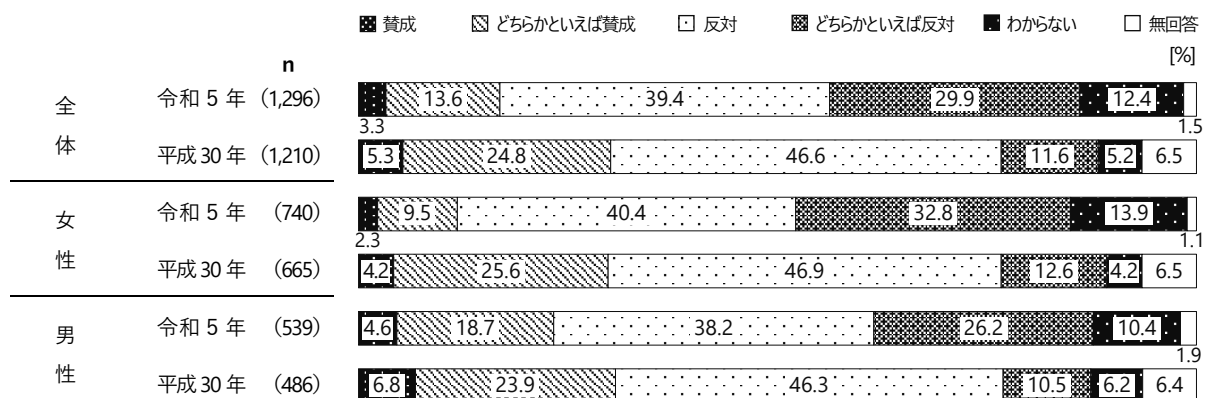


性別で役割を固定することについて、共働きの有無別にみると、全体では『肯定する人』は共働きしている世帯で 13.0%、共働きしていない世帯で 19.9%であった。一方で『否定する人』は共働きしている世帯で 74.6%、共働きしていない世帯で 68.9%だった。

性・共働きの有無別でみると、『否定する人』は、女性の共働きしている世帯（75.4%）が女性の共働きしていない世帯（72.3%）よりも 3.1 ポイント高かった。また、『否定する人』は、男性の共働きしている世帯（73.7%）が、男性の共働きしていない世帯（64.9%）よりも 8.8 ポイント高かった。

（図表 1－2－3）

図表 1－2－4 性別役割分担（前回調査との比較）



※グラフの「賛成」、「どちらかといえば賛成」、「反対」、「どちらかといえば反対」は、平成 30 年調査結果の「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「そうは思わない」、「どちらかといえばそうは思わない」にそれぞれ対応している。

性別で役割を固定することについて、前回調査との比較をみると、全体では『否定する人』（69.3%）は、平成 30 年（58.2%）より 11.1 ポイント増加している。

性別でみると、女性では『否定する人』（73.2%）が、平成 30 年（59.5%）から 13.7 ポイント増加している。また、男性では『否定する人』（64.4%）が、平成 30 年（56.8%）から 7.6 ポイント増加している。

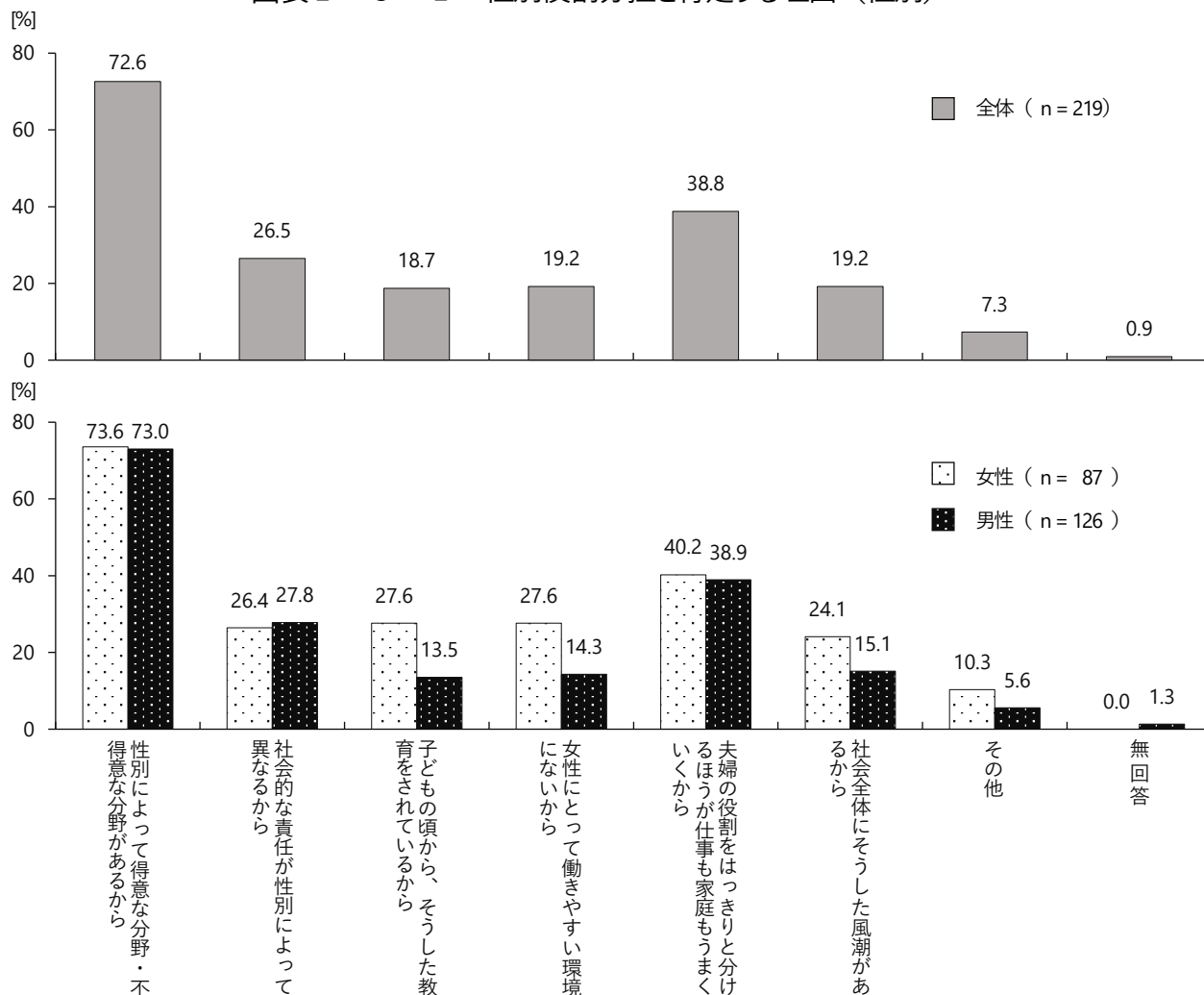
（図表 1－2－4）

1-3 性別役割分担を肯定する理由

(問2で「1. 賛成」「2. どちらかといえば賛成」とお答えの方に)

問2-1 賛成する理由は何ですか。(○はあてはまるものすべて)

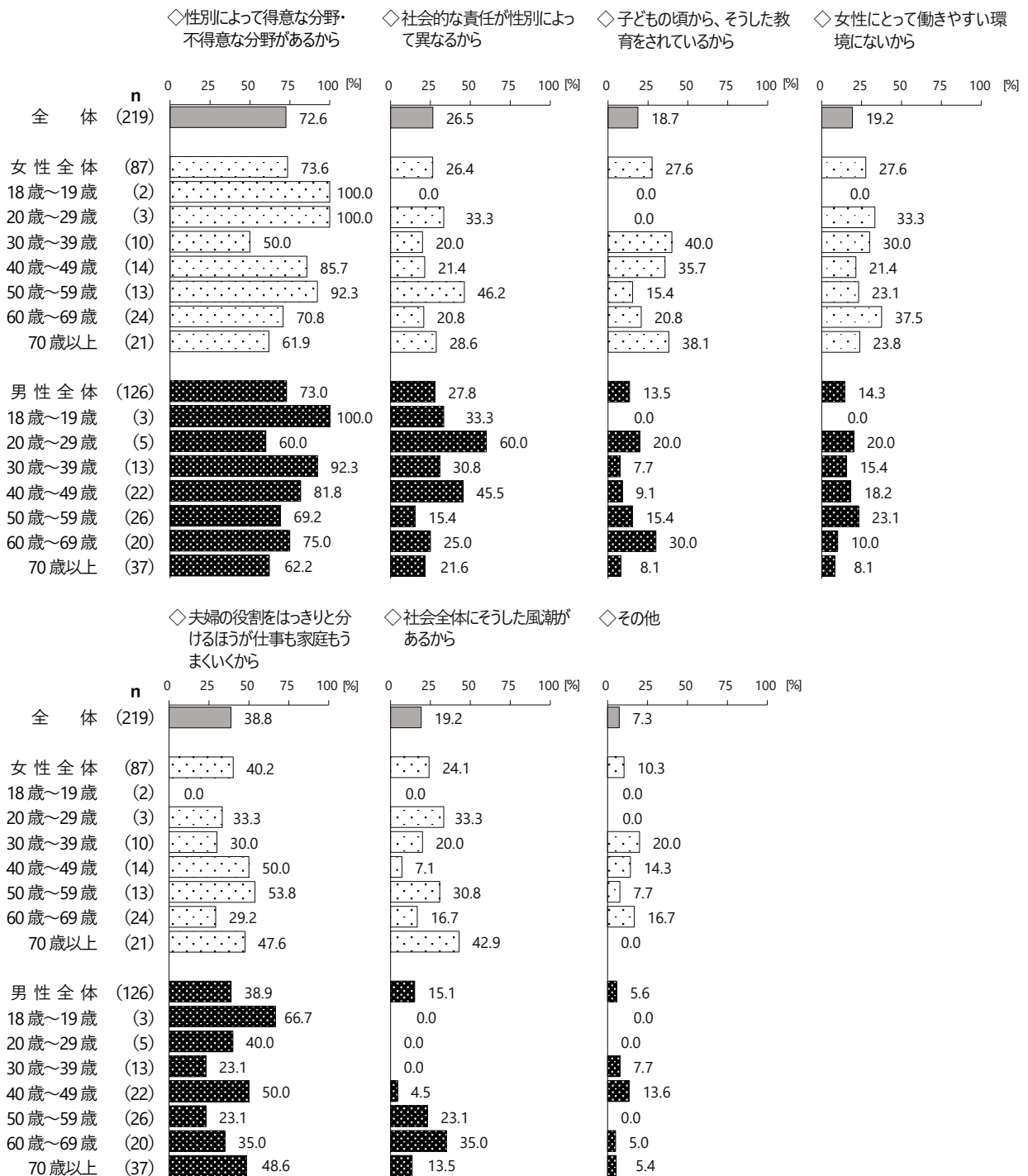
図表1-3-1 性別役割分担を肯定する理由(性別)



全体でみると、「性別によって得意な分野・不得意な分野があるから」(72.6%)が最も高く、「夫婦の役割をはっきりと分けるほうが仕事も家庭もうまくいくから」(38.8%)、「社会的な責任が性別によって異なるから」(26.5%)の順となっている。

性別でみると、「子どもの頃から、そうした教育をされているから」は、女性(27.6%)が男性(13.5%)を14.1ポイント上回っており、「女性にとって働きやすい環境にないから」は、女性(27.6%)が男性(14.3%)を13.3ポイント上回っている。(図表1-3-1)

図表 1 - 3 - 2 性別役割分担を肯定する理由（性・年代別）



(※) n が 30 未満である女性の各年代、男性 60 歳代以下の結果は参考扱いとする。

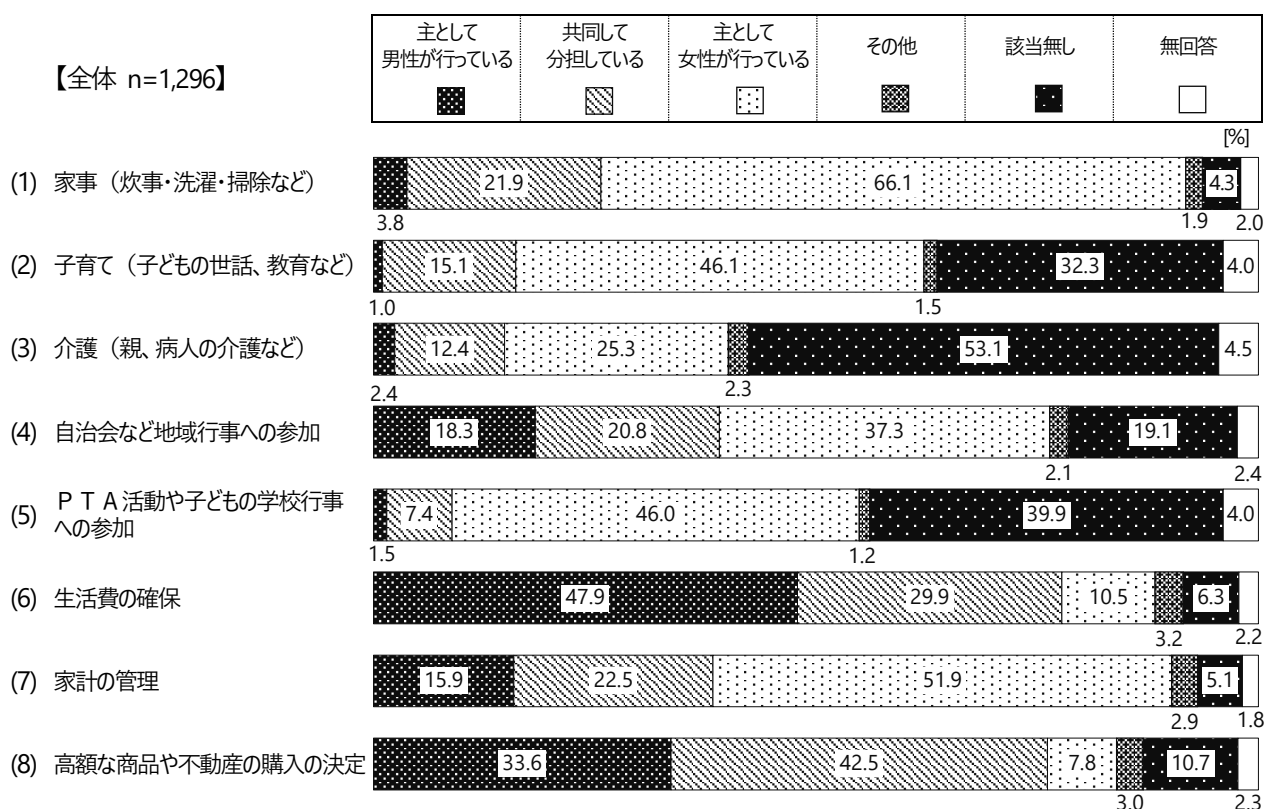
基数が不足するため参考とする。(図表 1 - 3 - 2)

2. 家庭生活（家事・子育て・介護）について

2-1 家庭生活での役割分担

問3 現在、あなたの家庭では、次の（１）～（８）のことについて、主に男性、女性のどちらが行っていますか。（○はそれぞれ１つずつ）

図表 2-1-1 家庭生活での役割分担

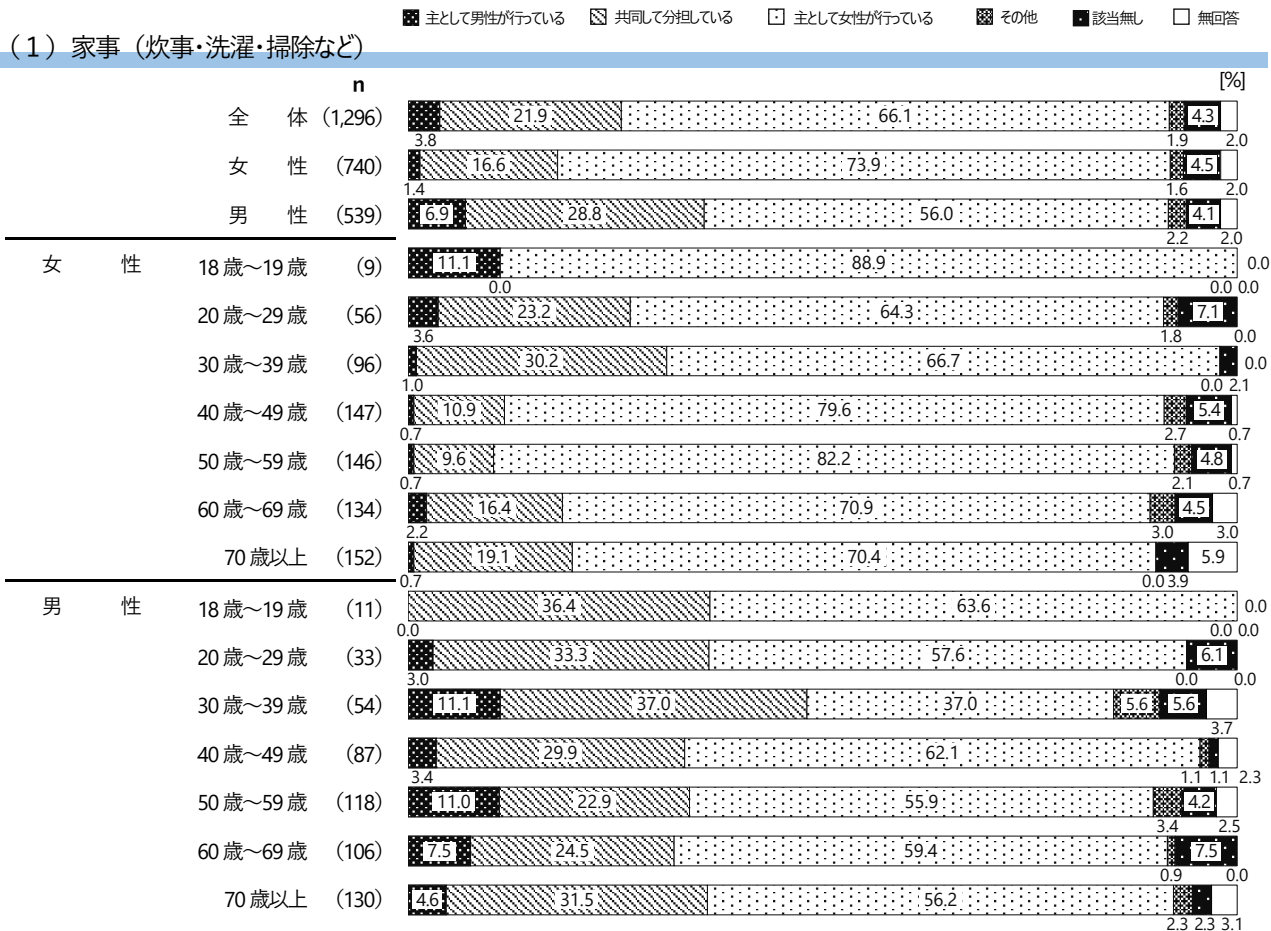


8つの分野について、家庭生活の役割分担を調査した。

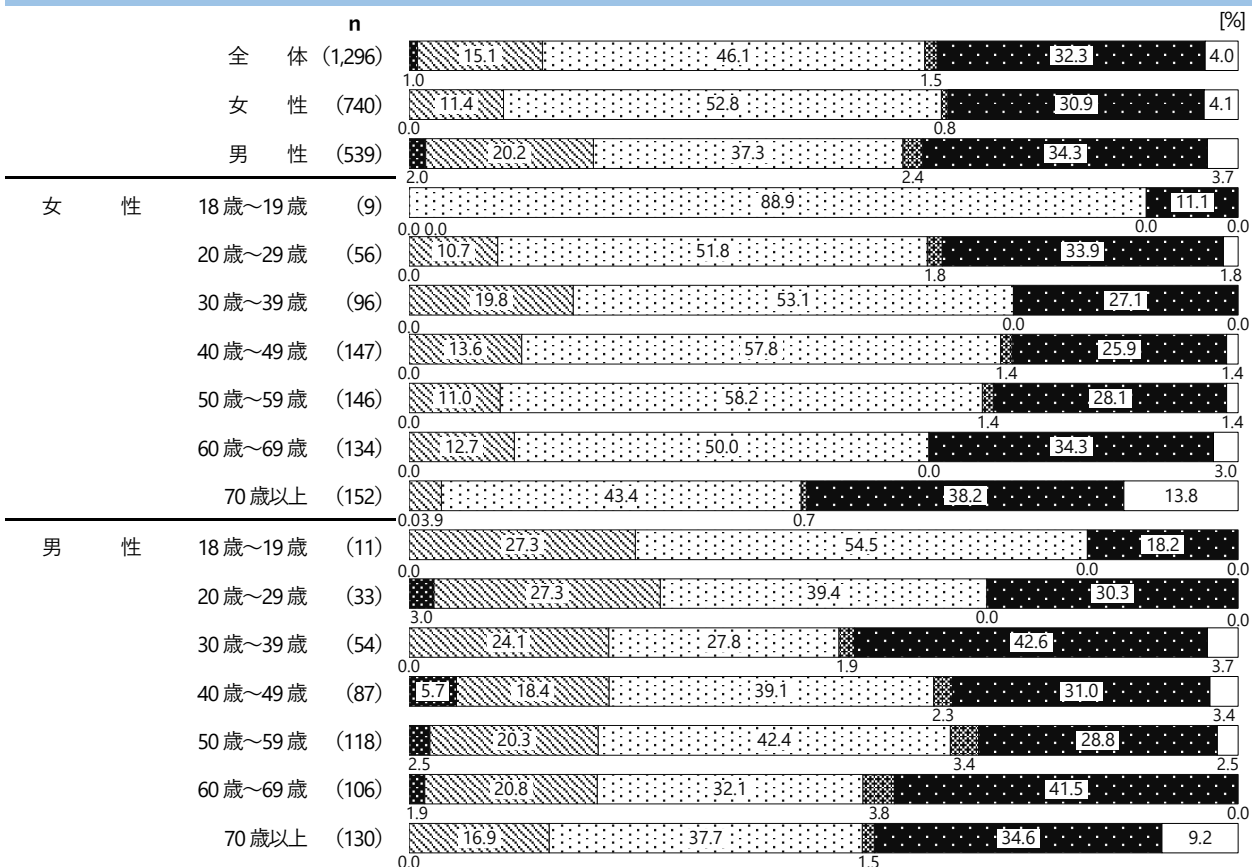
全体でみると、【（４）自治会など地域行事への参加】、【（６）生活費の確保】、【（８）高額な商品や不動産の購入の決定】を除く５つの分野で「主として女性が行っている」と回答した割合が「主として男性が行っている」と「共同して分担している」の合計を上回っている。特に【（１）家事（炊事・洗濯・掃除など）】（66.1%）、【（２）子育て（子どもの世話、教育など）】（46.1%）、【（５）PTA活動やこどもの学校行事への参加】（46.0%）、【（７）家計の管理】（51.9%）で高くなっている。

一方、【（６）生活費の確保】は「主として男性が行っている」（47.9%）が５割近くで最も高くなっており、【（８）高額な商品や不動産の購入の決定】は「共同して分担している」（42.5%）が４割を超えて最も高くなっている。（図表 2-1-1）

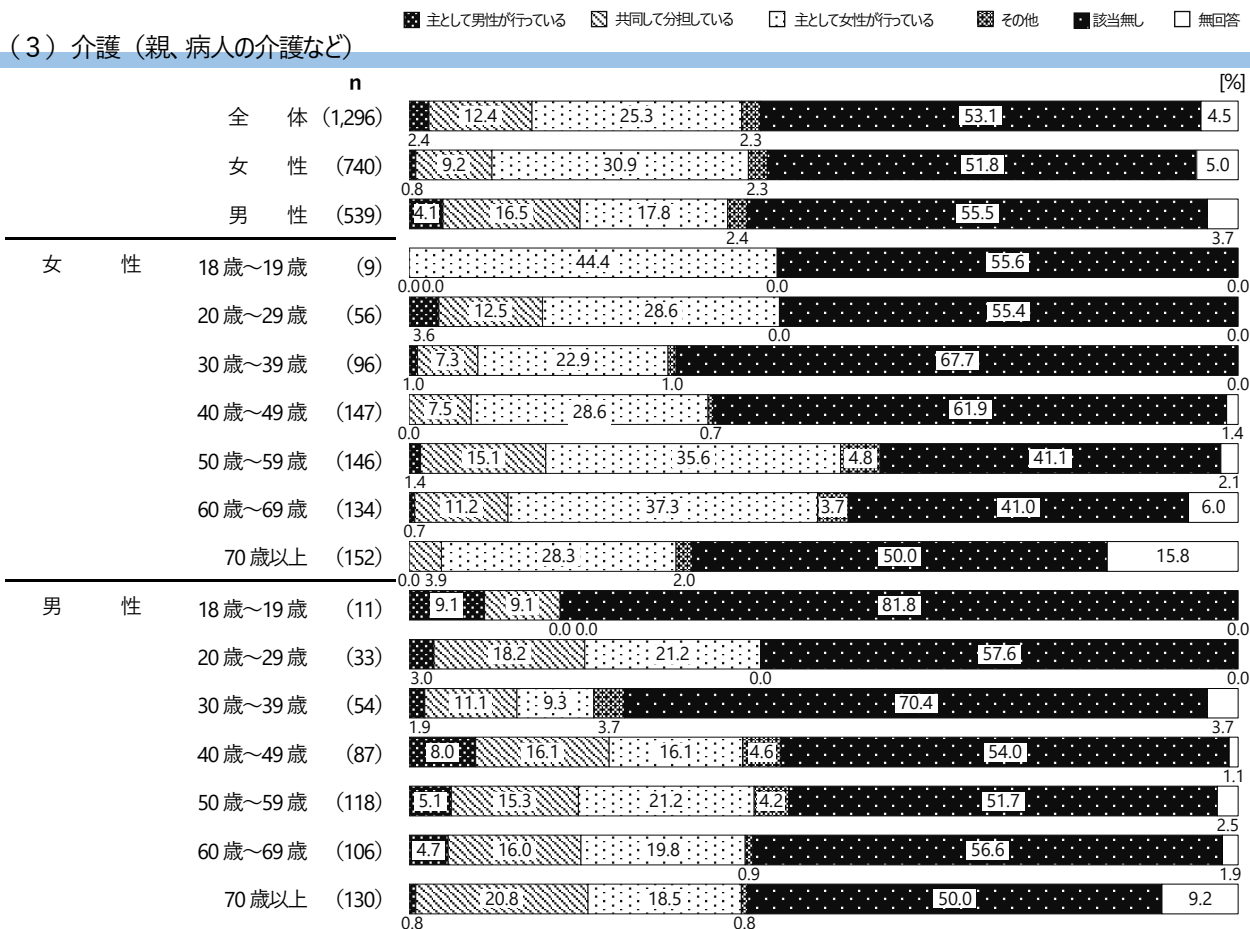
図表 2 - 1 - 2 家庭生活での役割分担（性・年代別）



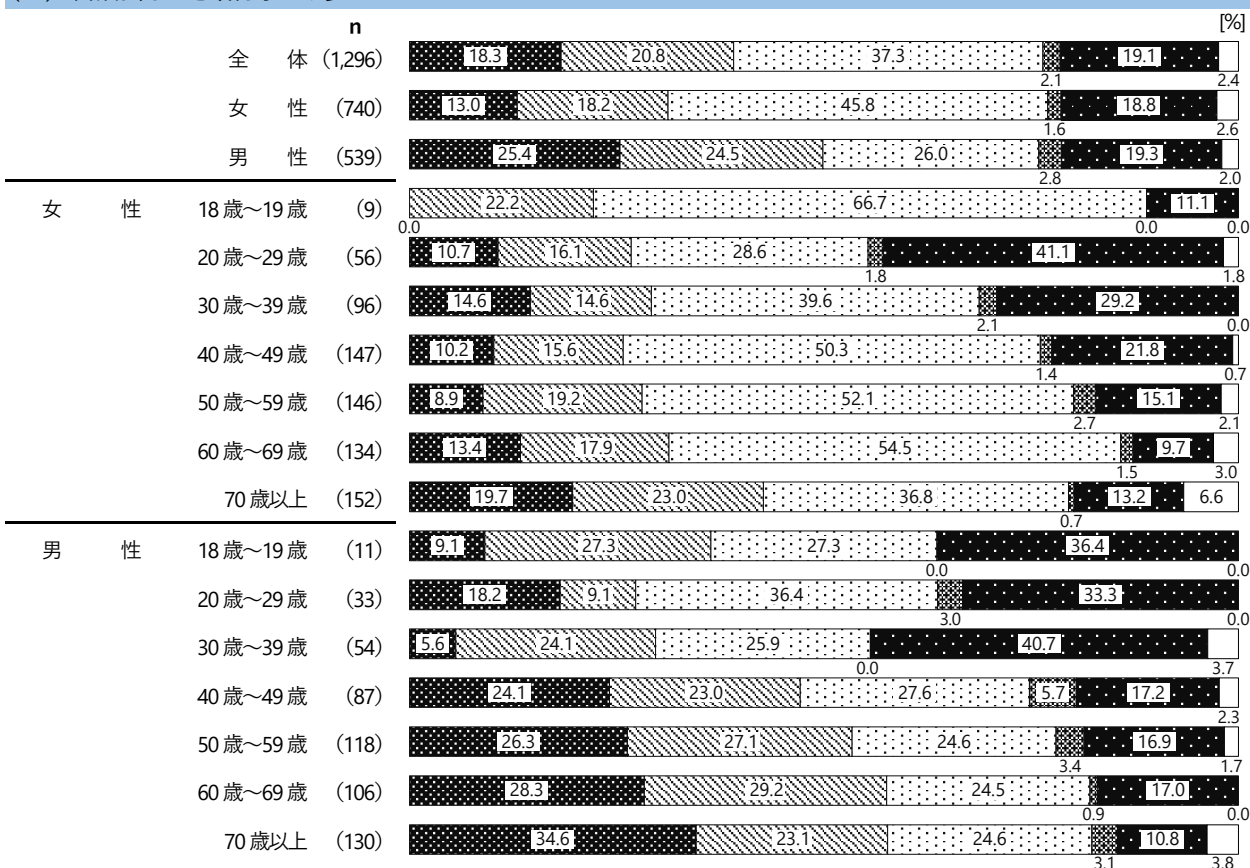
(2) 子育て（子どもの世話、教育など）



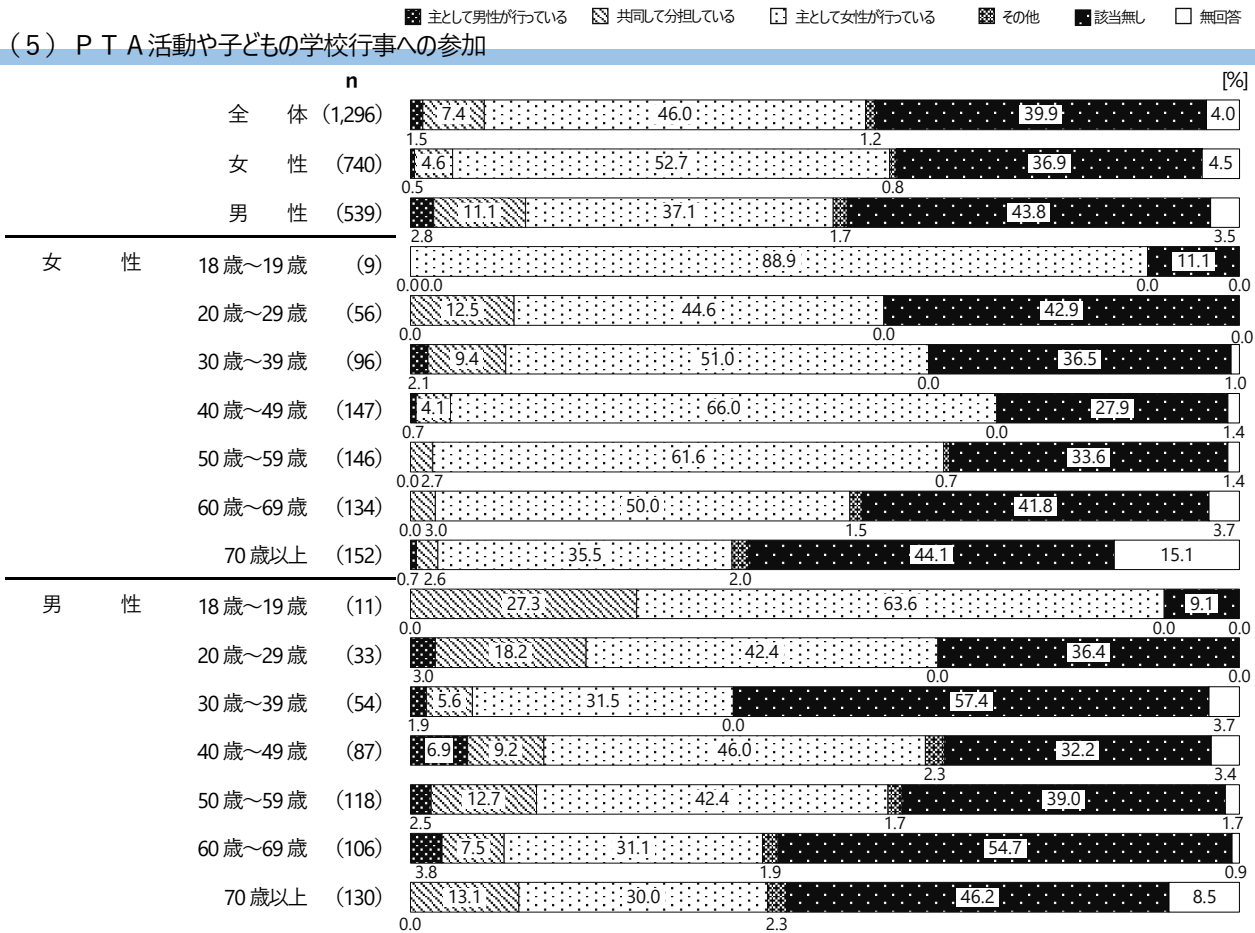
図表 2 - 1 - 2 家庭生活での役割分担（性・年代別） つづき



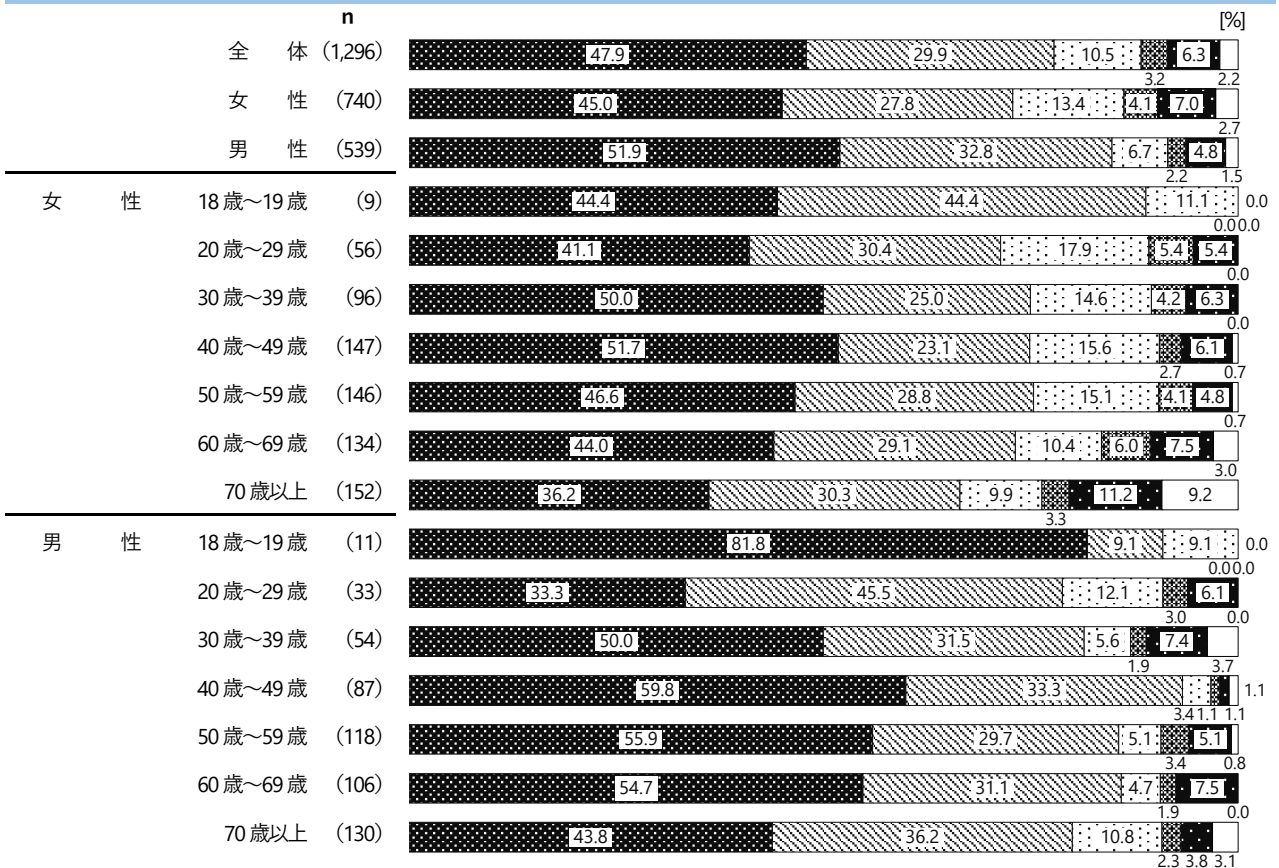
(4) 自治会など地域行事への参加



図表 2 - 1 - 2 家庭生活での役割分担（性・年代別） つづき

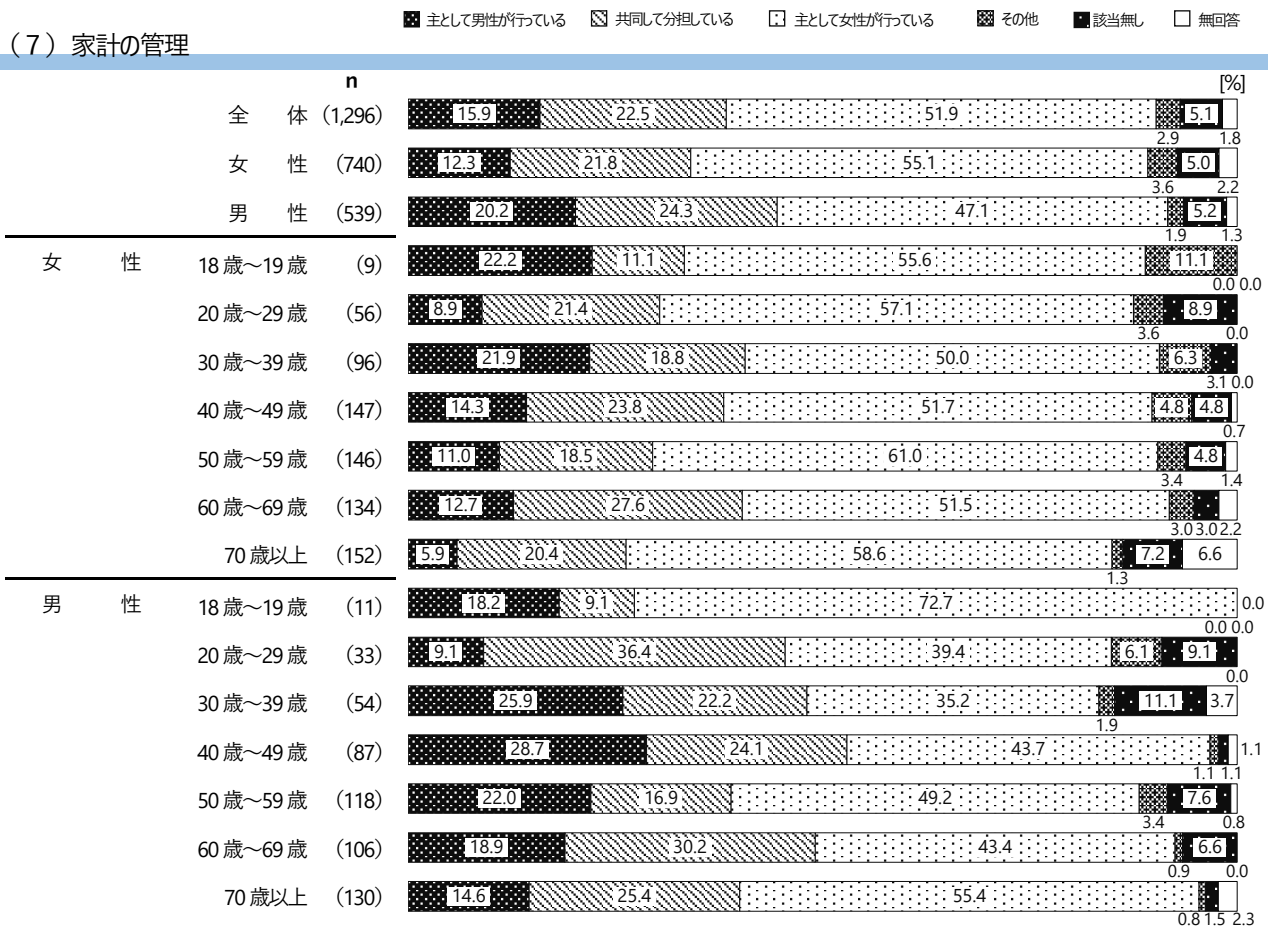


(6) 生活費の確保

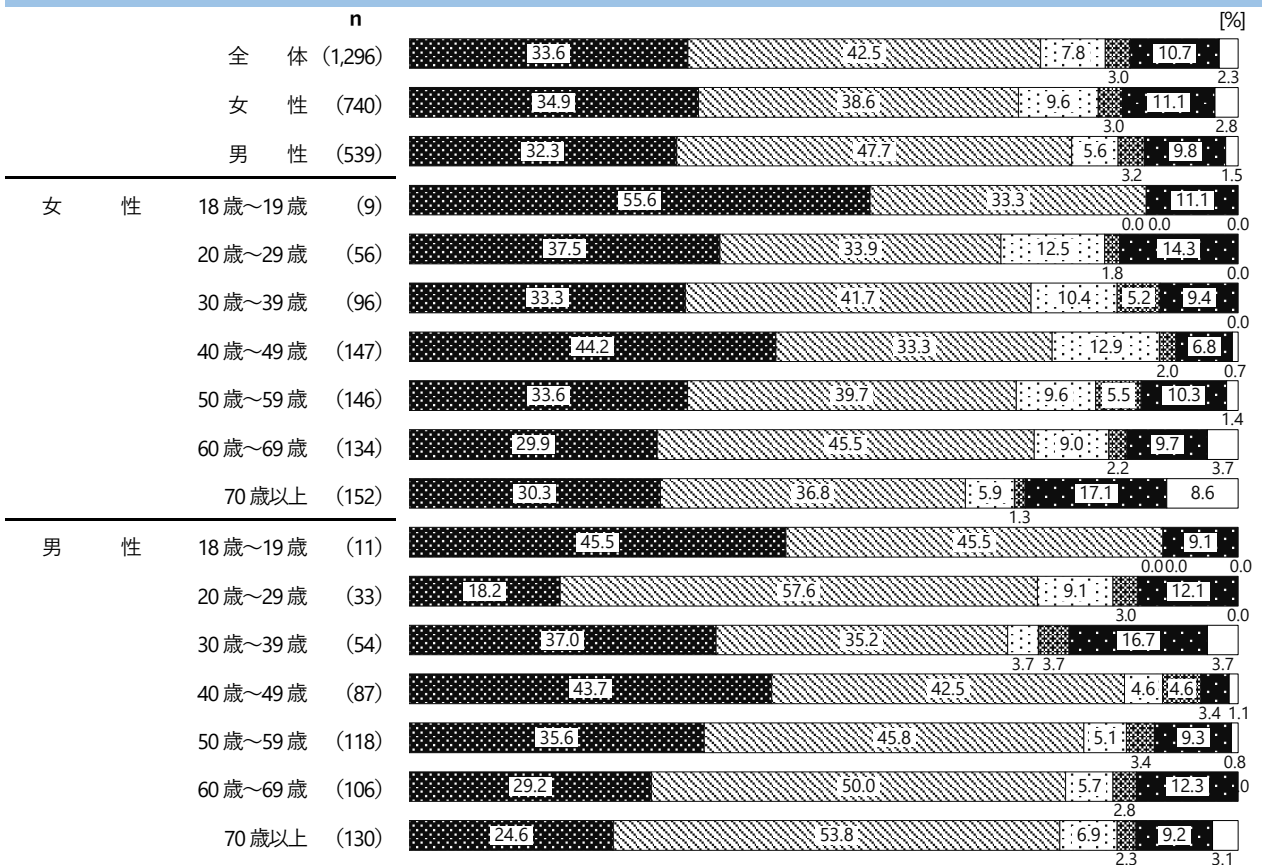


図表 2 - 1 - 2 家庭生活での役割分担（性・年代別） つづき

(7) 家計の管理



(8) 高額な商品や不動産の購入の決定



(※) n が 30 未満である女性 18 歳～19 歳、男性 18 歳～19 歳の結果は参考扱いとする。

性別でみると、「主として女性が行っている」は、すべての分野で女性が男性を上回っており、特に【(1) 家事（炊事・洗濯・掃除など）】、【(2) 子育て（子どもの世話、教育など）】、【(3) 介護（親、病人の介護など）】、【(4) 自治会など地域行事への参加】、【(5) PTA活動や子どもの学校行事への参加】、の5つの分野で女性が男性を10ポイント以上上回っている。一方で、「共同して分担している」はすべての分野で男性が女性を上回っており、「主として男性が行っている」は【(8) 高額な商品や不動産の購入の決定】以外の7つの分野で男性が女性を上回っている。

性・年代別でみると、(1) 家事（炊事・洗濯・掃除など）について、「主として女性が行っている」は、女性では40歳代以上の年代で7割以上と高くなっており、男性では30歳代（37.0%）を除く年代で5割以上となっている。「共同して分担している」は、男女ともに30歳代が最も高くなっており、女性で30.2%、男性で37.0%となっている。

(2) 子育て（子どもの世話、教育など）について、男女ともにすべての年代で「主として女性が行っている」が最も高く、女性では4割半ばから5割後半で、男性では2割後半から4割強となっている。

(3) 介護（親、病人の介護など）について、女性はすべての年代で「主として女性が行っている」が高く、特に50歳代と60歳代で3割半ばと高くなっている。男性では「主として女性が行っている」と「共同して分担している」に女性ほどの差はなく、「主として女性が行っている」が30歳代から60歳代で女性よりも10ポイント以上低くなっている。

(4) 自治会など地域行事への参加について、女性はすべての年代で「主として女性が行っている」が最も高く、40歳代から60歳代では5割を超えている。男性は「主として男性が行っている」の割合が、30歳代以降年代が上がるにつれ増加しており、50歳代以上の年齢で「主として女性が行っている」よりも高い。

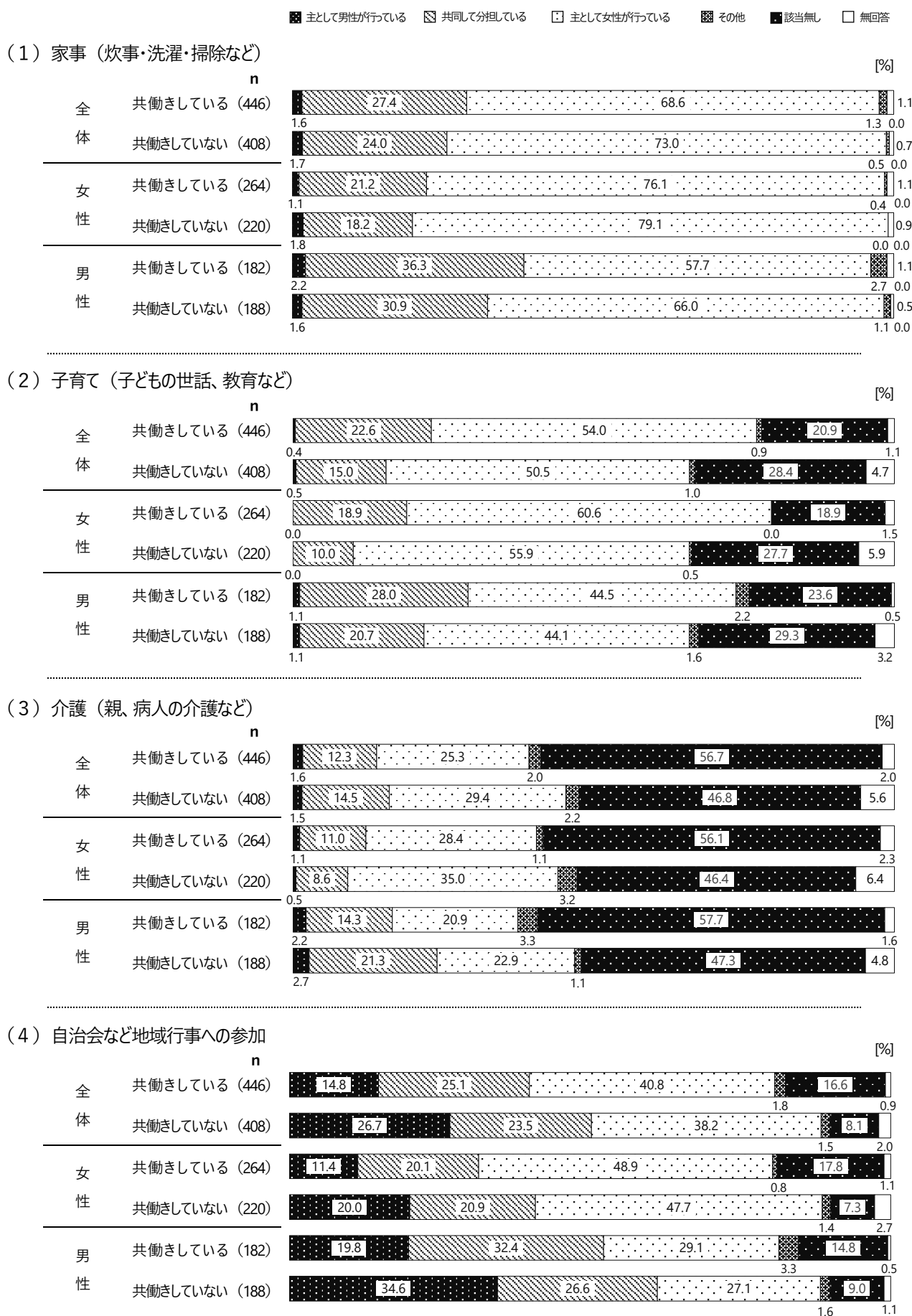
(5) PTA活動や子どもの学校行事への参加について、男女ともにすべての年代で「主として女性が行っている」の割合が最も高く、男女ともに40歳代で最高値、女性が66.0%、男性が46.0%となっている。

(6) 生活費の確保について、男性20歳代を除くすべての性・年代で「主として男性が行っている」の割合が最も高く、40歳代までは年代が上がるにつれ割合も増加し、40歳代で女性が51.7%、男性が59.8%の最高値となり、その後年代が上がるにつれ割合が減少している。

(7) 家計の管理について、男女ともにすべての年代で「主として女性が行っている」が最も高くなっている。男性よりも女性の方がその割合が高く、女性はすべての年代で5割を超えているのに対し男性は70歳以上（55.4%）のみである。

(8) 高額な商品や不動産の購入の決定について、20歳代で「共同して分担している」について男性（57.6%）が女性（33.9%）を23.7ポイント上回っている。（図表2-1-2）

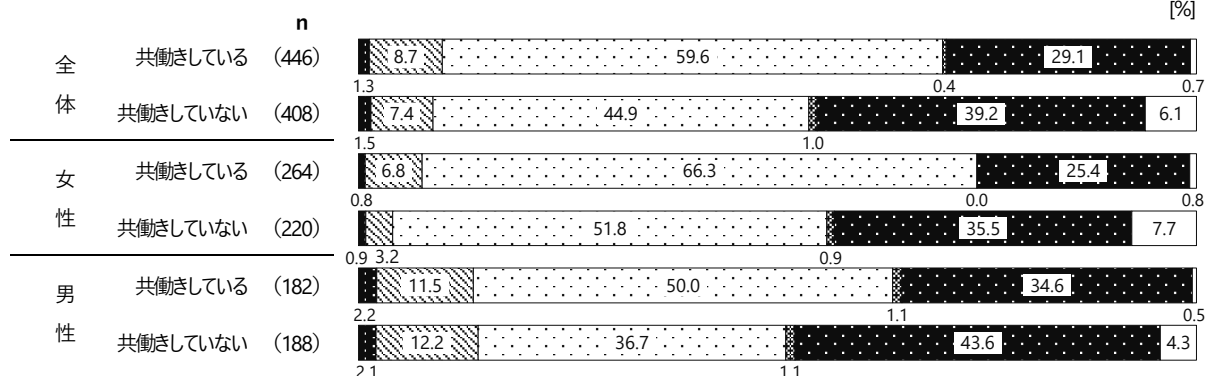
図表2-1-3 家庭生活での役割分担（性・共働きの有無別）



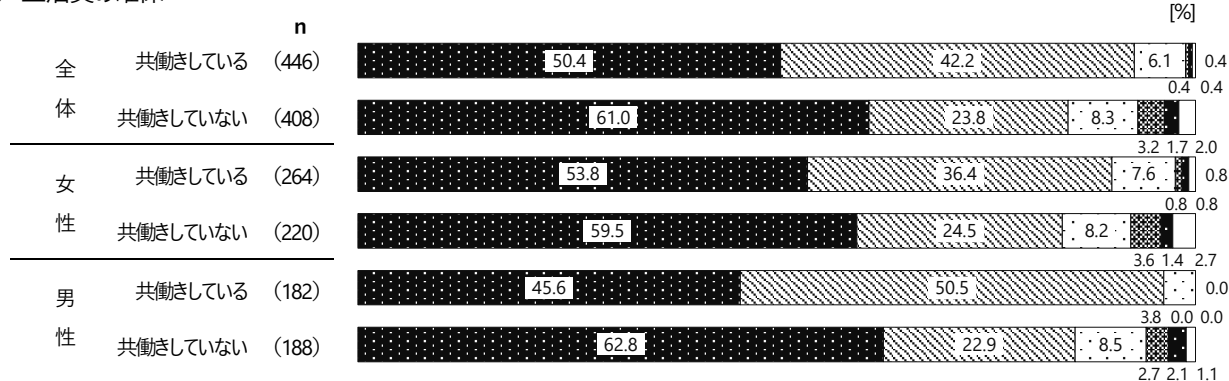
図表 2 - 1 - 3 家庭生活での役割分担（性・共働きの有無別） つづき

■ 主として男性が行っている ▨ 共同して分担している □ 主として女性が行っている ■ その他 ■ 該当無し □ 無回答

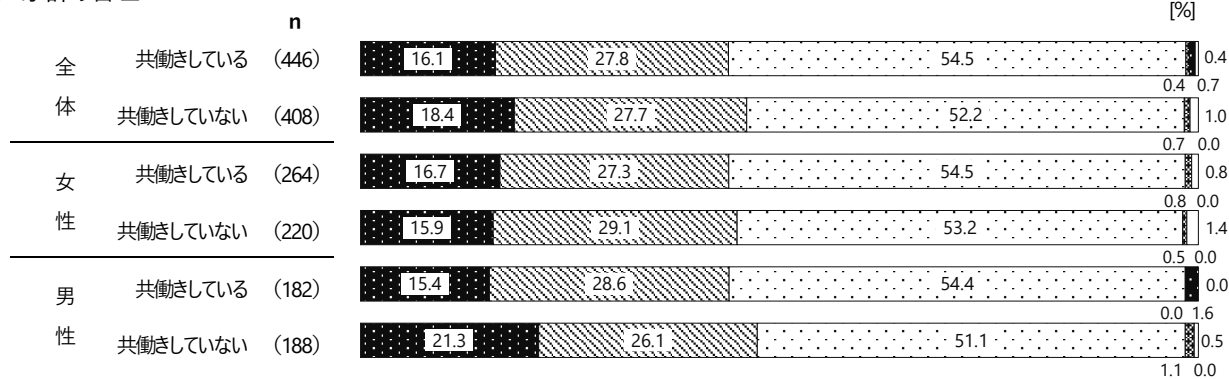
(5) P T A 活動や子どもの学校行事への参加



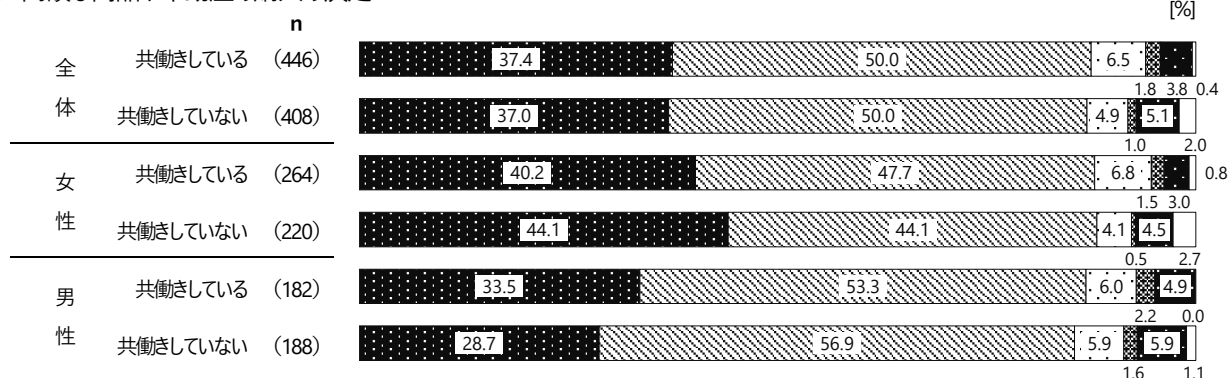
(6) 生活費の確保



(7) 家計の管理



(8) 高額な商品や不動産の購入の決定



家庭生活の役割分担を性・共働きの有無で比較すると、(1) 家事（炊事・洗濯・掃除など）について、男女ともに「共働きしている」に比べ「共働きしていない」の方が「主として女性が行っている」の割合が高く、「共同して分担している」の割合が低い。

(2) 子育て（子どもの世話、教育など）について、性・共働きの有無によらず「主として女性が行っている」が最も高くなっており、また、「共働きしていない」に比べ「共働きしている」の方が「共同して分担している」の割合が高い。

(3) 介護（親、病人の介護など）では、性・共働きの有無によらず「主として女性が行っている」の割合が「主として男性が行っている」及び「共同して分担している」よりも高くなっているが、男性の「共働きしていない」については「共同して分担している」が 21.3%、「主として女性が行っている」が 22.9%と、その割合に有意な差はない。

(4) 自治会など地域行事への参加について、全体でみると「主として男性が行っている」について「共働きしていない」(26.7%) が「共働きしている」(14.8%) よりも 11.9 ポイント高くなっている。性別でみると女性は共働きの有無によらず「主として女性が行っている」でおよそ 5 割近くで最も高くなっているが、男性では「共働きしている」で「共同して分担している」(32.4%)、「共働きしていない」では「主として男性が行っている」(34.6%) が最も高くなっている。

(5) PTA活動や子どもの学校行事への参加では、性・共働きの有無によらず「主として女性が行っている」が最も高くなっており、その割合は「共働きしていない」に比べ「共働きしている」の方が高くなっている。

(6) 生活費の確保では、男性の「共働きしている」を除いたすべてで「主として男性が行っている」が 5 割を超えて最も高い。男性の「共働きしている」は「共同して分担している」(50.5%) が 5 割を占め高くなっている。

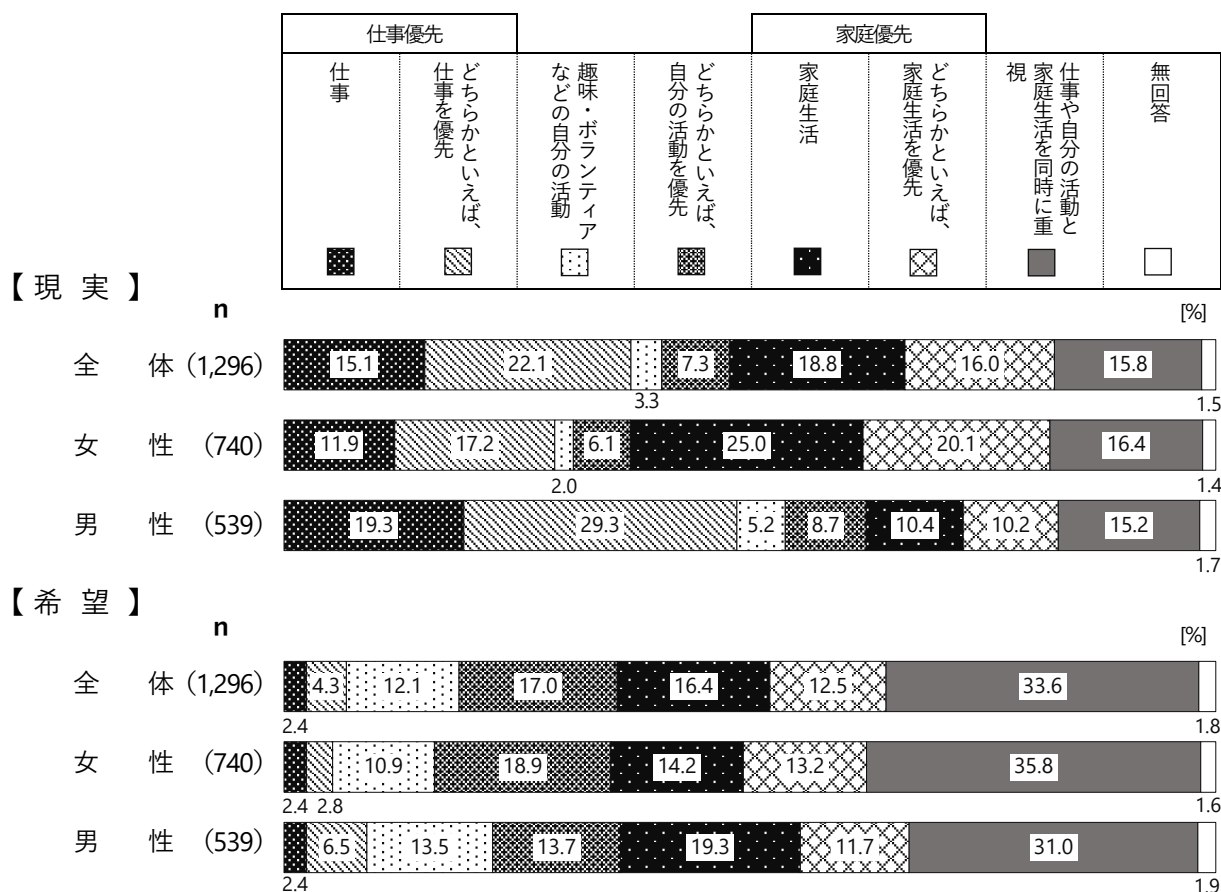
(7) 家計の管理では、性・共働きの有無によらず「主として女性が行っている」が 5 割を超えて最も高くなっている。

(8) 高額な商品や不動産の購入の決定は女性の「共働きしていない」を除いたすべてで「共同して分担している」が最も高い。女性の「共働きしていない」は「主として男性が行っている」(44.1%) と「共同して分担している」(44.1%) が高くなっている。(図表 2-1-3)

2-2 家庭生活の優先度

問4 家庭生活（家事・子育て・介護）、仕事、自分の活動の優先度についてうかがいます。あなたは、「現実」では何を優先していますか。また「希望」では何を優先したいですか。
（○はそれぞれ1つつ）

図表2-2-1 家庭生活の優先度（性別）



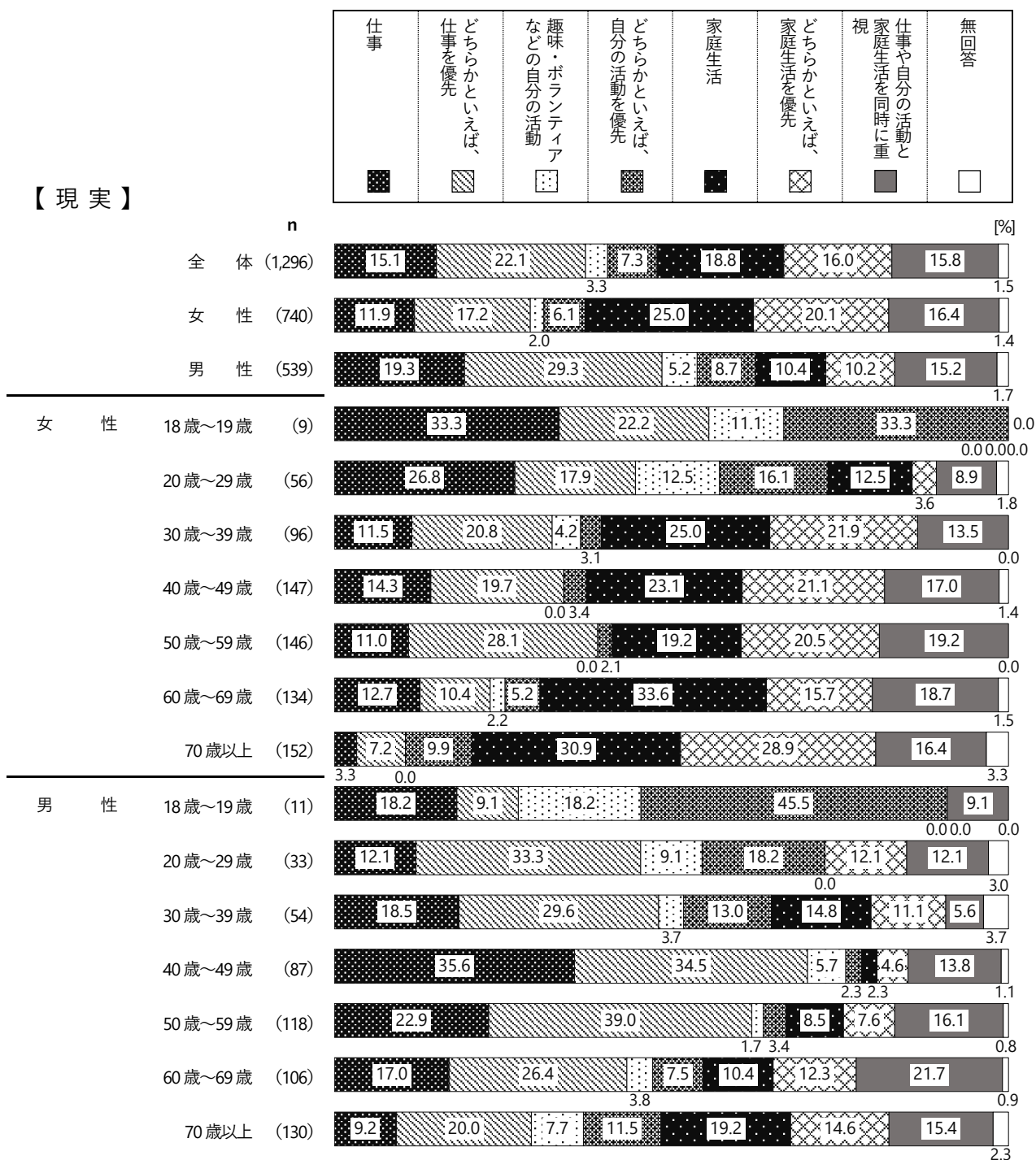
全体でみると、【現実】では「どちらかといえば、仕事を優先」(22.1%)が2割を超えて最も高く、次いで「家庭生活」(18.8%)、「どちらかといえば、家庭生活を優先」(16.0%)の順となっている。

【希望】では「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」が33.6%と3割を超えて最も高く、次いで「どちらかといえば、自分の活動を優先」(17.0%)、「家庭生活」(16.4%)の順となっている。

性別でみると、【現実】について、男性では「仕事」と「どちらかといえば、仕事を優先」を合わせた『仕事優先』の割合が48.6%と高く、女性(29.1%)を19.5ポイント上回っており、女性では「家庭生活」と「どちらかといえば、家庭生活を優先」を合わせた『家庭優先』が45.1%と高く、男性(20.6%)を24.5ポイント上回っている。

【希望】では、「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」が男女ともに最も高い。また、「どちらかといえば、自分の活動を優先」は女性(18.9%)が男性(13.7%)を5.2ポイント上回っており、「家庭生活」は男性(19.3%)が女性(14.2%)を5.1ポイント上回っている。(図表2-2-1)

図表 2-2-2 家庭生活の優先度（性・年代別）



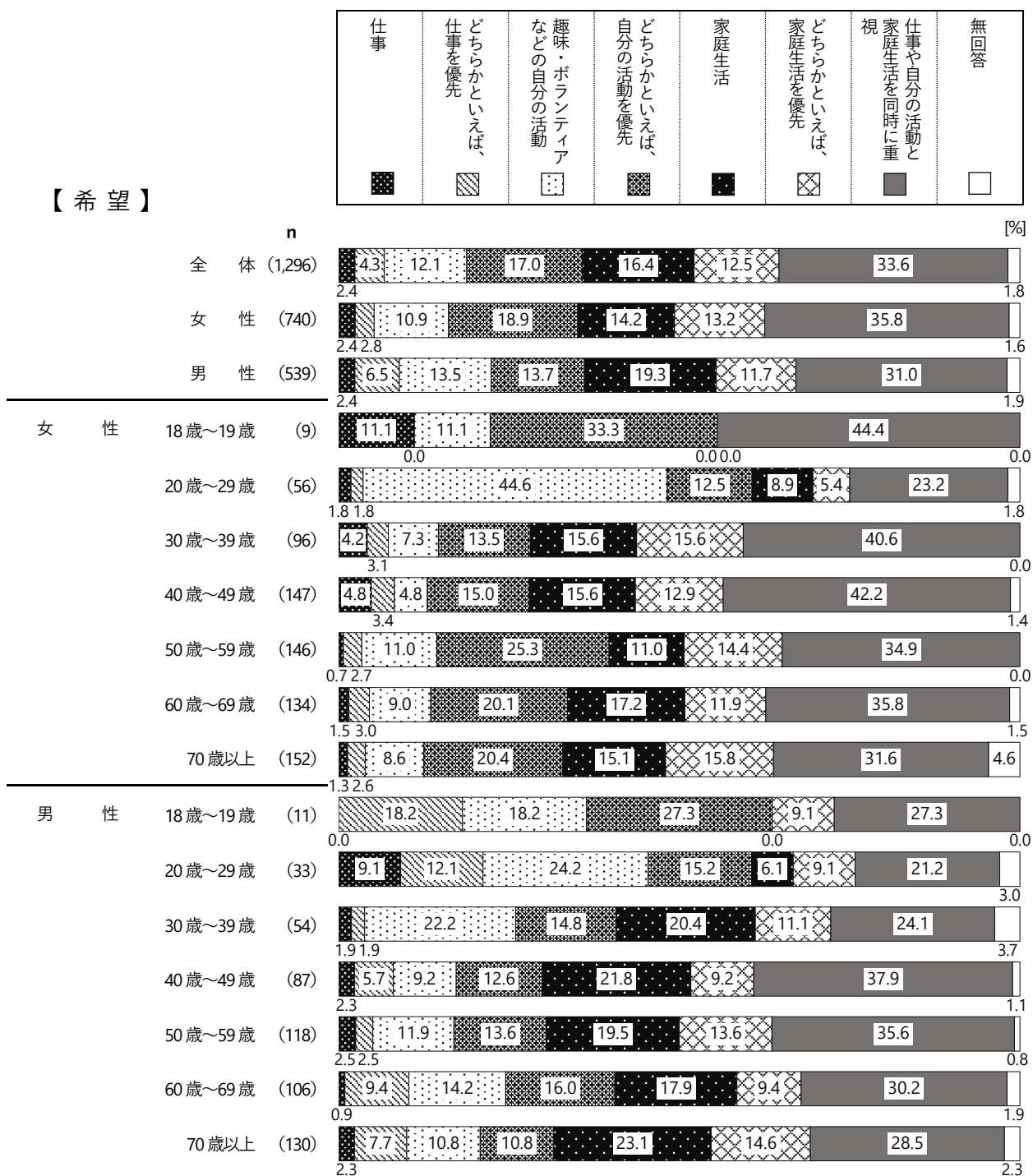
(※) nが30未満である女性18歳～19歳、男性18歳～19歳の結果は参考扱いとする。

【現実】について性・年代別にみると『仕事優先』は男性40歳代で70.1%、男性50歳代で61.9%、男性30歳代で48.1%の順で高くなっており、同年代の女性と比較するとそれぞれ、女性40歳代（34.0%）より36.1ポイント、女性50歳代（39.1%）より22.8ポイント、女性30歳代（32.3%）より15.8ポイント高くなっている。

『家庭優先』は女性70歳以上で59.8%、女性60歳代で49.3%、女性30歳代で46.9%の順で高くなっており、同年代の男性と比較するとそれぞれ、男性70歳以上（33.8%）より26.0ポイント、男性60歳代（22.7%）より26.6ポイント、男性30歳代（25.9%）より21.0ポイント高くなっている。

(図表 2-2-2)

図表 2 - 2 - 2 家庭生活の優先度（性・年代別） つづき



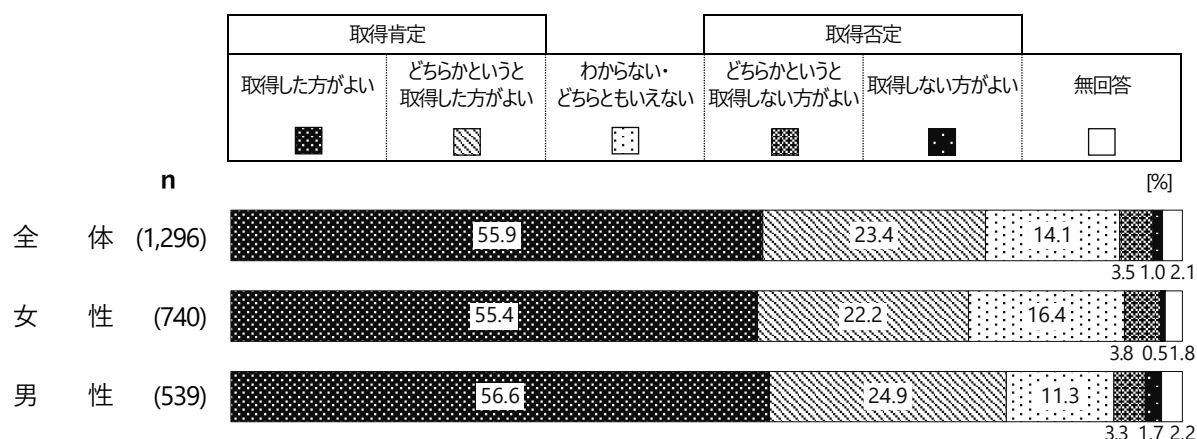
(※) nが30未満である女性18歳～19歳、男性18歳～19歳の結果は参考扱いとする。

【希望】について性・年代別にみると、男女ともに20歳代を除いたすべての年代で、「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」が最も高く、女性40歳代（42.2%）、女性30歳代（40.6%）、男性40歳代（37.9%）の順に高くなっている。（図表2-2-2）

2-3 男性が育児・介護休業を取得することについての考え

問5 育児や介護を行うために、法律に基づき育児休業や介護休業を取得できる制度があります。
この制度を活用して、男性が育児休業や介護休業を取得することについてどう思いますか。
(○は1つだけ)

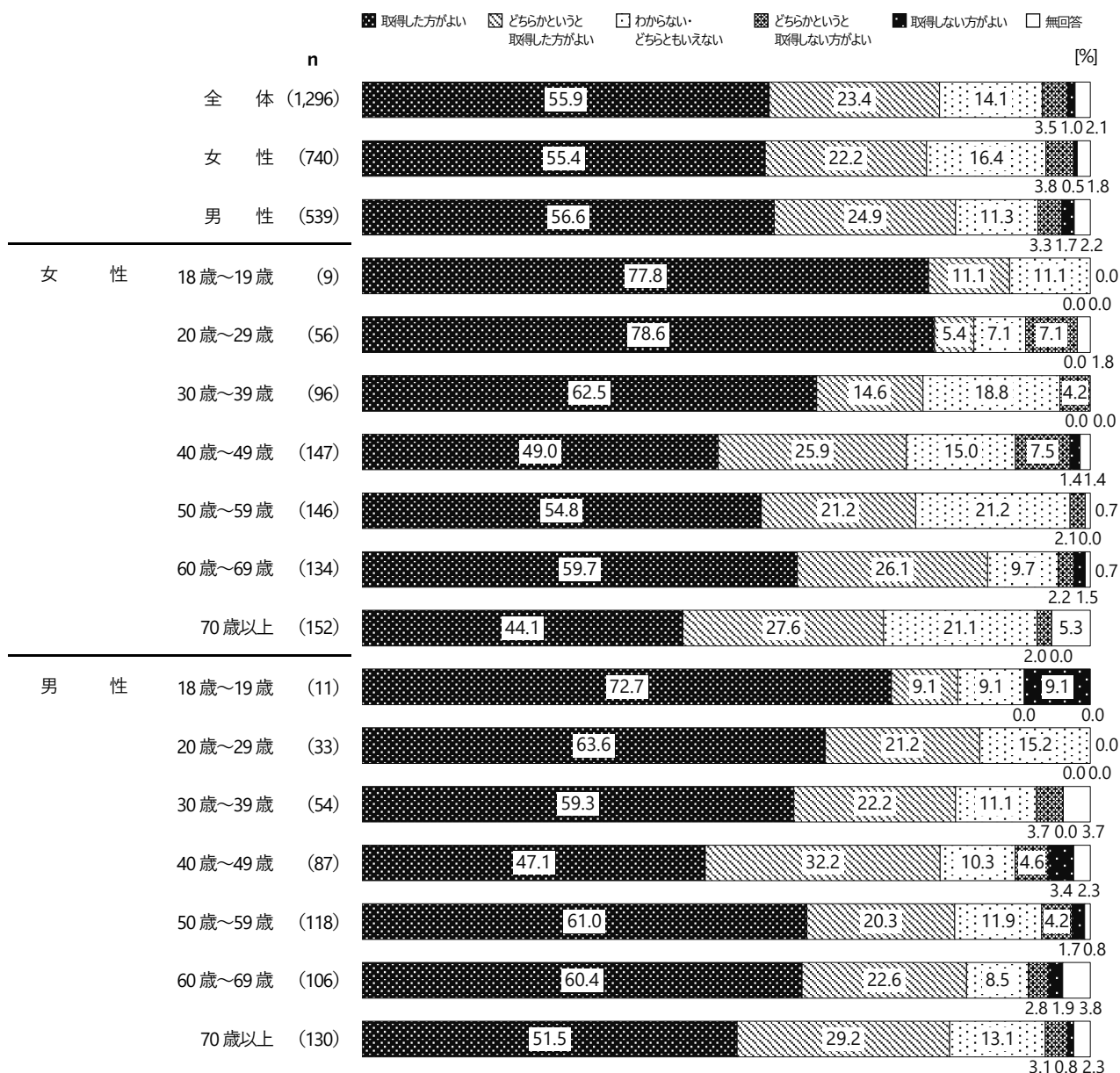
図表2-3-1 男性が育児・介護休業を取得することについての考え（性別）



全体でみると、「取得した方がよい」(55.9%)が最も高く、「どちらかというと取得した方がよい」(23.4%)と合わせた『取得肯定』(79.3%)が約8割と高くなっている。「わからない・どちらともいえない」は14.1%で、「どちらかというと取得しない方がよい」(3.5%)と「取得しない方がよい」(1.0%)を合わせた『取得否定』は4.5%となっている。

性別による大きな傾向の違いは見られない。(図表2-3-1)

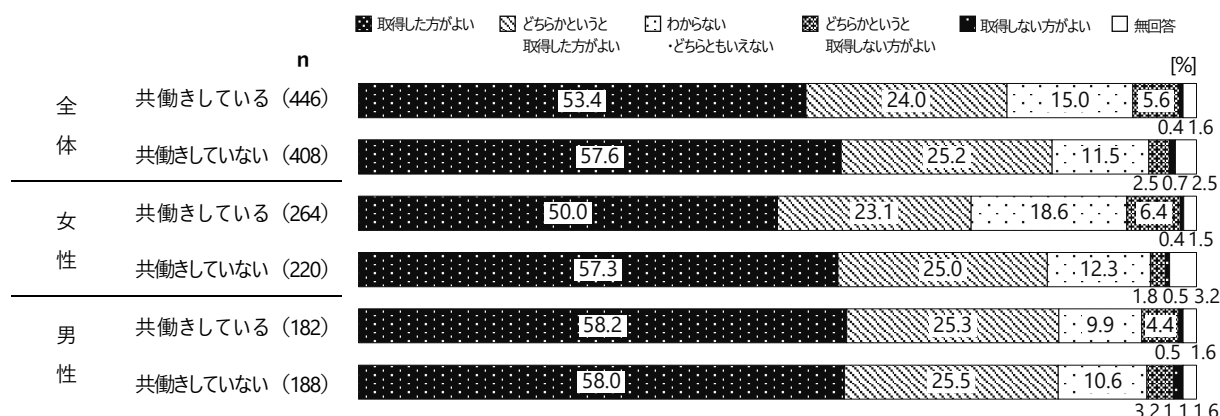
図表 2 - 3 - 2 男性が育児・介護休業を取得することについての考え（性・年代別）



(※) nが30未満である女性18歳～19歳、男性18歳～19歳の結果は参考扱いとする。

性・年代別でみると、『取得肯定』は女性60歳代（85.8%）が最も高く、男性20歳代（84.8%）、女性20歳代（84.0%）、男性60歳代（83.0%）の順で高くなっている。（図表2-3-2）

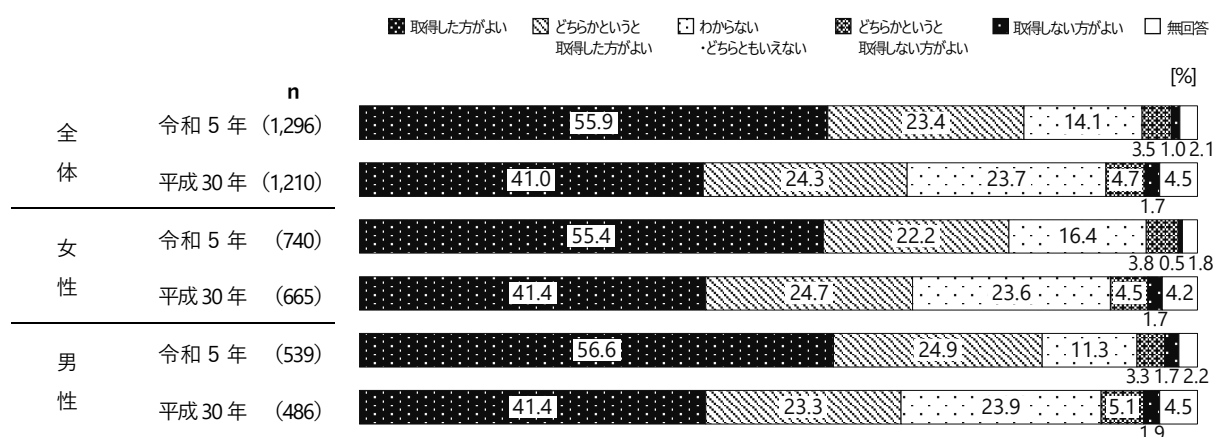
図表 2 - 3 - 3 男性が育児・介護休業を取得することについての考え（性・共働きの有無別）



性・共働きの有無別でみると、『取得肯定』について、女性では共働きしていない（82.3%）が共働きしている（73.1%）を9.2ポイント上回っているが、男性では共働きの有無で大きな傾向の差は見られない。

（図表 2 - 3 - 3）

図表 2 - 3 - 4 男性が育児・介護休業を取得することについての考え（前回調査との比較）



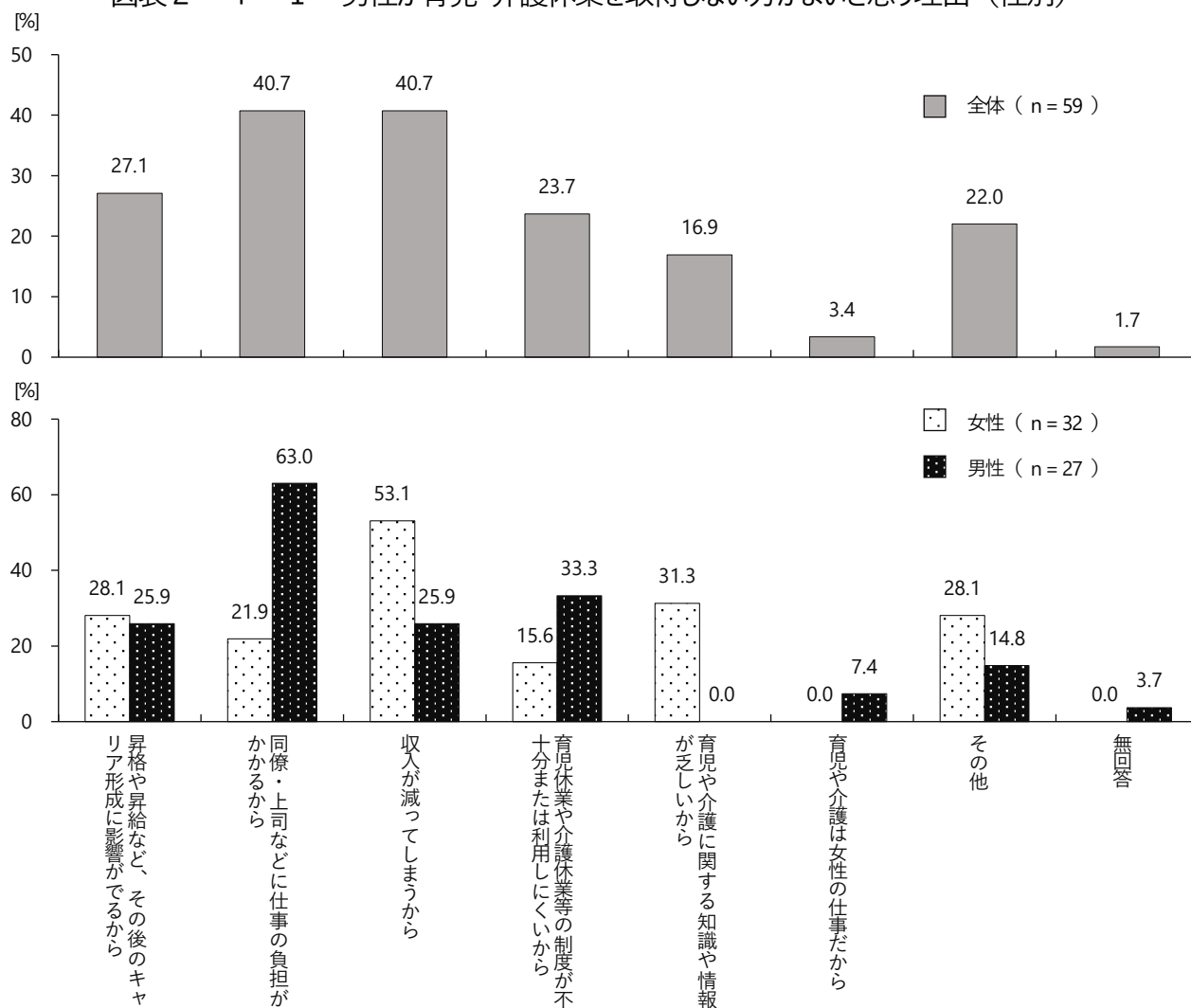
※平成 30 年の調査結果は育児休業の取得についての回答結果である。

前回調査との比較を見ると、『取得肯定』について全体・男女別ともに前回調査から増加しており、増加幅は、男性（81.5%）が平成 30 年（64.7%）から 16.8 ポイントで最も大きい。（図表 2 - 3 - 4）

2-4 男性が育児・介護休業を取得しない方がよいと思う理由

(問5で「4. どちらかというとな取得しない方がよい」「5. 取得しない方がよい」とお答えの方に)
 問5-1 男性が育児休業や介護休業を取得しない方がよいと思う理由は何ですか。
 (○は2つまで)

図表2-4-1 男性が育児・介護休業を取得しない方がよいと思う理由(性別)



(※) nが30未満である男性は参考扱いとする。

全体でみると、「同僚・上司などに仕事の負担がかかるから」と「収入が減ってしまうから」がともに40.7%で最も高く、次いで「昇格や昇給など、その後のキャリア形成に影響がでるから」(27.1%)、「育児休業や介護休業等の制度が不十分または利用しにくいから」(23.7%)の順となっている。(図表2-4-1)

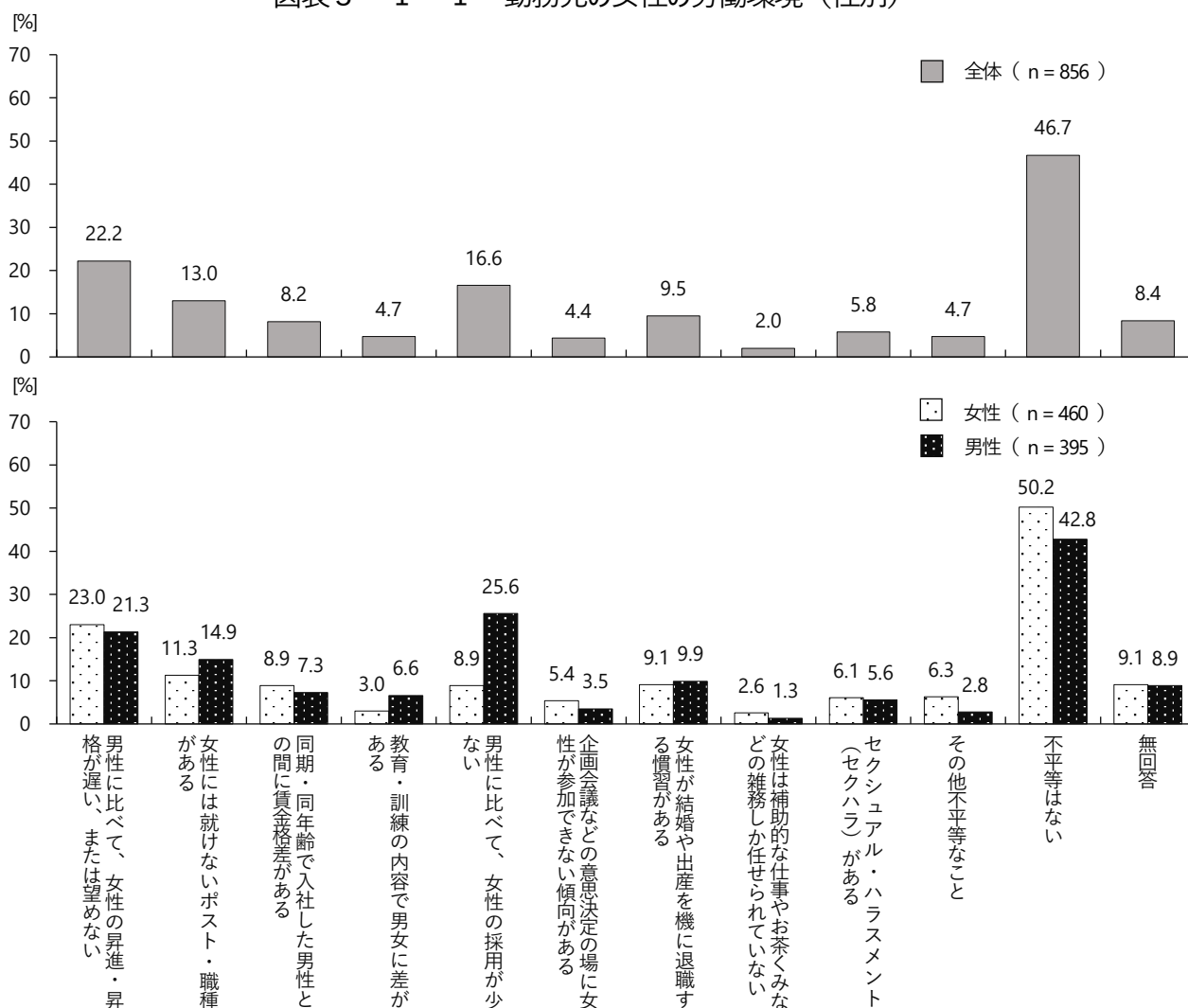
3. 仕事について

3-1 勤務先の女性の労働環境

(現在、就労されている方にお聞きします)

問6 あなたの働いている所では、仕事の内容や待遇面で、女性に対して次のような不平等なことがありますか。(〇はあてはまるものすべて)

図表3-1-1 勤務先の女性の労働環境(性別)

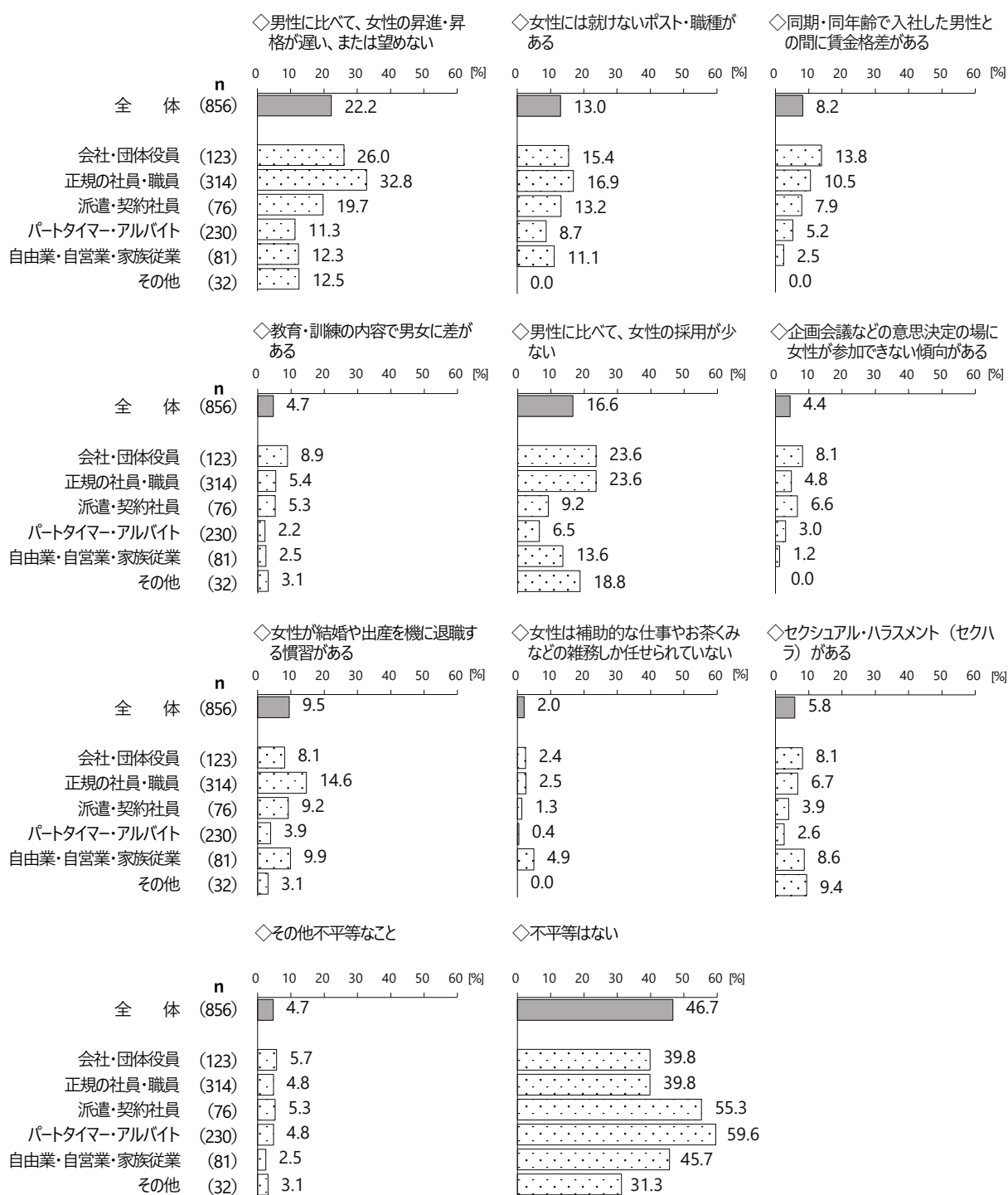


全体でみると、「不平等はない」(46.7%)が4割半ばを超えている。不平等なことでは「男性に比べて、女性の昇進・昇格が遅い、または望めない」(22.2%)が2割を超えて最も高くなっており、次いで、「男性に比べて、女性の採用が少ない」(16.6%)、「女性には就けないポスト・職種がある」(13.0%)、の順となっている。

性別で見ると、「不平等はない」は女性(50.2%)が男性(42.8%)を7.4ポイント上回っている。「男性に比べて、女性の採用が少ない」は男性(25.6%)が女性(8.9%)を16.7ポイント上回っている。

(図表3-1-1)

図表 3-1-2 勤務先の女性の労働環境（職業別）



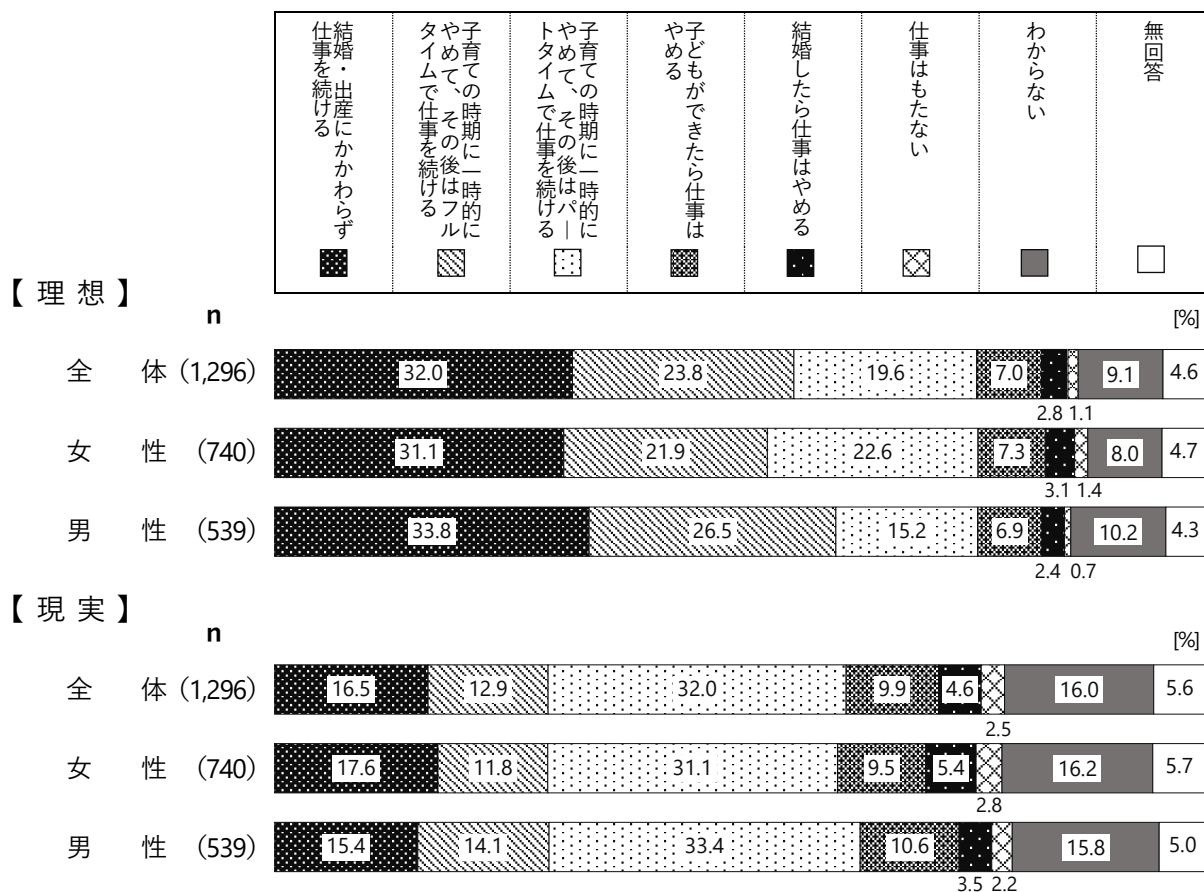
職業別でみると、「男性に比べて、女性の昇進・昇格が遅い、または望めない」は正規の社員・職員で 32.8%と高くなっている。「男性に比べて、女性の採用が少ない」は会社・団体役員と正規の社員・職員でともに 23.6%と高くなっている。(図表 3-1-2)

3-2 女性の働き方の理想と現実

問7 あなたは、女性の働き方について、「理想」は次のうちどれですか。

また、あなた自身について（男性の場合は配偶者・パートナーを想定して）、「現実」にはどうですか（どうでしたか）。（○はそれぞれ1つずつ）

図表3-2-1 女性の働き方の理想と現実（性別）



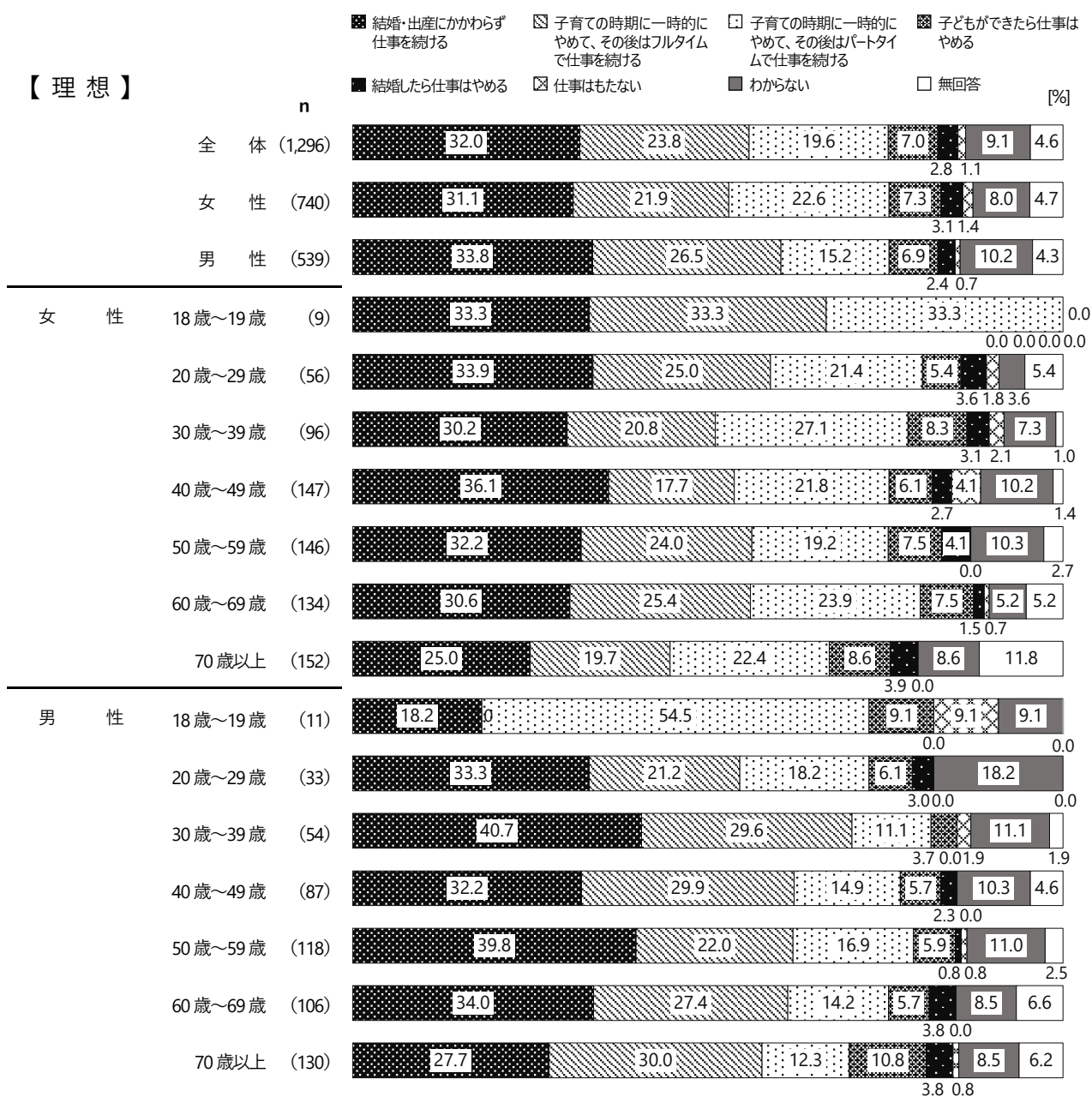
全体でみると、【理想】では「結婚・出産にかかわらず仕事を続ける」(32.0%)が3割を超えて最も高く、次いで「子育ての時期に一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事を続ける」(23.8%)、「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」(19.6%)の順となっている。

【現実】では「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」(32.0%)が3割を超えて最も高く、「結婚・出産にかかわらず仕事を続ける」(16.5%)と「子育ての時期に一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事を続ける」(12.9%)はそれぞれ理想の約半数となっている。

性別でみると、【理想】では「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」で女性(22.6%)が男性(15.2%)を7.4ポイント上回っている。

【現実】では大きな傾向の違いは見られない。(図表3-2-1)

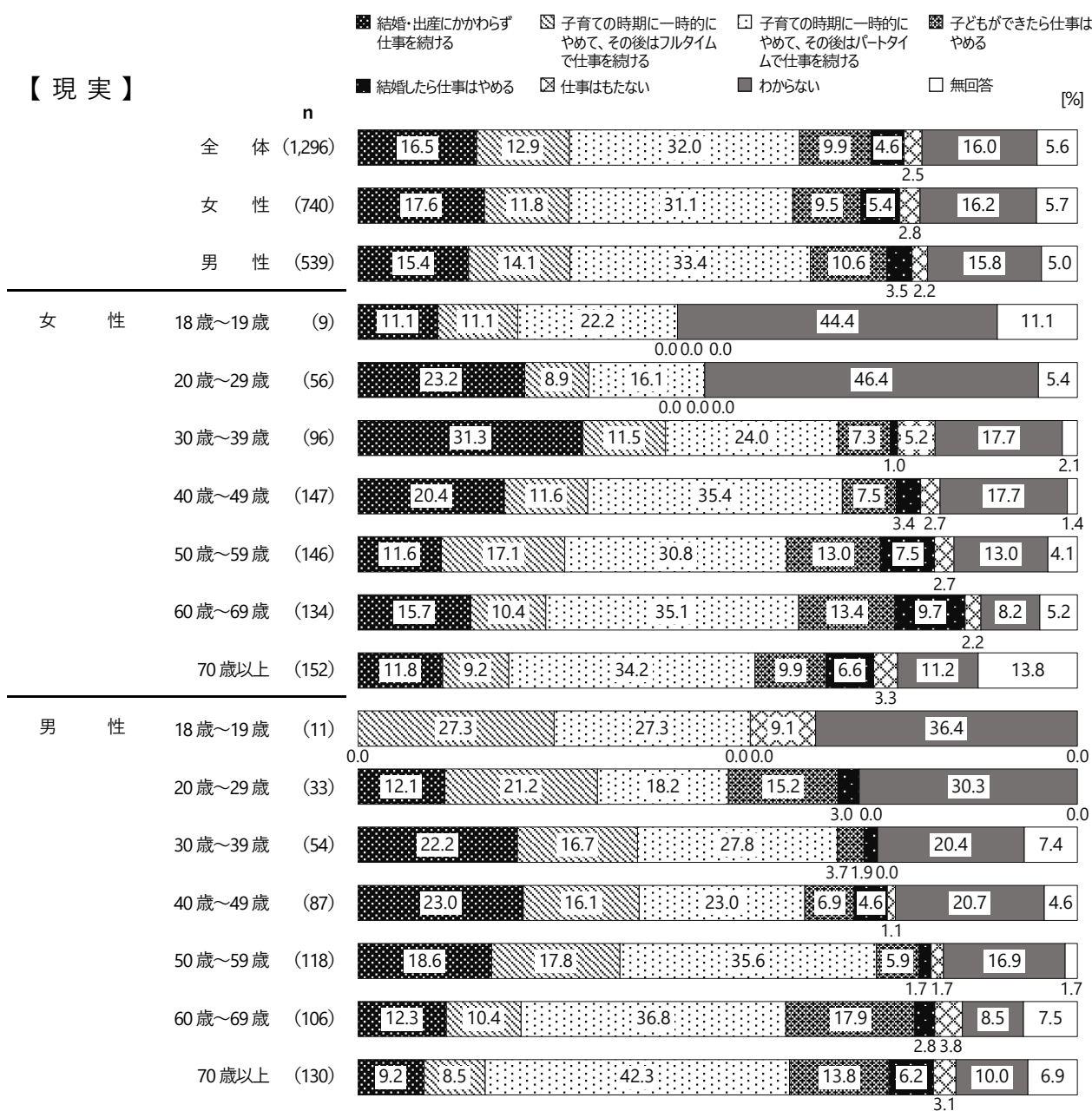
図表 3 - 2 - 2 女性の働き方の理想と現実（性・年代別）



(※) nが30未満である女性18歳～19歳、男性18歳～19歳の結果は参考扱いとする。

【理想】について性・年代別にみると、「結婚・出産にかかわらず仕事を続ける」は男性30歳代で40.7%と最も高く、次いで男性50歳代で39.8%、女性40歳代で36.1%の順となっている。男女間で最も大きな差があるのは「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」で、女性30歳代(27.1%)が男性30歳代(11.1%)を16.0ポイント上回っている。(図表3-2-2)

図表 3-2-2 女性の働き方の理想と現実（性・年代別） つづき



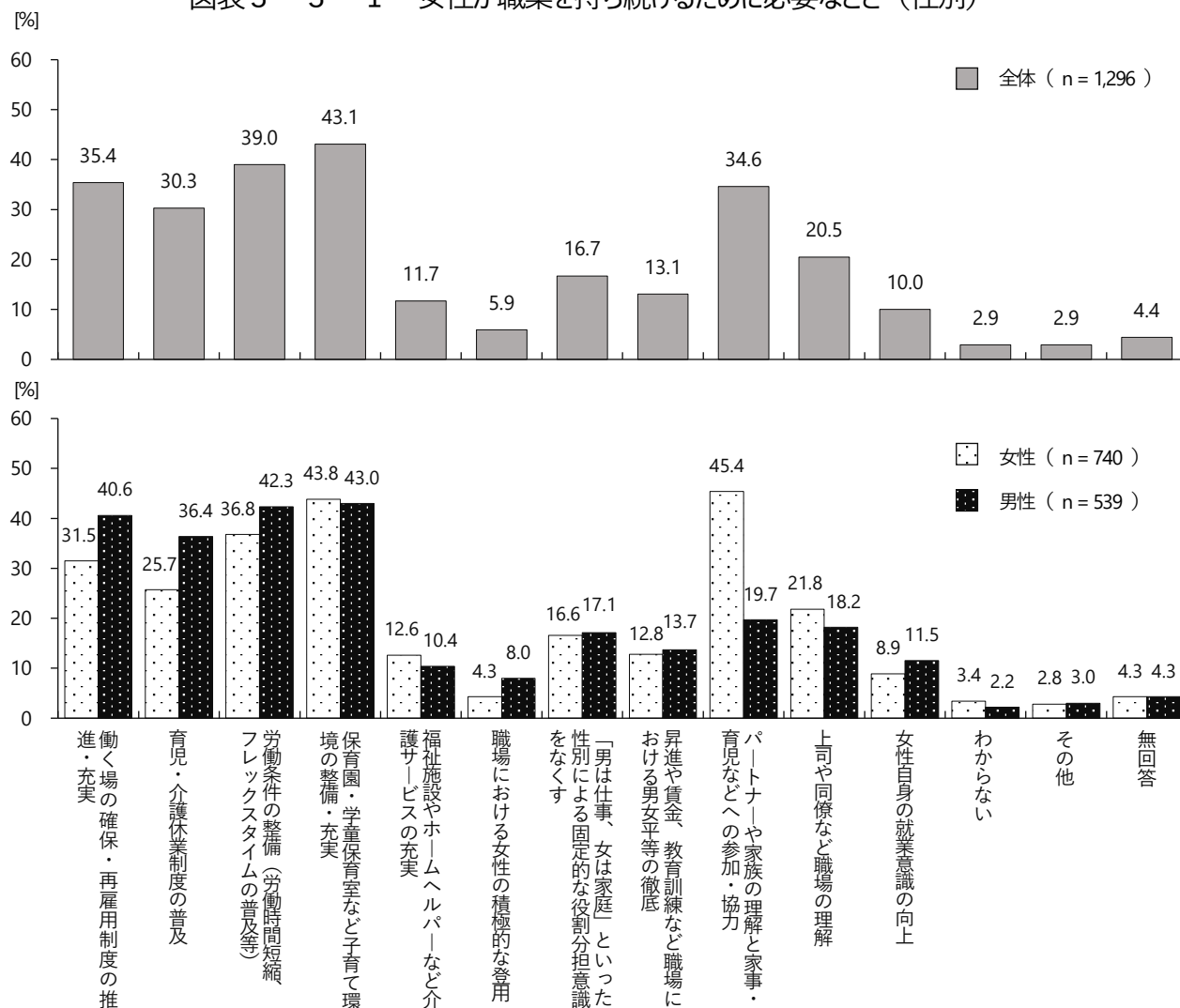
(※) nが30未満である女性18歳～19歳、男性18歳～19歳の結果は参考扱いとする。

【現実】について性・年代別でみると、「結婚・出産にかかわらず仕事を続ける」は女性30歳代(31.3%)で約3割と高くなっている。「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」は、男性70歳以上で42.3%と4割を超えて最も高く、次いで男性60歳代で36.8%、男性50歳代で35.6%の順となっている。(図表3-2-2)

3-3 女性が職業を持ち続けるために必要なこと

問8 あなたは、女性が職業を持ち続けるためには、どのようなことが必要だとお考えですか。
(〇は3つまで)

図表3-3-1 女性が職業を持ち続けるために必要なこと（性別）



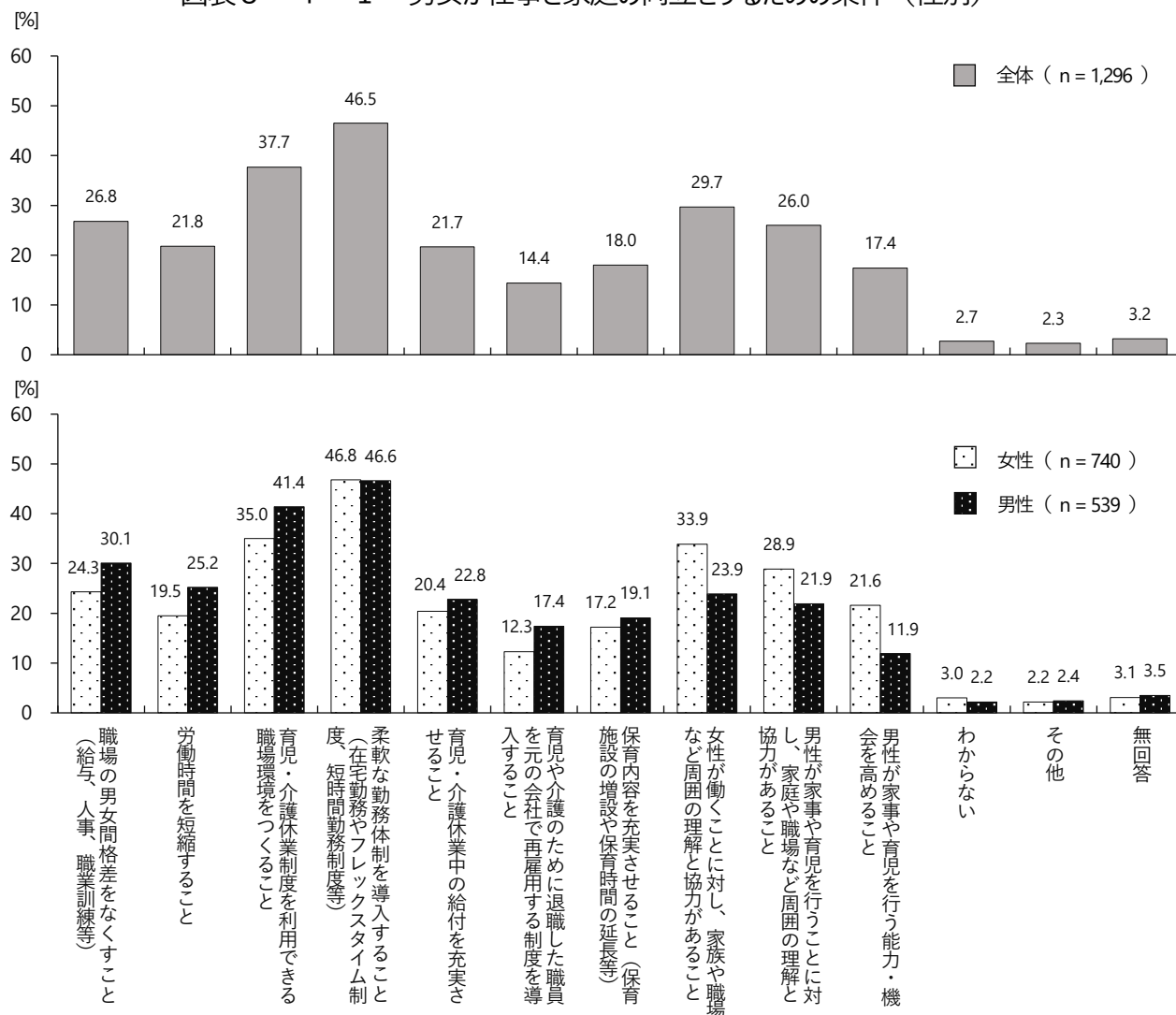
全体でみると、「保育園・学童保育室など子育て環境の整備・充実」（43.1%）が4割を超えて最も高く、次いで「労働条件の整備（労働時間短縮、フレックスタイムの普及等）」（39.0%）、「働く場の確保・再雇用制度の推進・充実」（35.4%）の順となっている。

性別でみると、男女間で最も大きな差があるのは「パートナーや家族の理解と家事・育児などへの参加・協力」で、女性（45.4%）が男性（19.7%）を25.7ポイント上回っている。一方で「働く場の確保・再雇用制度の推進・充実」で女性（31.5%）、男性（40.6%）と、男性が女性を9.1ポイント上回っており、「育児・介護休業制度の普及」で女性（25.7%）、男性（36.4%）と、男性が女性を10.7ポイント上回っている。（図表3-3-1）

3-4 男女が仕事と家庭の両立をするための条件

問9 あなたは、男女が共に仕事と家庭の両立をしていくために、どのような条件が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

図表3-4-1 男女が仕事と家庭の両立をするための条件（性別）



全体でみると、「柔軟な勤務体制を導入すること(在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度等)」(46.5%)が4割半ばを超えて最も高く、次いで、「育児・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」(37.7%)、「女性が働くことに対し、家族や職場など周囲の理解と協力があること」(29.7%)の順となっている。

性別でみると、「女性が働くことに対し、家族や職場など周囲の理解と協力があること」は女性(33.9%)が男性(23.9%)を10.0ポイント上回っている。「男性が家事や育児を行う能力・機会を高めること」は女性(21.6%)が男性(11.9%)を9.7ポイント上回っている。「男性が家事や育児を行うことに対し、家庭や職場など周囲の理解と協力があること」は女性(28.9%)が男性(21.9%)を7.0ポイント上回っている。

(図表3-4-1)

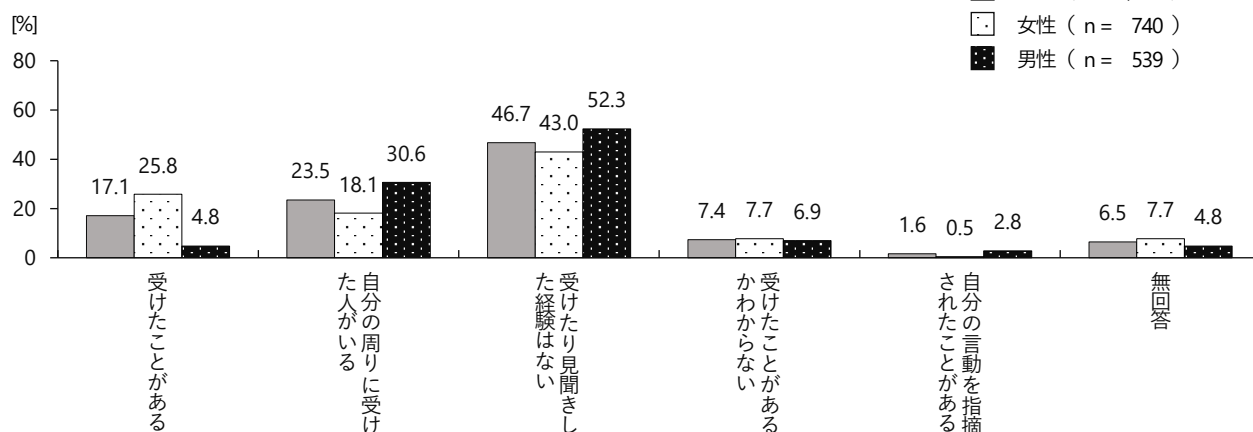
4. 人権・暴力について

4-1 ハラスメント被害の経験について

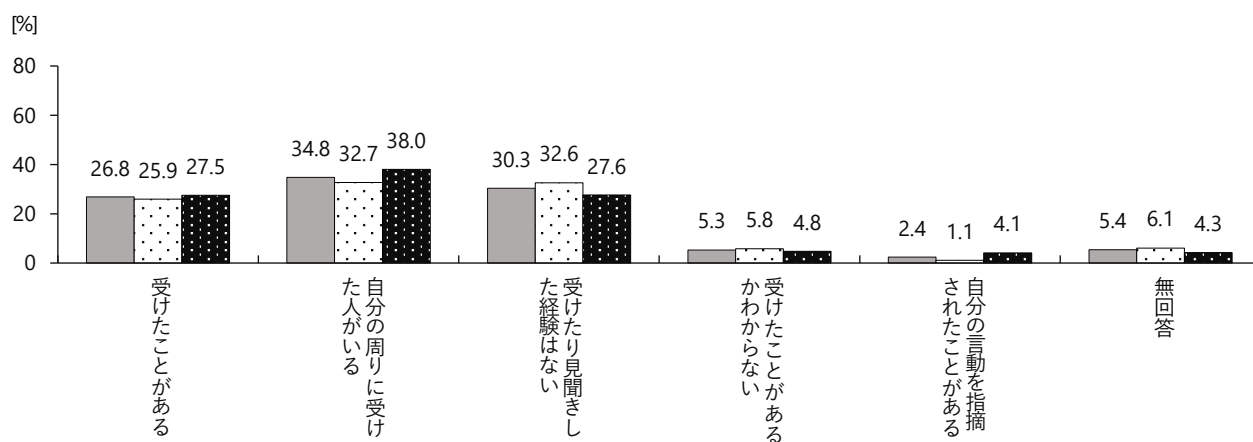
問10 次の(1)～(6)のハラスメントについて、あなた自身やあなたの周りで、被害を受けたり、見聞きした経験がありますか。(〇はそれぞれあてはまるものすべて)

図表4-1-1 ハラスメント被害の経験について(性別)

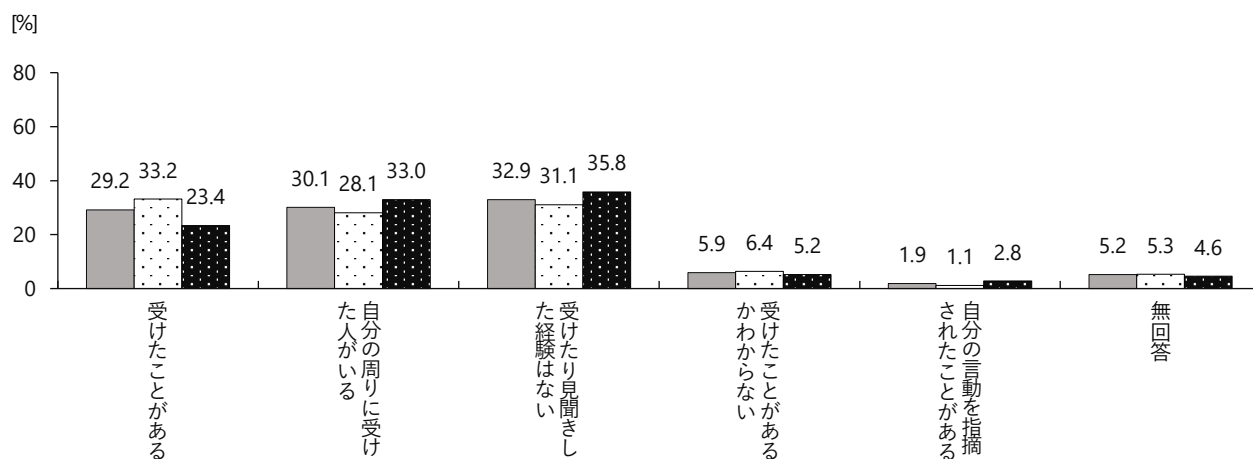
(1) セクシュアル・ハラスメント



(2) パワー・ハラスメント

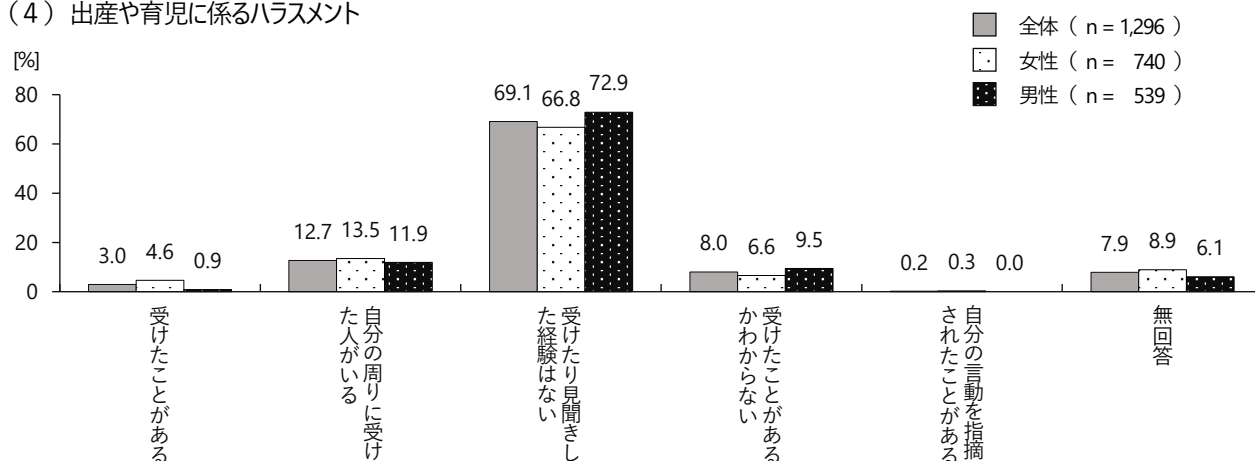


(3) モラル・ハラスメント

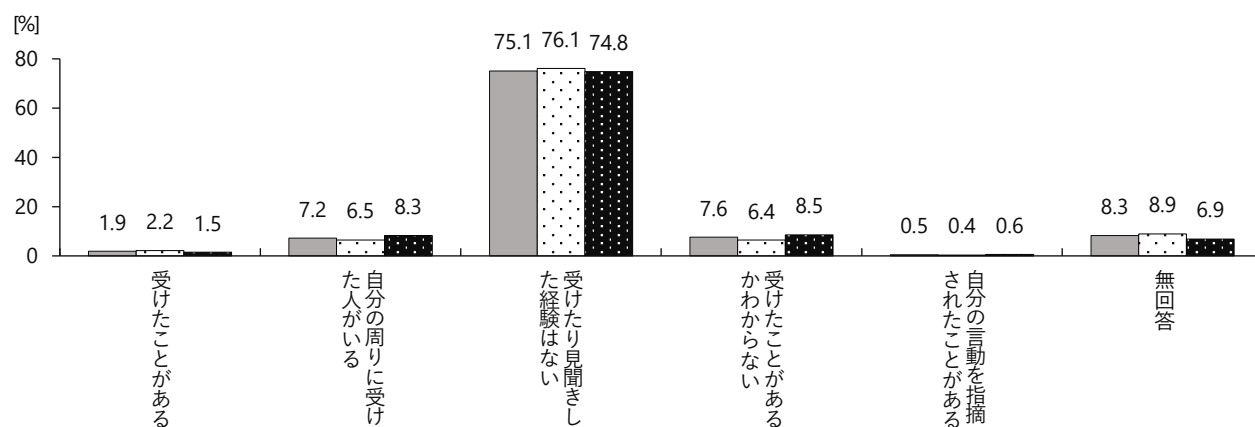


図表4－1－1 ハラスメント被害の経験について つづき

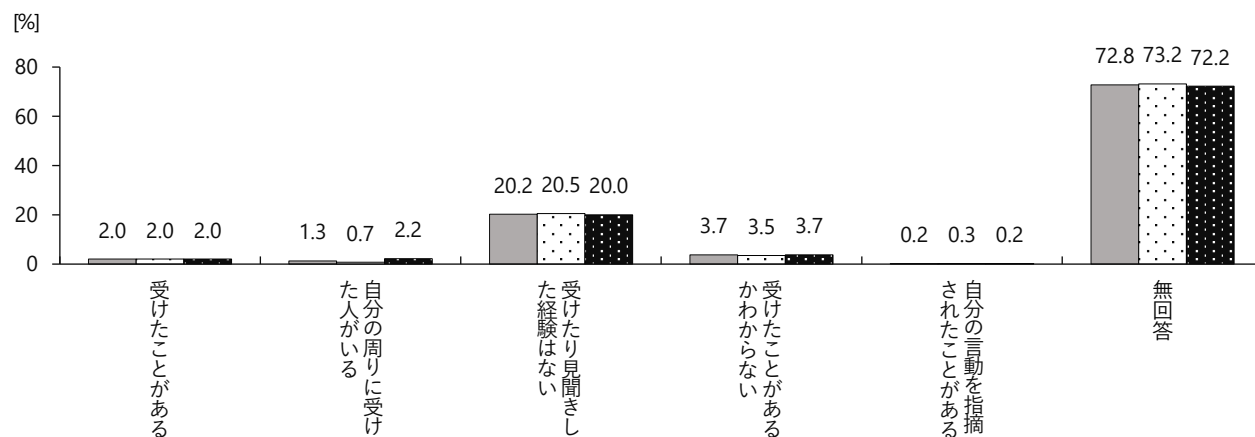
(4) 出産や育児に係るハラスメント



(5) 性的指向・性自認に係るハラスメント



(6) その他のハラスメント

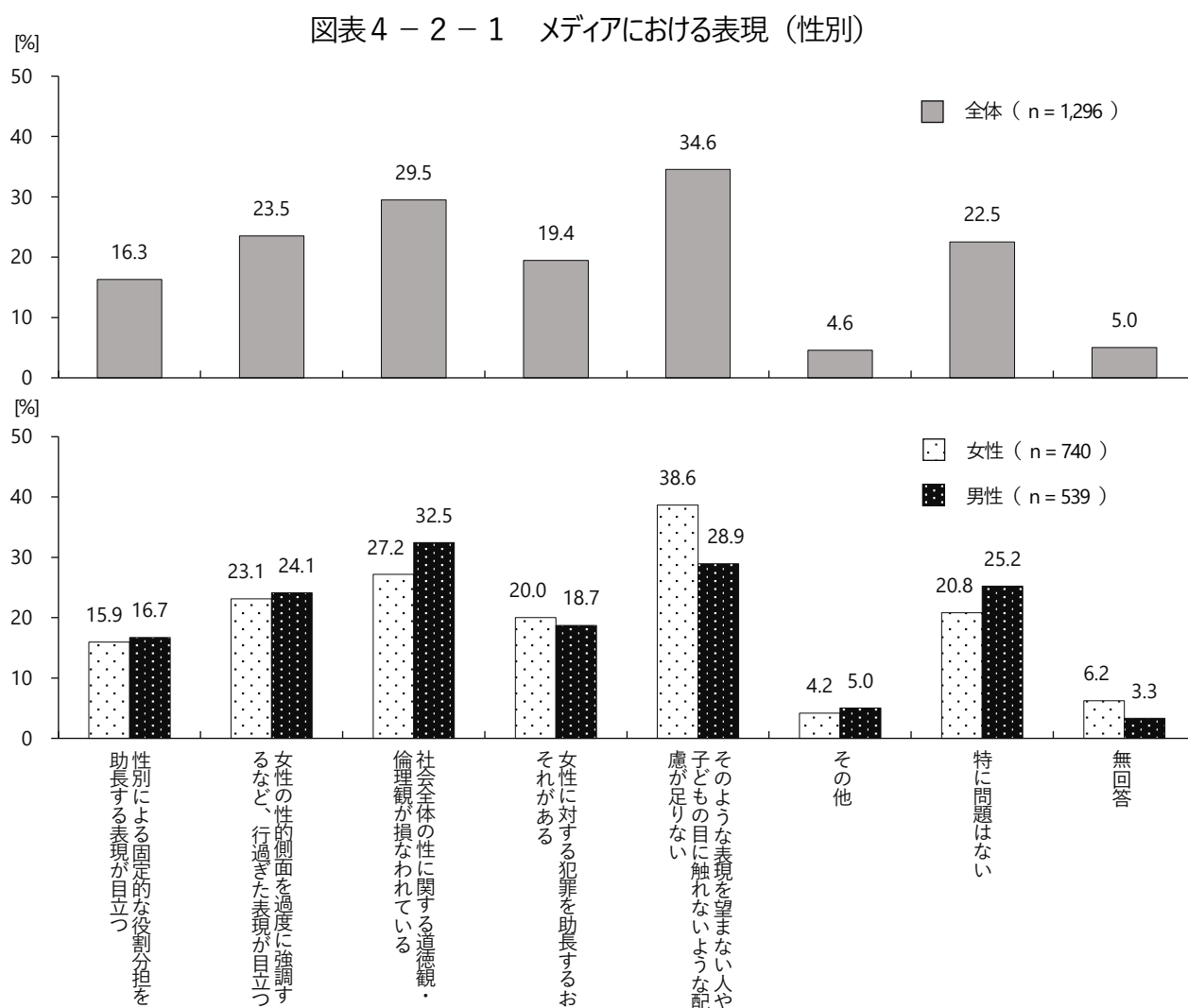


全体でみると「受けたことがある」は【(3) モラル・ハラスメント】(29.2%) が最も高く、次いで【(2) パワー・ハラスメント】(26.8%)、【(1) セクシュアル・ハラスメント】(17.1%) の順となっている。

性別でみると、【(1) セクシュアル・ハラスメント】について、「受けたことがある」は女性 (25.8%) が男性 (4.8%) を 21.0 ポイント上回っており、【(3) モラル・ハラスメント】でも女性 (33.2%) が男性 (23.4%) を 9.8 ポイント上回っている。(図表4－1－1)

4-2 メディアにおける表現

問 11 テレビ、映画、新聞、雑誌、インターネットなどメディアでの性別による固定的な役割分担の表現や、女性に対する暴力、性の表現について、あなたはどのように考えますか。
(○はあてはまるものすべて)



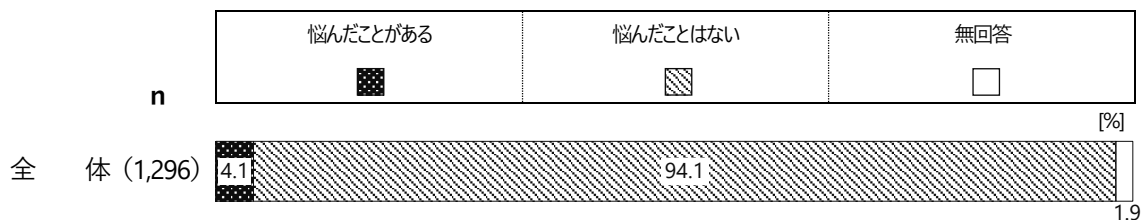
全体でみると「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」(34.6%)が3割半ばで最も高く、次いで「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」(29.5%)、「女性の性的側面を過度に強調するなど、行過ぎた表現が目立つ」(23.5%)の順となっている。

性別でみると、女性では「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」が38.6%で最も高く、男性(28.9%)を9.7ポイント上回っている。男性では「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」が32.5%で最も高くなっている。(図表4-2-1)

4-3 自身の性についての悩み

問12 あなたは自分自身の性（性的指向、性自認等）について悩んだ経験はありますか。
 (○は1つだけ)

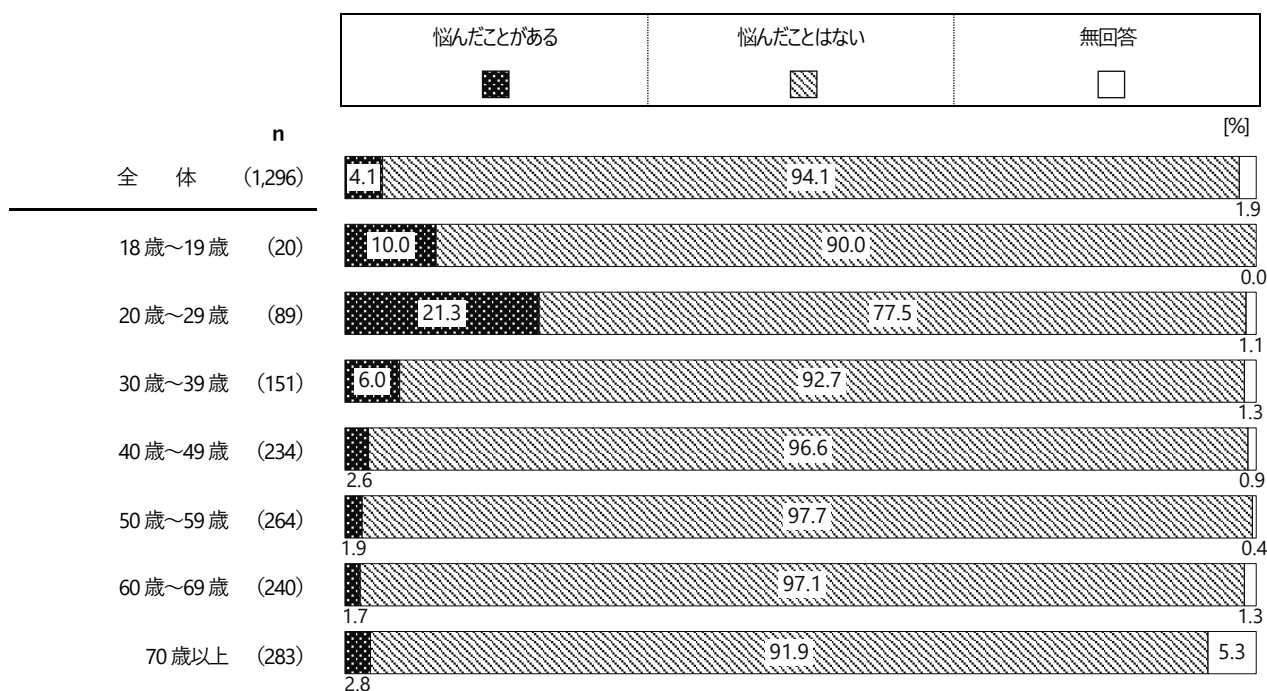
図表4-3-1 自身の性についての悩み



全体でみると、「悩んだことがある」が4.1%、「悩んだことはない」が94.1%となっている。

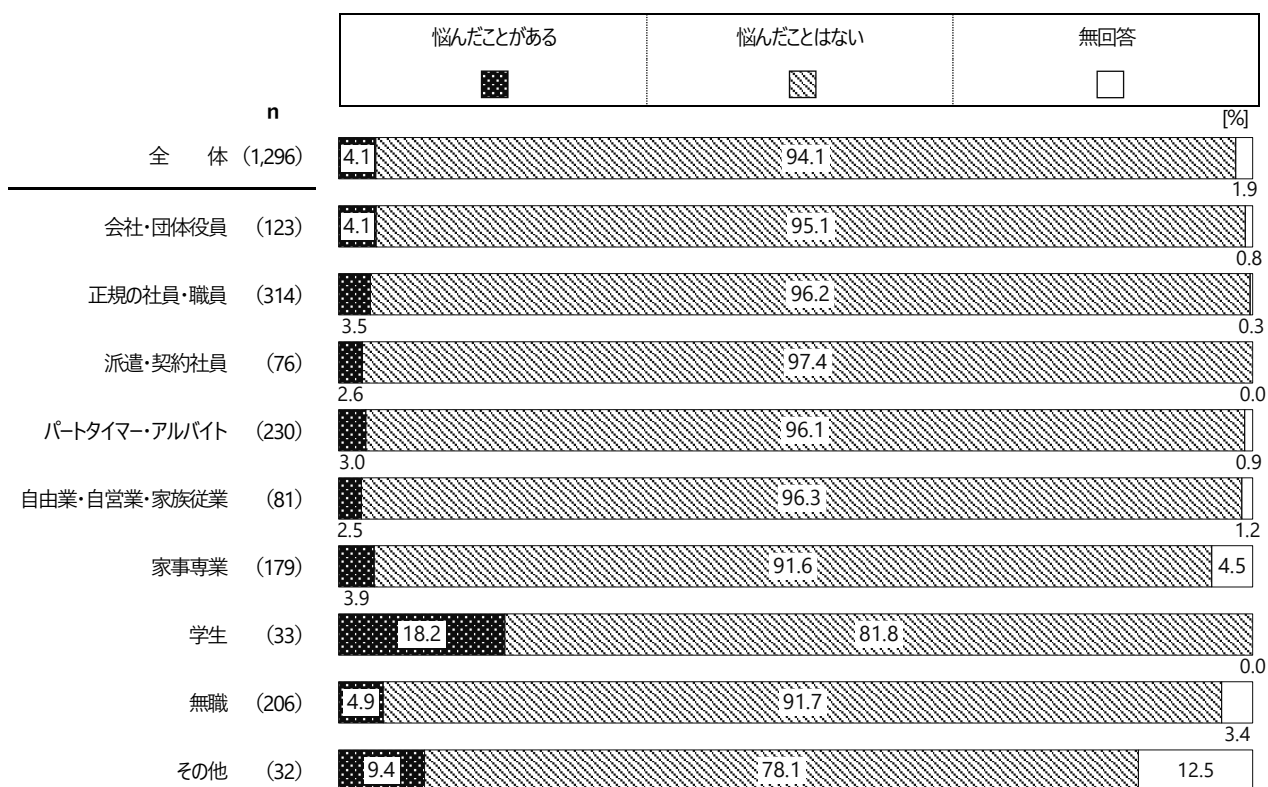
(図表4-3-1)

図表4－3－2 自身の性についての悩み（年代別）



年代別でみると、「悩んだことがある」は 20 歳代（21.3%）が約 2 割で最も高くなっており、次いで 30 歳代（6.0%）、70 歳以上（2.8%）の順となっている。（図表 4－3－2）

図表4－3－3 自身の性についての悩み（職業別）

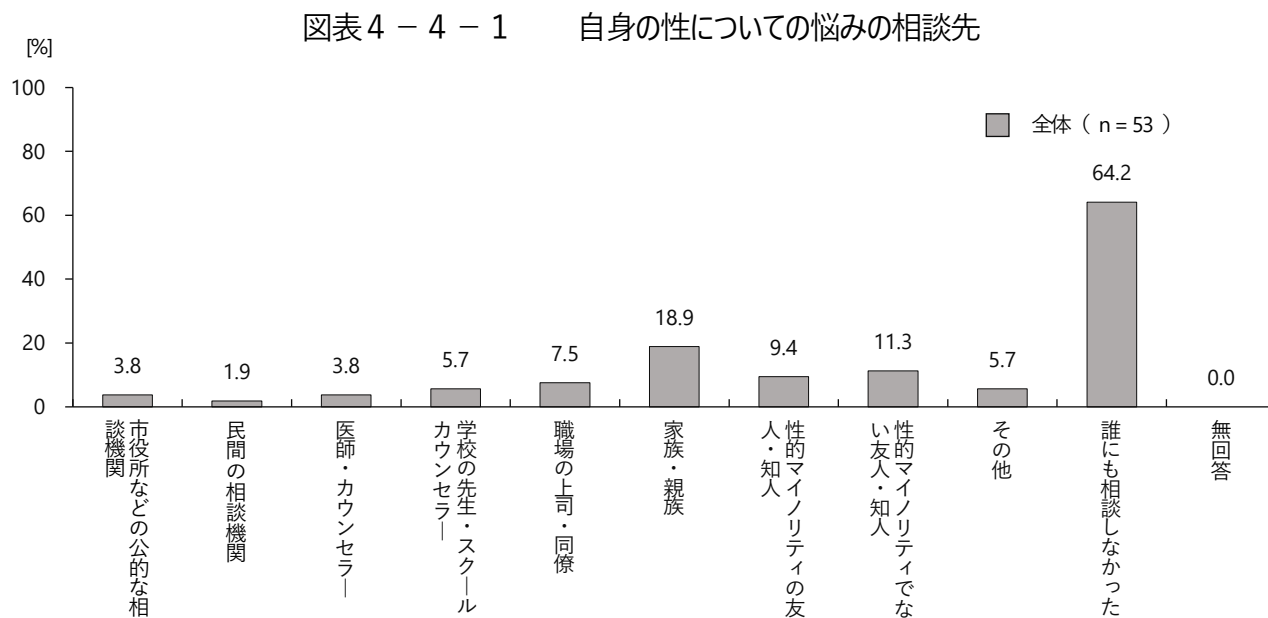


職業別にみると、「学生」(18.2%) が約2割で最も高く、次いで「その他」(9.4%)、「無職」(4.9%) の順となっている。(図表4－3－3)

4-4 自身の性についての悩みの相談先

(問12で「1. 悩んだことがある」とお答えの方に)

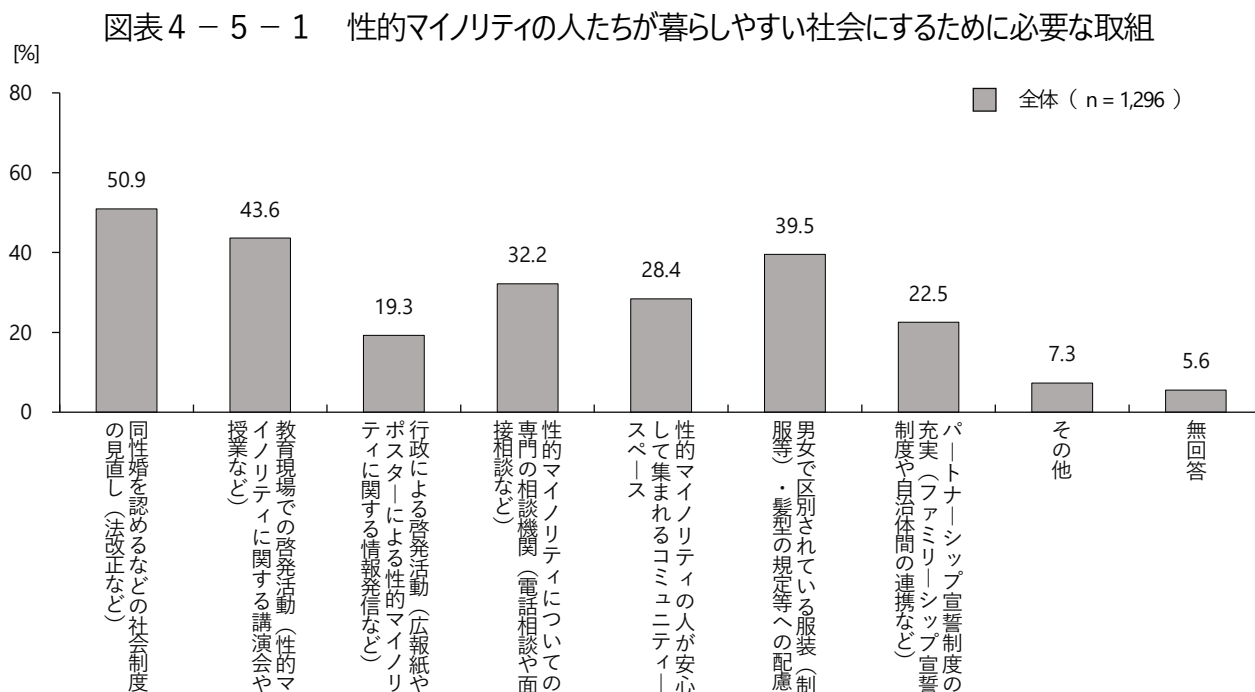
問12-1 そのとき、だれ(どこ)に相談しましたか。(〇はあてはまるものすべて)



全体でみると、「誰にも相談しなかったが」(64.2%)が6割半ばで最も多く、次いで「家族・親族」(18.9%)、「性的マイノリティでない友人・知人」(11.3%)、「性的マイノリティの友人・知人」(9.4%)の順となっている。(図表4-4-1)

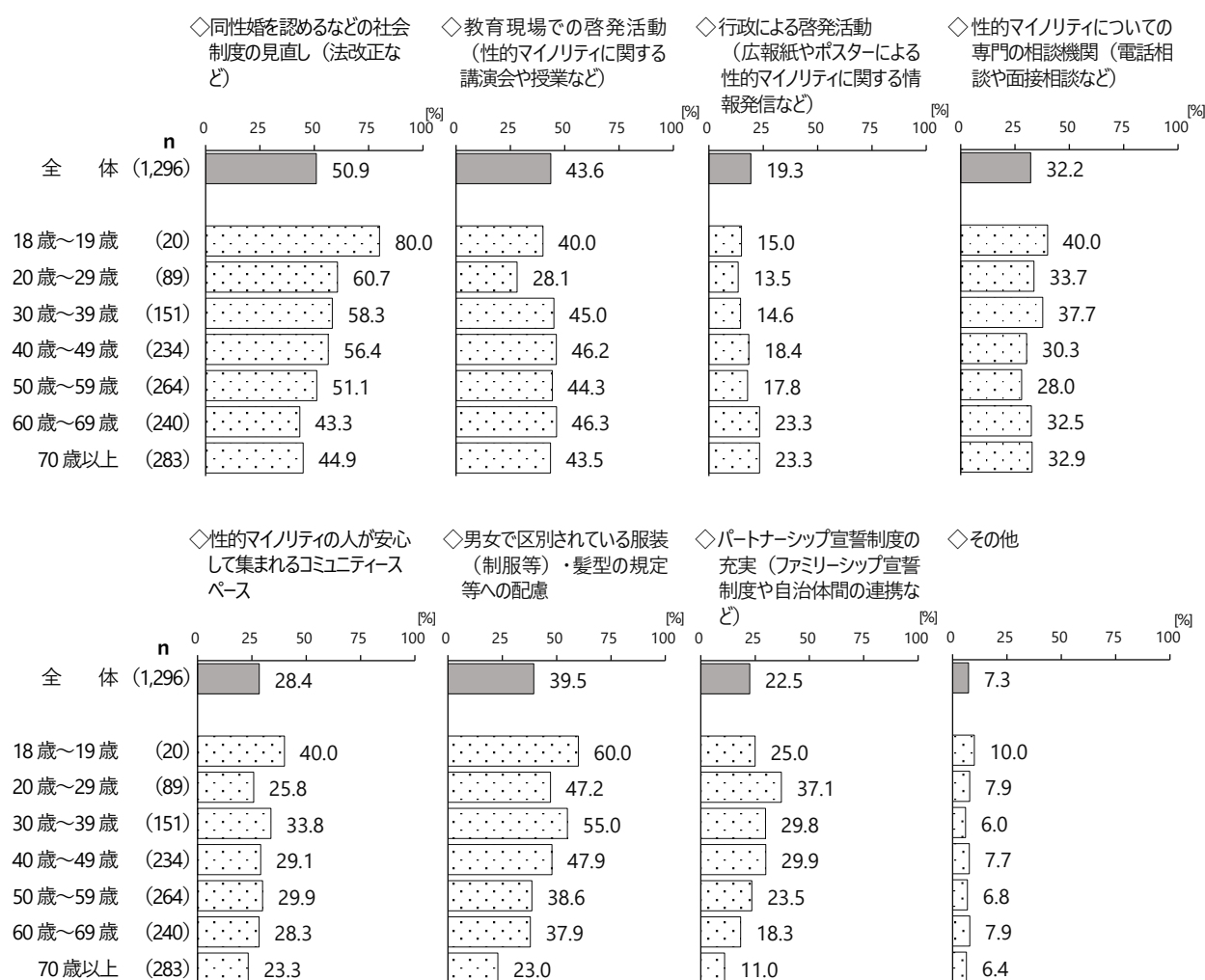
4-5 性的マイノリティの人たちが暮らしやすい社会にするために必要な取組

問13 あなたは性的マイノリティ（LGBTQ等）の人たちが暮らしやすい社会にするためには、どのような取組が必要だと思えますか。（○はあてはまるものすべて）



全体でみると、「同性婚を認めるなどの社会制度の見直し（法改正など）」（50.9%）が5割を占め最も高くなっている。次いで、「教育現場での啓発活動（性的マイノリティに関する講演会や授業など）」（43.6%）、「男女で区別されている服装（制服等）・髪型の規定等への配慮」（39.5%）、「性的マイノリティについての専門の相談機関（電話相談や面接相談など）」（32.2%）の順となっている。（図表4-5-1）

図表 4 - 5 - 2 性的マイノリティの人たちが暮らしやすい社会にするために必要な取組（年代別）



（※） n が 30 未満である 18 歳～19 歳の結果は参考扱いとする。

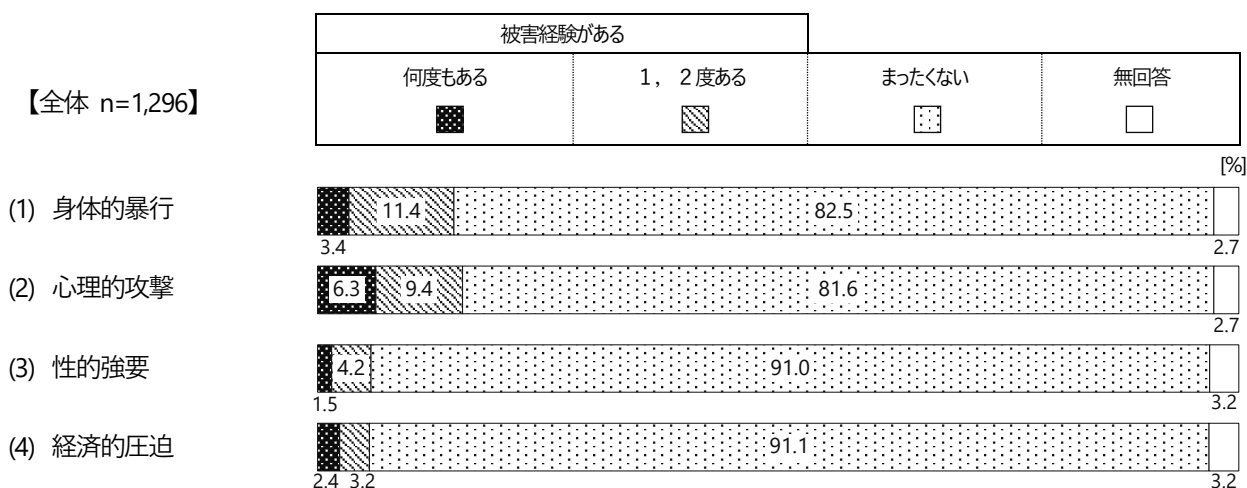
年代別にみると、「同性婚を認めるなどの社会制度の見直し（法改正など）」、「男女で区別されている服装（制服等）・髪型の規定等への配慮」、「パートナーシップ宣誓制度の充実（ファミリーシップ宣誓制度や自治体間の連携など）」の割合は年代が低いほど高くなる傾向にある。「教育現場での啓発活動（性的マイノリティに関する講演会や授業など）」は 20 歳代が他の年代と比べ 15 ポイント以上低くなっている。

（図表 4 - 5 - 2）

4-6 配偶者等からの暴力の被害経験

問 14 あなたはこれまでに、配偶者等（事実婚や別居中、元配偶者を含む。以下同じ）や交際相手から、(1)～(4)にあげるような行為をされたことがありますか。(○はそれぞれ1つつ)

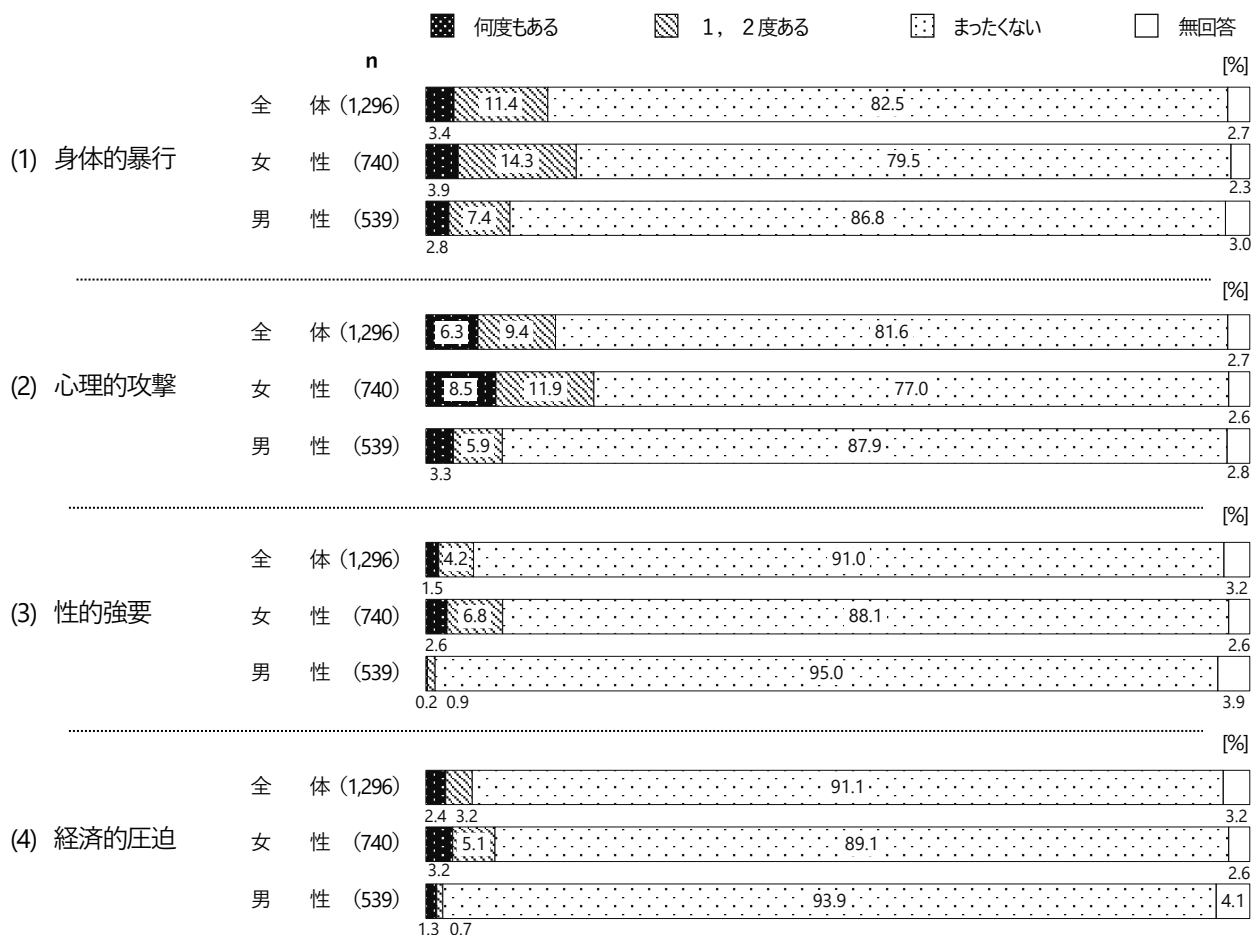
図表 4-6-1 配偶者等からの暴力の被害経験



	調査票の記述
身体的暴行	なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴力行為を受けた
心理的攻撃	人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、恐怖心をあたえるような脅迫やおどしを受けた
性的強要	嫌がっているのに、性的な行為を強要されたり避妊に協力してもらえない、ポルノビデオ等を見せられた
経済的圧迫	必要な生活費を渡されない、仕事を無理やり辞めさせられるなど、経済的に弱い立場に立たされた

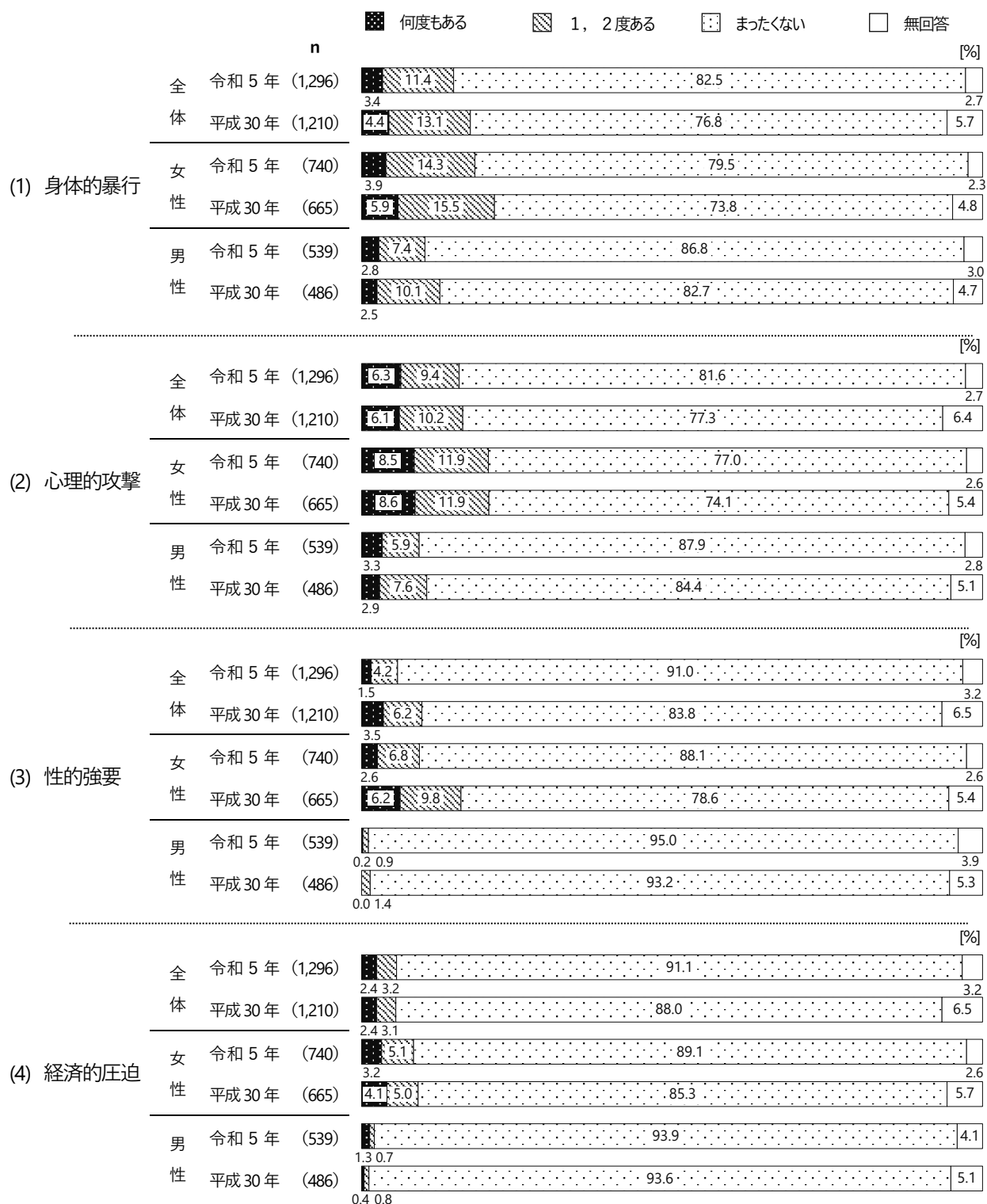
全体でみると、「何度もある」と「1, 2度ある」合わせた『被害経験がある』は【(2) 心理的攻撃】(15.7%)が最も高く、次いで【(1) 身体的暴行】(14.8%)、【(3) 性的強要】(5.7%)、【(4) 経済的圧迫】(5.6%)の順となっている。(図表4-6-1)

図表 4 - 6 - 2 配偶者等からの暴力の被害経験（性別）



性別でみると『被害経験がある』はすべての項目で女性が男性を上回っており、【(2) 心理的攻撃】では女性 (20.4%) が男性 (9.2%) を 11.2 ポイント上回っている。(図表 4 - 6 - 2)

図表4－6－3 配偶者等からの暴力の被害経験（前回調査との比較）

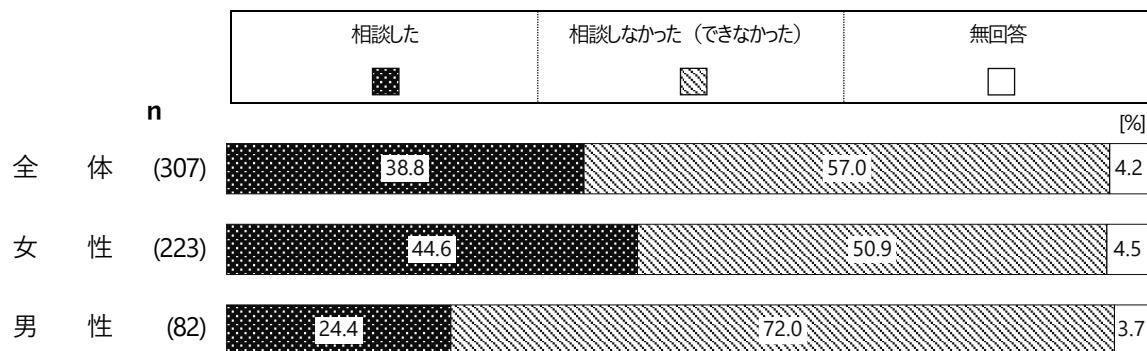


性別で前回調査との比較を見ると、女性では、【(3) 性的強要】で『被害経験がある』(9.4%)は平成30年(16.0%)より6.6ポイント減少している。(図表4－6－3)

4-7 配偶者等からの暴力に関する相談経験

(問14の(1)～(4)のうち、1つでも「1. 何度もある」「2. 1、2度ある」とお答えの方に)
 問14-1 あなたはこれまでに、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○は1つだけ)

図表4-7-1 配偶者等からの暴力に関する相談経験(性別)

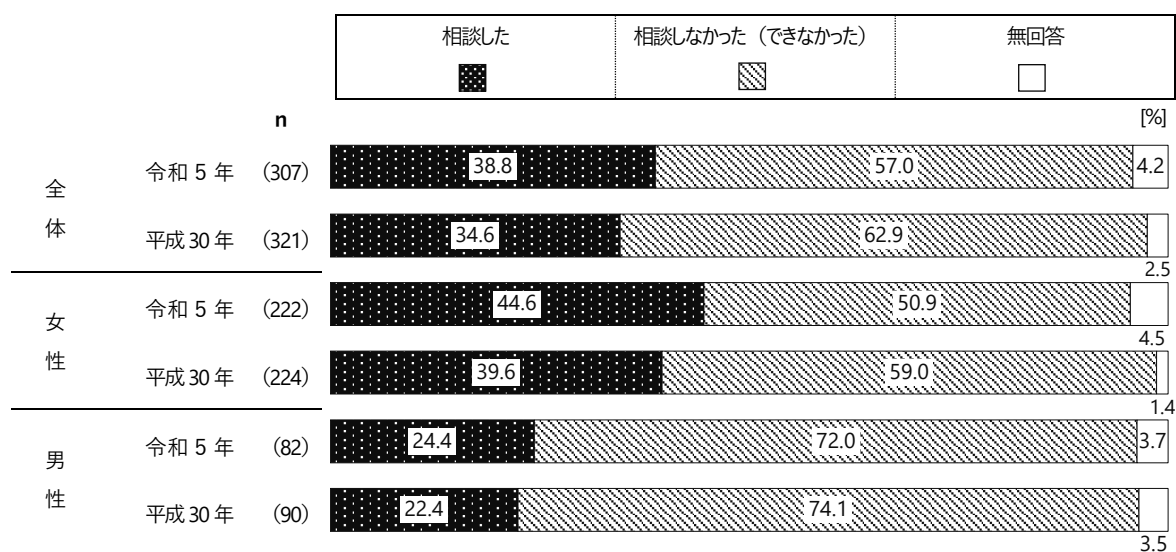


全体でみると、「相談した」(38.8%)が4割近くになっている。

性別でみると、「相談した」は女性(44.6%)が男性(24.4%)を20.2ポイント上回っている。一方、「相談しなかった(できなかった)」は男性(72.0%)が女性(50.9%)を21.1ポイント上回っている。

(図表4-7-1)

図表 4 - 7 - 2 配偶者等からの暴力に関する相談経験（前回調査との比較）



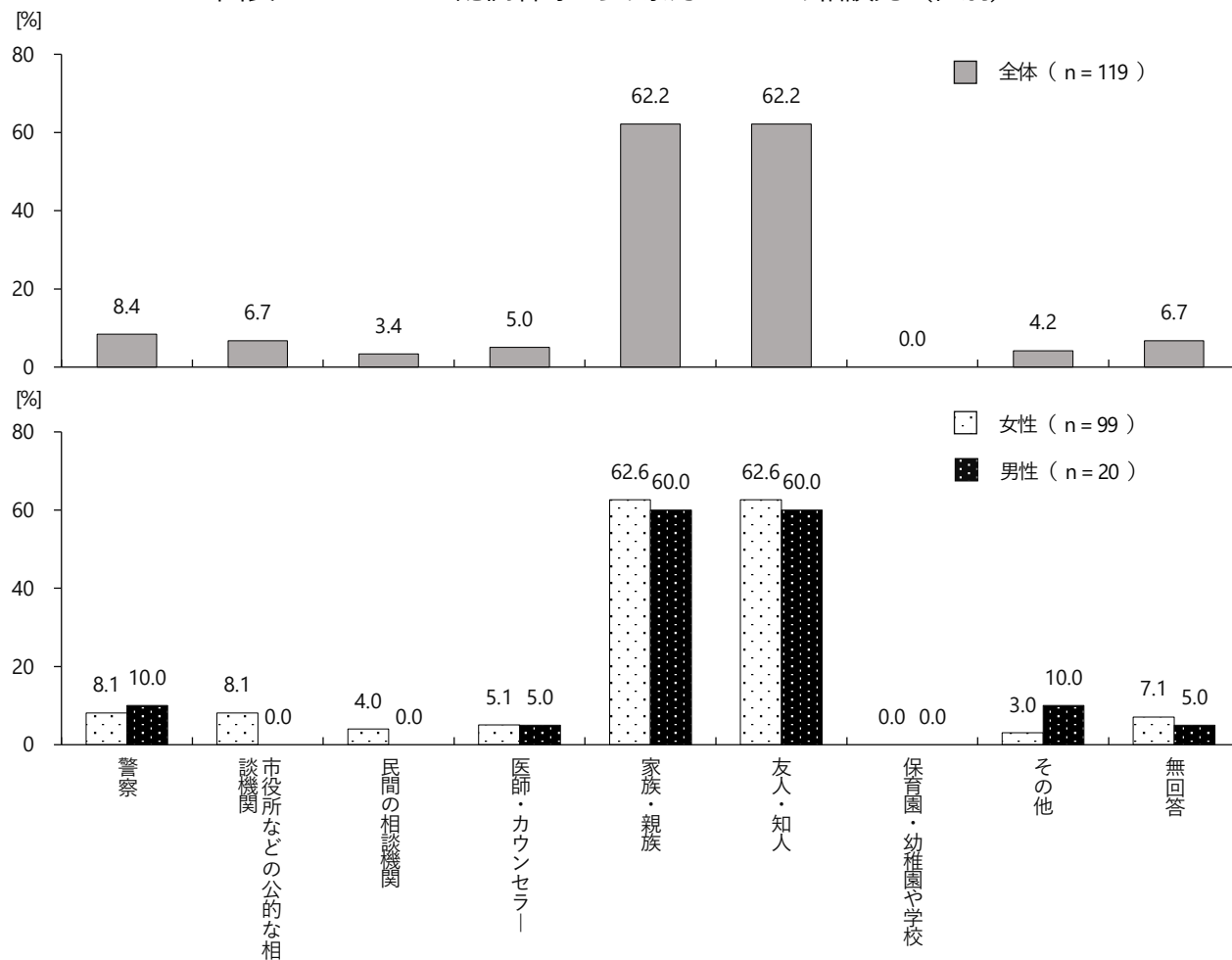
前回調査との比較を見ると、女性について、「相談した」（44.6%）が平成 30 年（39.6%）より 5.0 ポイント増加している。（図表 4 - 7 - 2）

4-8 配偶者等からの暴力についての相談先

(問 14-1 で「1. 相談した」とお答えの方に)

問 14-1-1 そのとき、だれ（どこ）に相談しましたか。（○はあてはまるものすべて）

図表 4-8-1 配偶者等からの暴力についての相談先（性別）



(※) n が 30 未満である男性の結果は参考扱いとする。

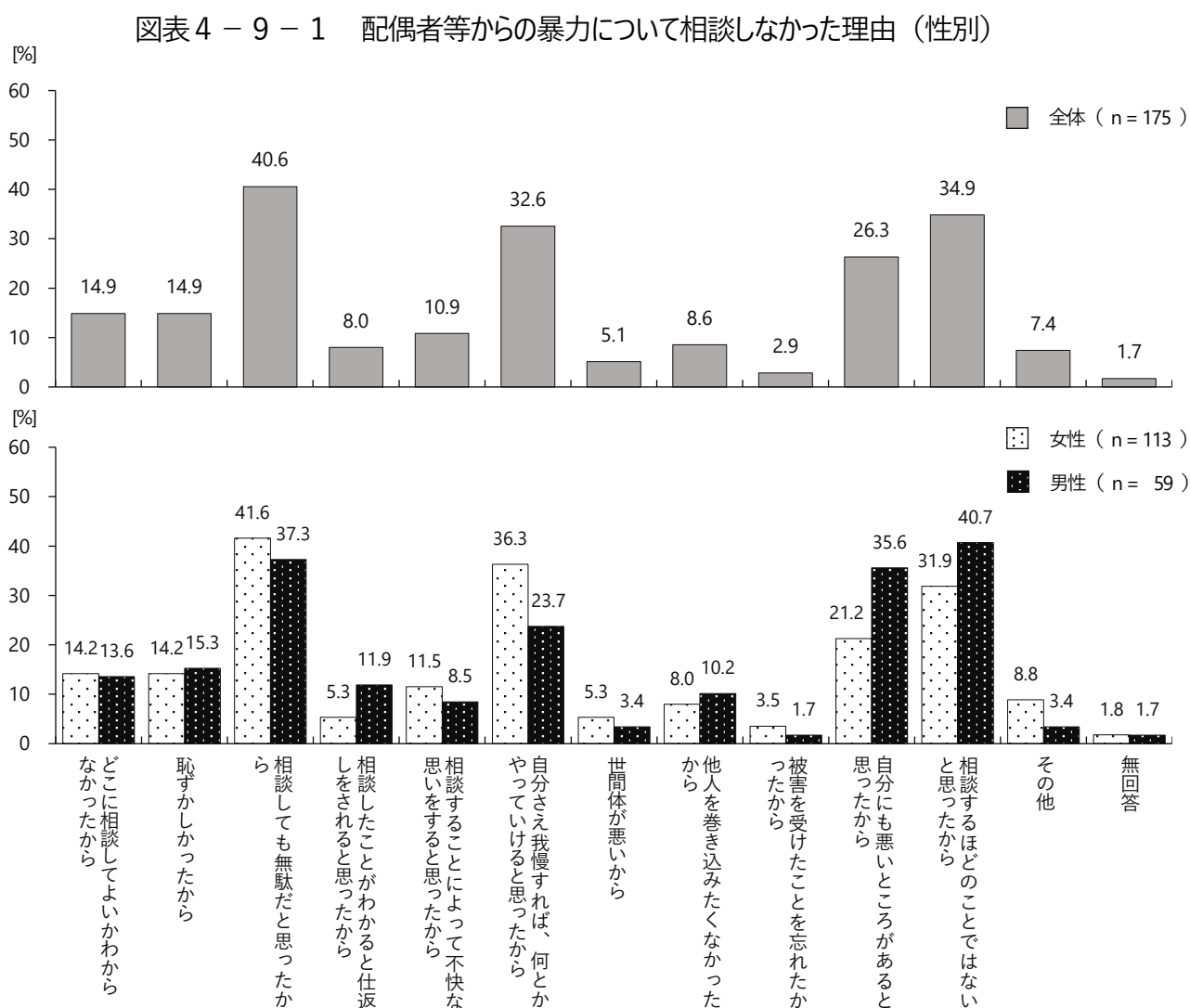
全体でみると、「家族・親族」(62.2%)と「友人・知人」(62.2%)がともに6割を超えて最も高く、次いで「警察」(8.4%)、「市役所などの公的な相談機関」(6.7%)の順となっている。(図表4-8-1)

4-9 配偶者等からの暴力について相談しなかった理由

(問 14-1 で「2. 相談しなかった (できなかった)」とお答えの方に)

問 14-1-2 だれ (どこ) にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。

(○はあてはまるものすべて)



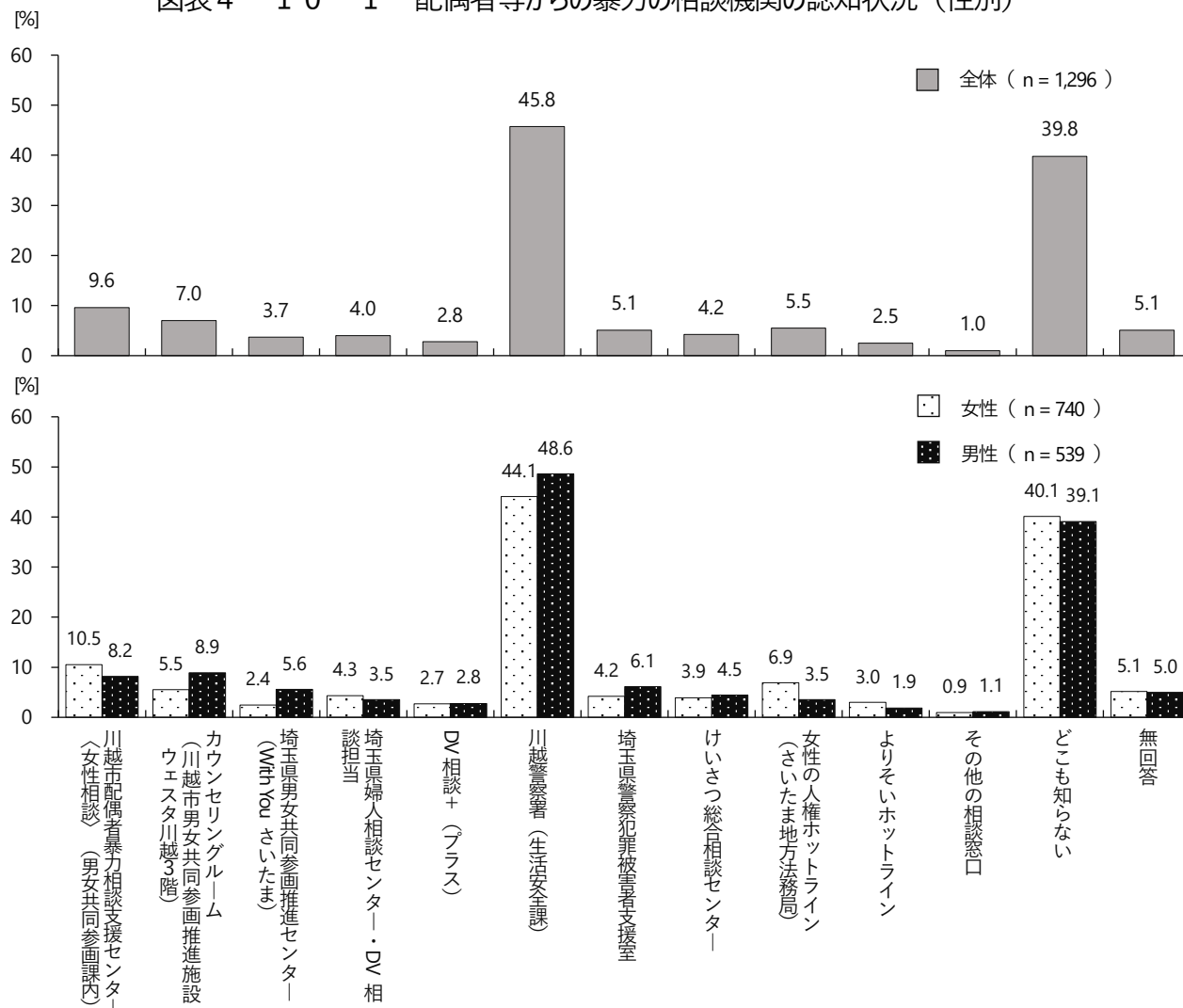
全体でみると「相談しても無駄だと思ったから」(40.6%) が最も高く、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」(34.9%)、「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思ったから」(32.6%)、「自分にも悪いところがあると思ったから」(26.3%) との順となっている。

性別でみると、「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思ったから」は女性(36.3%)が男性(23.7%)を12.6ポイント上回っている。「自分にも悪いところがあると思ったから」は男性(35.6%)が女性(21.2%)を14.4ポイント上回っている。(図表4-9-1)

4-10 配偶者等からの暴力の相談機関の認知状況

問 15 あなたは、配偶者等や交際相手からの暴力について相談するところを知っていますか。
(○はあてはまるものすべて)

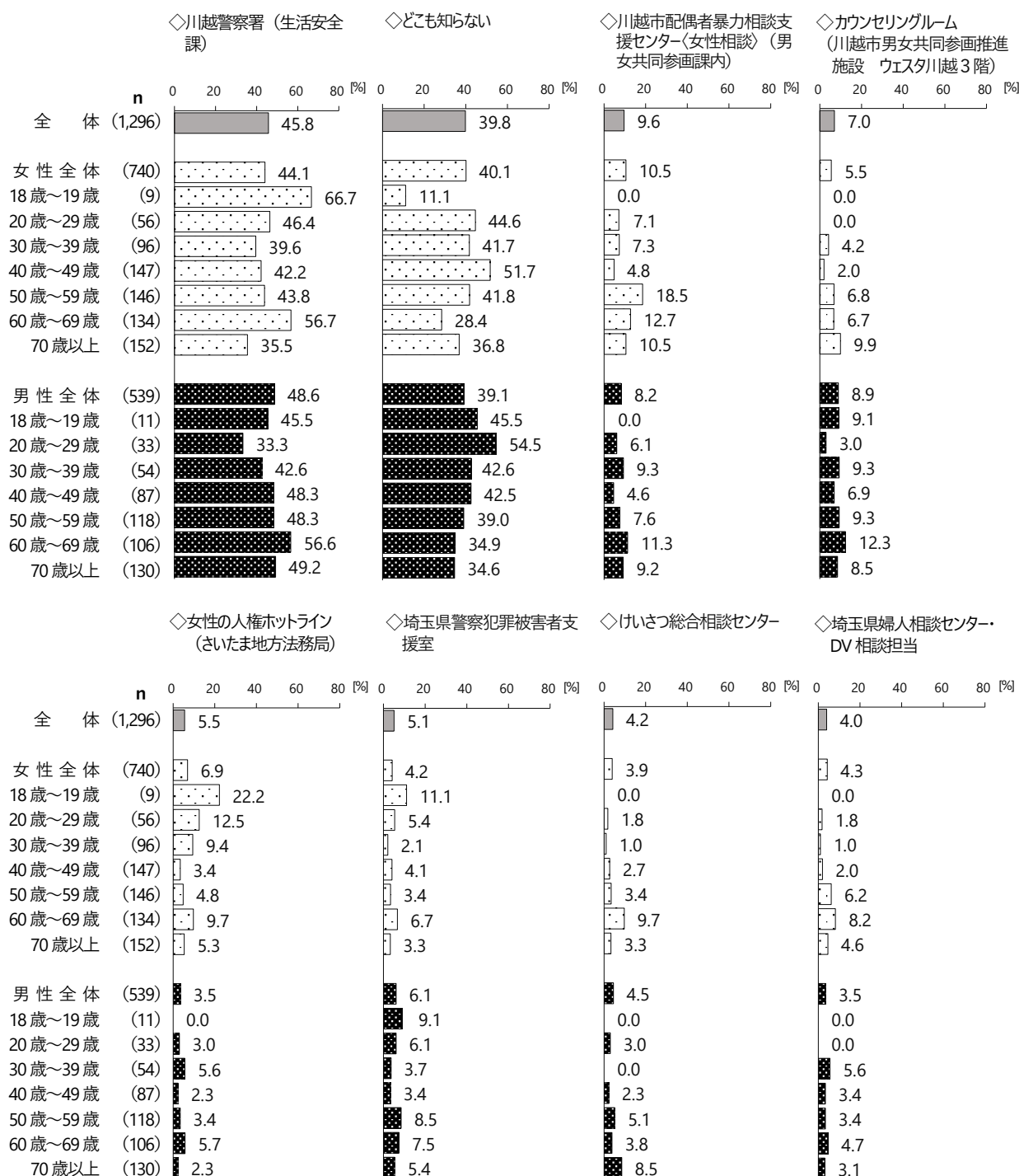
図表 4-10-1 配偶者等からの暴力の相談機関の認知状況（性別）



全体でみると、「川越警察署（生活安全課）」(45.8%) が最も高く、次いで「どこも知らない」(39.8%)、「川越市配偶者暴力相談支援センター（女性相談）（男女共同参画課内）」(9.6%)、「カウンセリングルーム（川越市男女共同参画推進施設ウェスタ川越3階）」(7.0%) の順となっている。

性別でみると、男女の傾向に大きな違いはない。（図表 4-10-1）

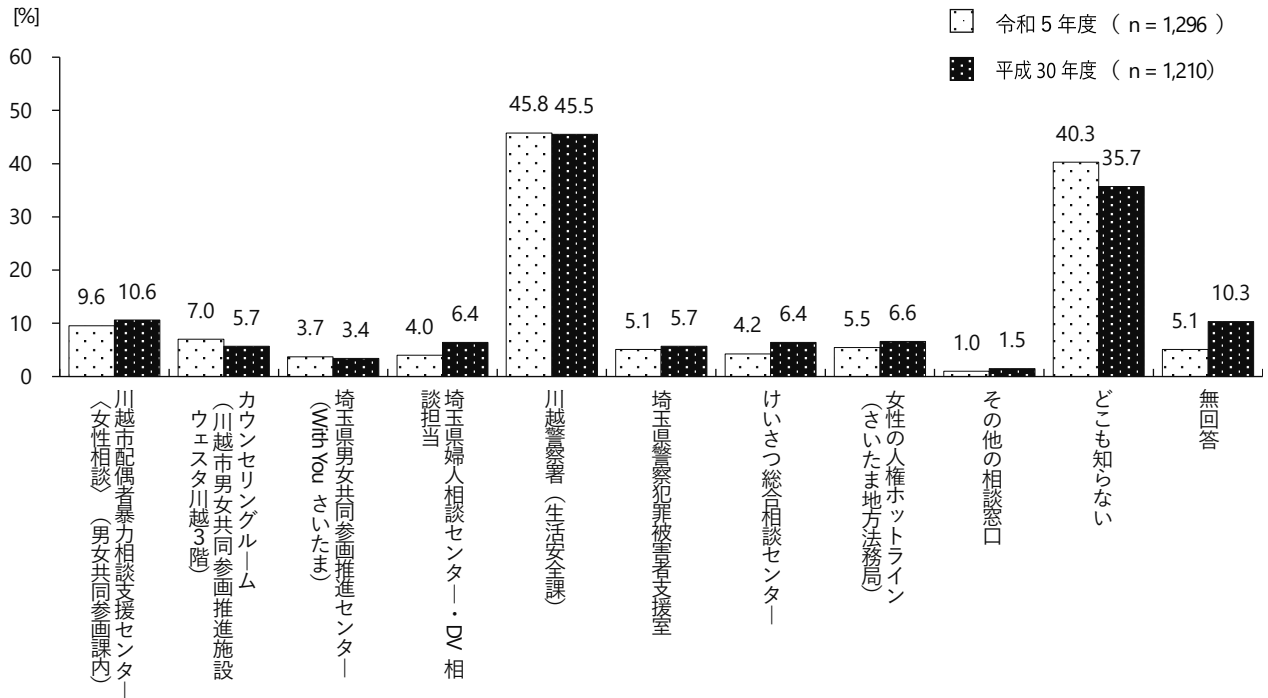
図表4－10－2 配偶者等からの暴力の相談機関の認知状況 - 上位8項目 - (性・年代別)



(※) nが30未満である女性18歳～19歳、男性18歳～19歳の結果は参考扱いとする。

性・年代別にみると、「川越警察署 (生活安全課)」について、女性60歳代が56.7%で最も高く、次いで男性60歳代 (56.6%)、男性70歳以上 (49.2%) の順となっている。(図表4－10－2)

図表 4－10－3 配偶者等からの暴力の相談機関の認知状況（前回調査との比較）



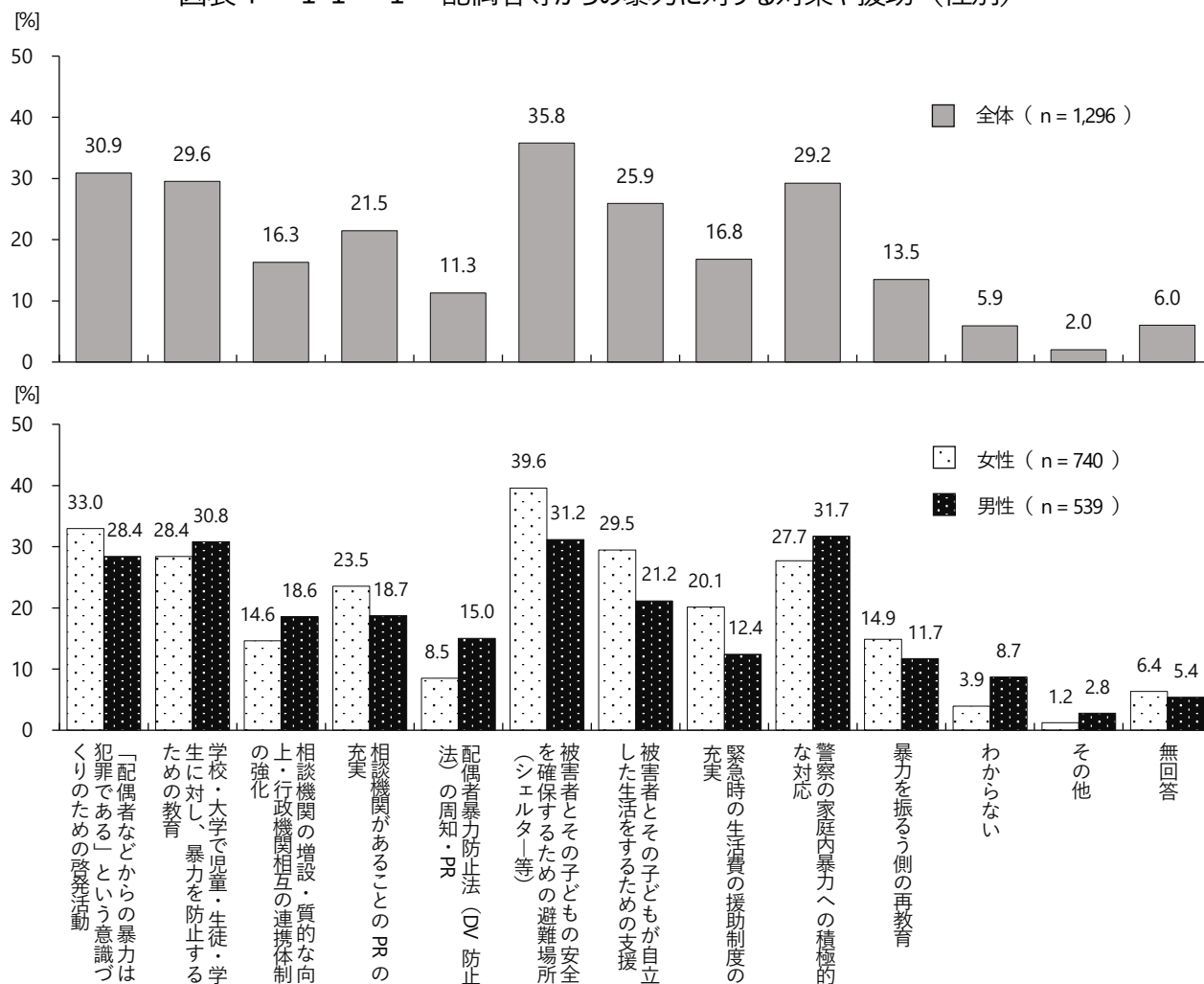
※「DV相談+（プラス）」、「よりそいホットライン」は今回調査で追加された選択肢のため除いている。

前回調査との比較についてみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表 4－10－3）

4-1-1 配偶者等からの暴力に対する対策や援助

問 16 配偶者等や交際相手からの暴力に対する対策や援助として、特にどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

図表 4-1-1-1 配偶者等からの暴力に対する対策や援助 (性別)



全体でみると、「被害者とその子どもの安全を確保するための避難場所(シェルター等)」(35.8%)が最も高く、次いで「配偶者などからの暴力は犯罪である」という意識づくりのための啓発活動(30.9%)、「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育」(29.6%)、「警察の家庭内暴力への積極的な対応」(29.2%)の順となっている。

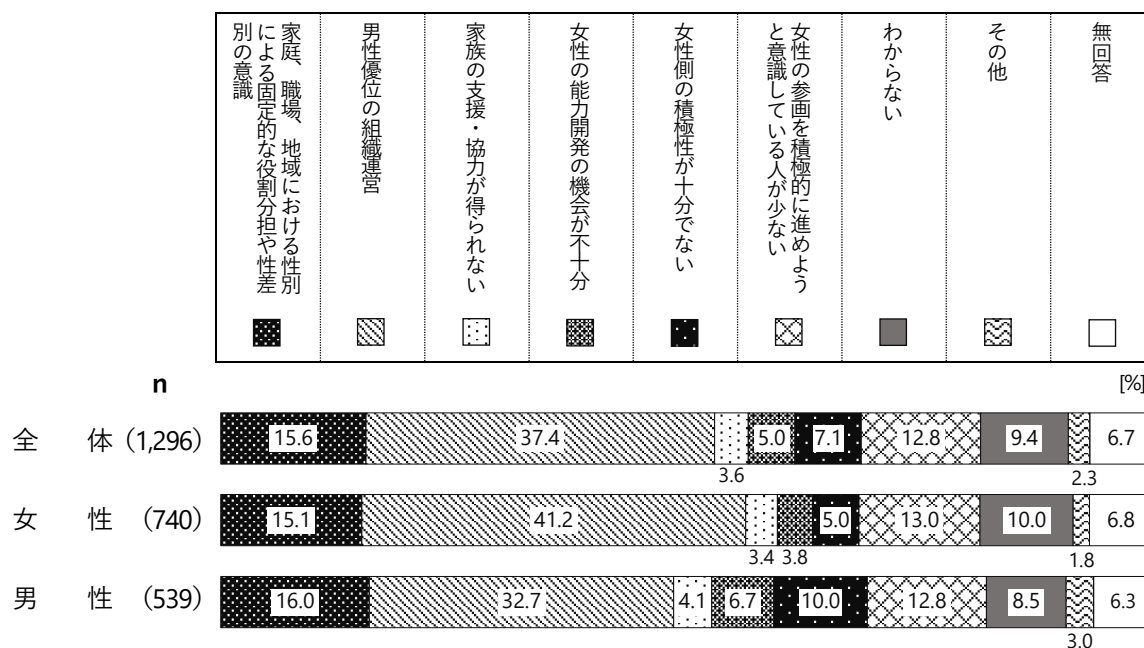
性別でみると、「被害者とその子どもの安全を確保するための避難場所(シェルター等)」は女性(39.6%)が男性(31.2%)を8.4ポイント上回っており、また、「被害者とその子どもが自立した生活をするための支援」は女性(29.5%)が男性(21.2%)を8.3ポイント上回っている。(図表4-1-1-1)

5. 男女の社会参画について

5-1 女性の政治・行政への参画が少ない理由

問 17 あなたは、政治や行政において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない一番の理由は何だと思いますか。（○は1つだけ）

図表 5-1-1 女性の政治・行政への参画が少ない理由（性別）



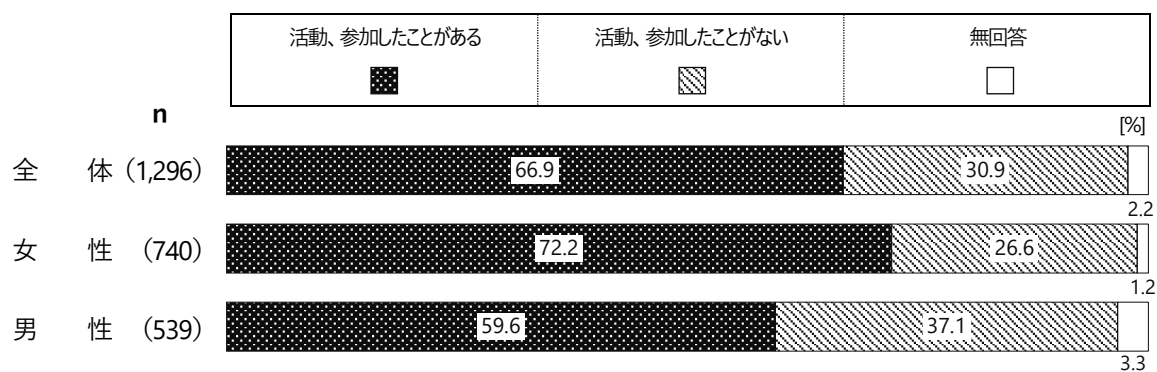
全体でみると、「男性優位の組織運営」(37.4%)が4割近くで最も高く、次いで「家庭、職場、地域における性別による固定的な役割分担や性差別の意識」(15.6%)、「女性の参画を積極的に進めようとして意識している人が少ない」(12.8%)の順となっている。

性別でみると、「男性優位の組織運営」は女性(41.2%)が男性(32.7%)を8.5ポイント上回っている。
(図表 5-1-1)

5-2 地域活動への参加経験の有無

問 18 あなたは、今までに仕事以外で、地域の活動をしたり、地域の行事に参加したことがありますか。(○は1つだけ)

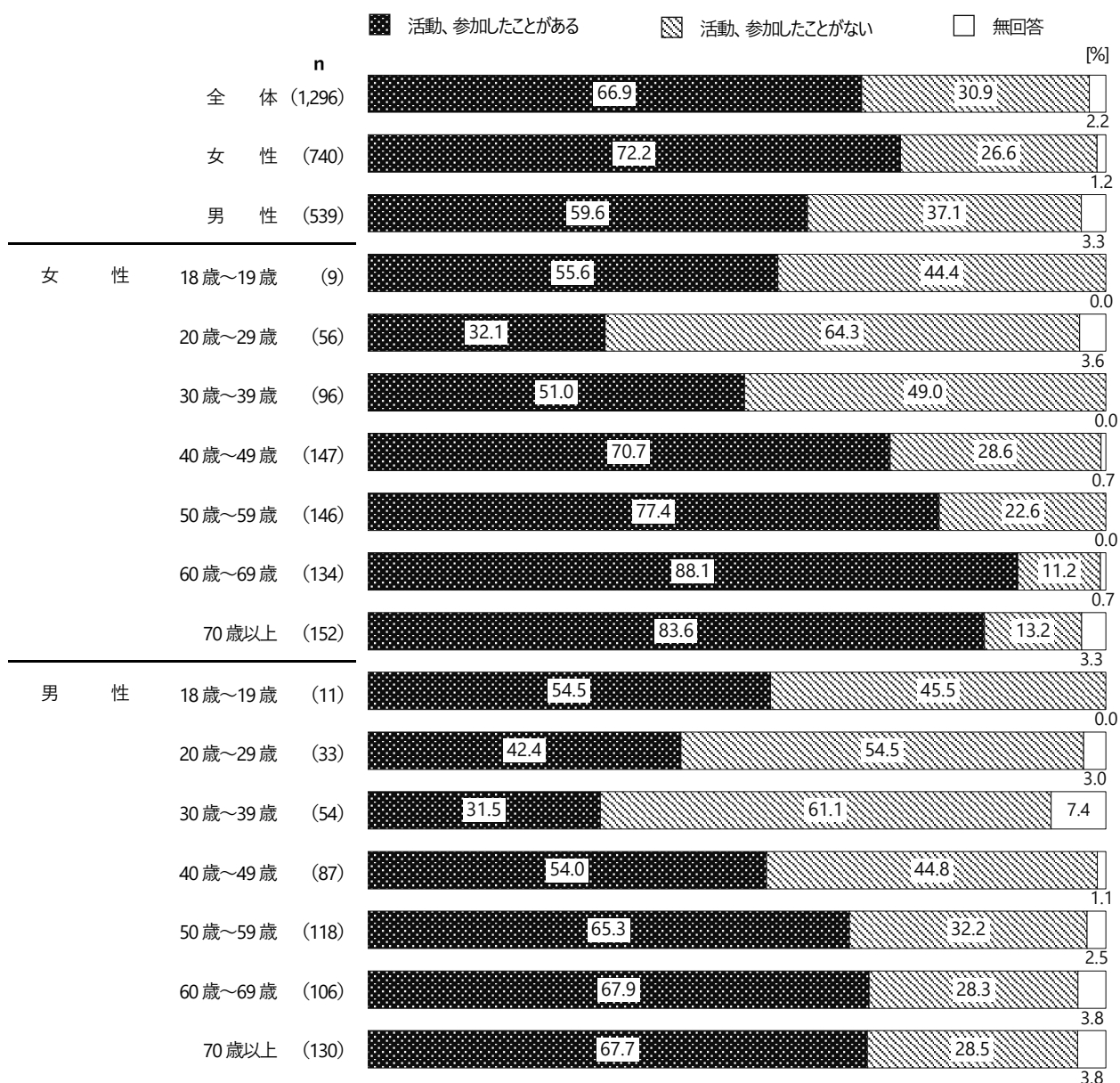
図表 5-2-1 地域活動への参加経験の有無 (性別)



全体でみると、「活動、参加したことがある」(66.9%)が6割半ばを超えて高くなっている。一方、「活動、参加したことがない」(30.9%)は3割となっている。

性別でみると、「活動、参加したことがある」は女性(72.2%)が男性(59.6%)を12.6ポイント上回っている。一方、「活動、参加したことがない」は男性(37.1%)が女性(26.6%)を10.5ポイント上回っている。(図表5-2-1)

図表 5 - 2 - 2 地域活動への参加経験の有無（性・年代別）



(※) nが30未満である女性18歳～19歳、男性18歳～19歳の結果は参考扱いとする。

性・年代別でみると、「活動、参加したことがある」は女性60歳代が88.1%で最も高く、次いで女性70歳以上（83.6%）、女性50歳代（77.4%）の順となっている。一方、「活動、参加したことがない」は女性20歳代が64.3%で最も高く、次いで男性30歳代（61.1%）、男性20歳代（54.5%）の順となっている。

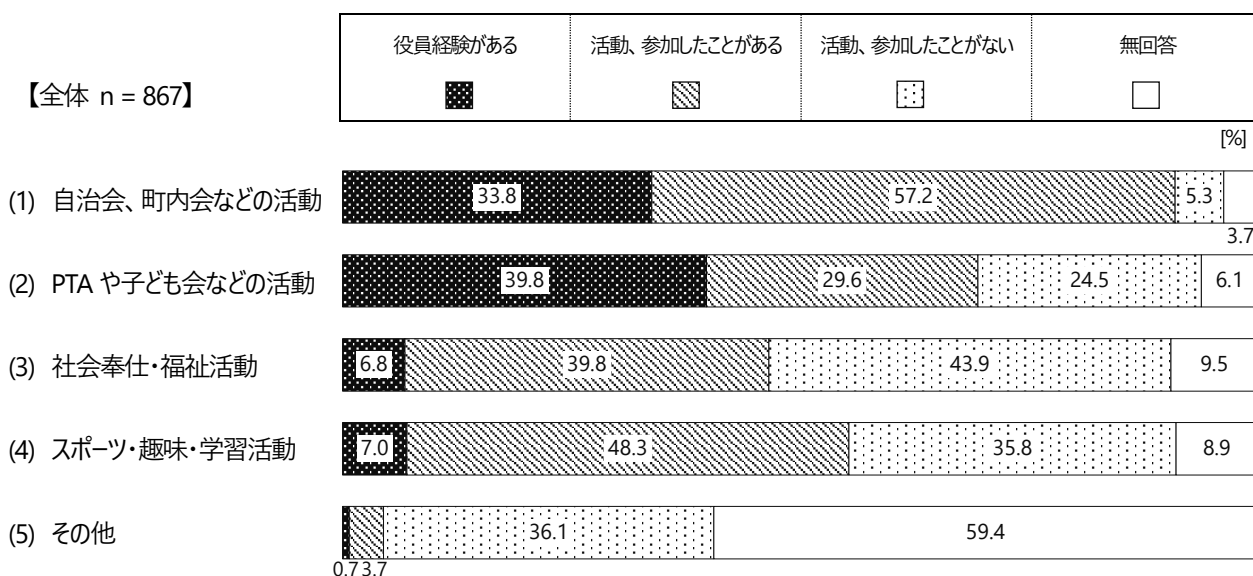
(図表 5 - 2 - 2)

5-3 参加経験のある活動

(問 18 で「1. 活動、参加したことがある」とお答えの方に)

問 18-1 次のような活動や行事についてお答えください。(○はそれぞれ1つつ)

図表 5-3-1 参加経験のある活動

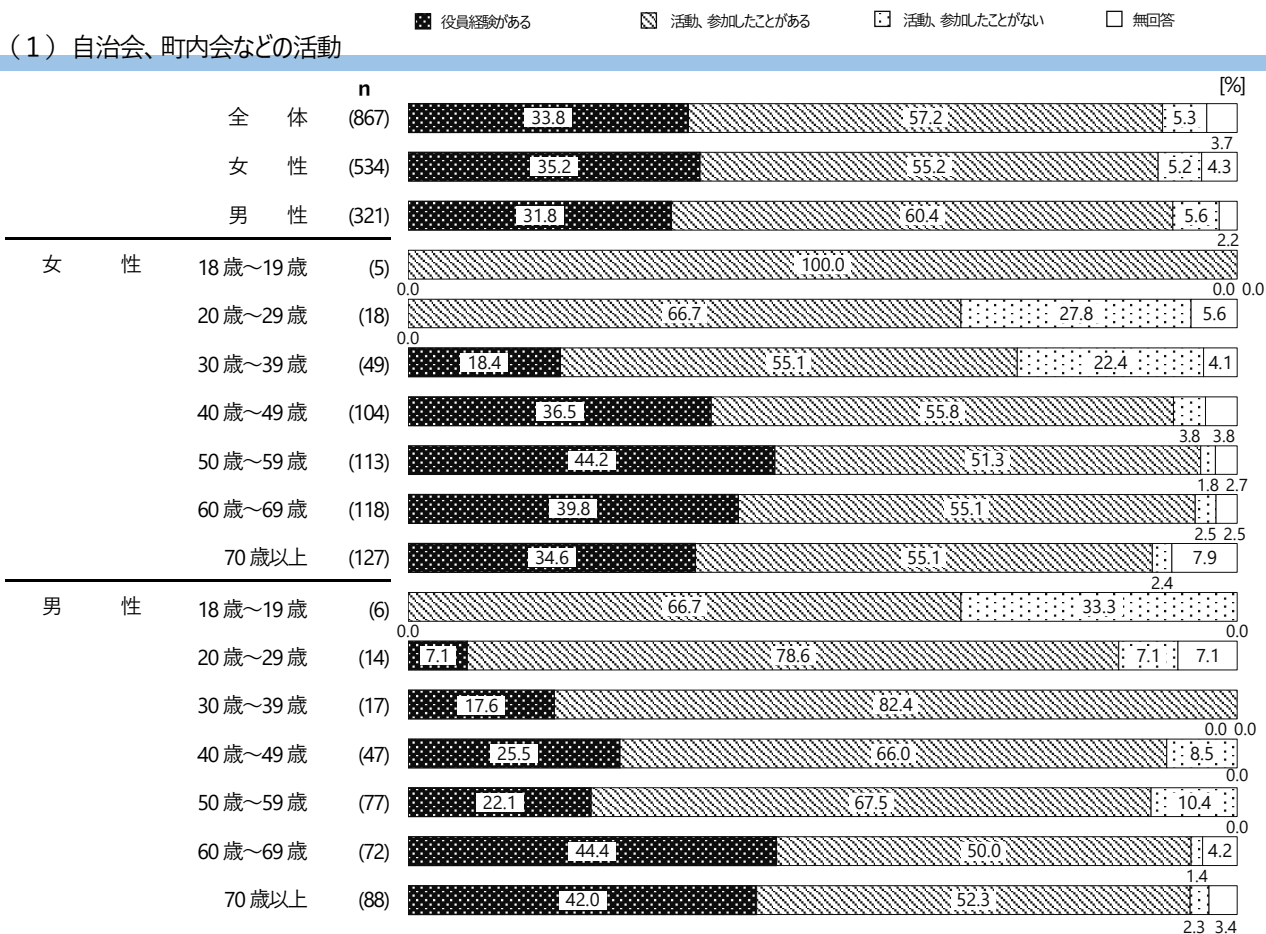


全体でみると、「役員経験がある」は【(2) PTAや子ども会などの活動】(39.8%)で4割近く、【(1) 自治会、町内会などの活動】(33.8%)の3割台とともに高くなっている。

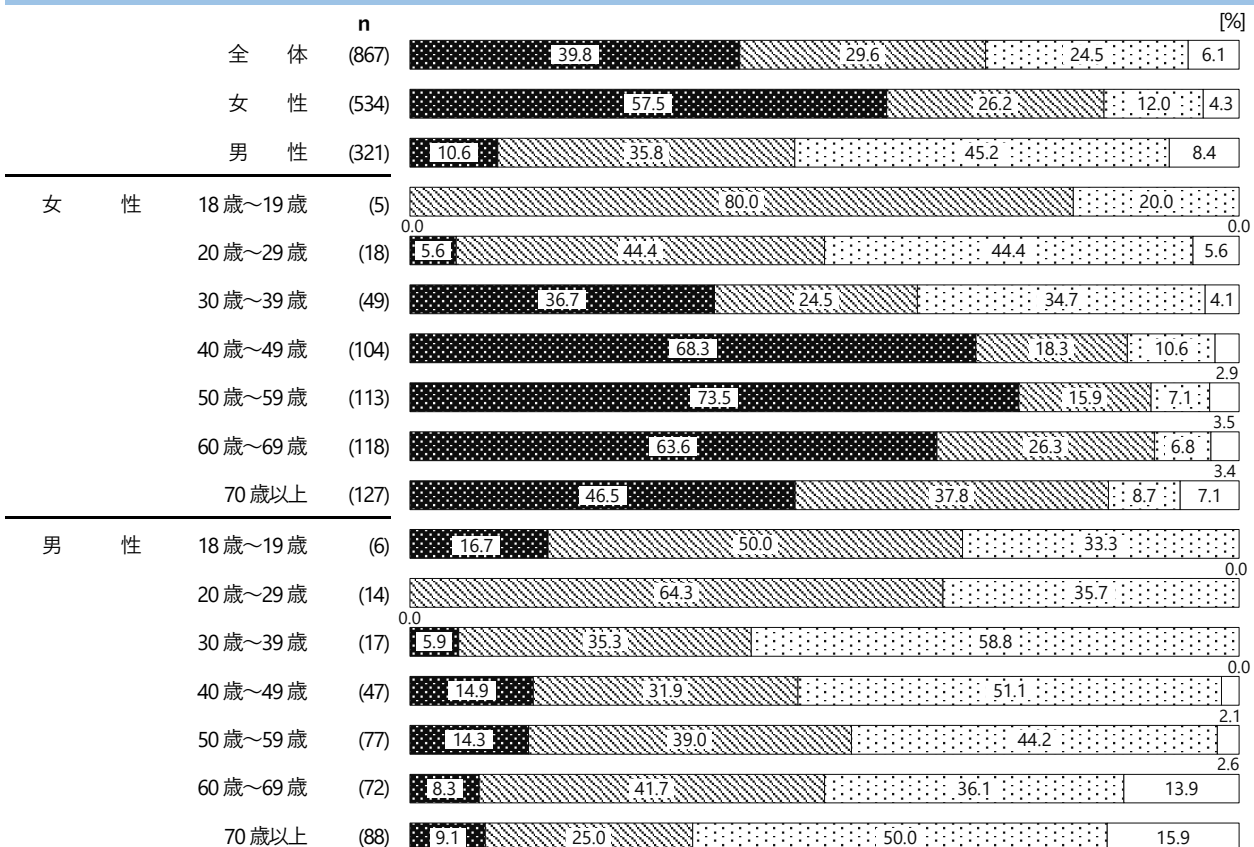
「活動、参加したことがある」は【(1) 自治会、町内会などの活動】(57.2%)が6割近くで最も高く、次いで【(4) スポーツ・趣味・学習活動】(48.3%)、【(3) 社会奉仕・福祉活動】(39.8%)の順となっている。

「活動、参加したことがない」は【(3) 社会奉仕・福祉活動】(43.9%)が4割を超えて最も高くなっている。(図表5-3-1)

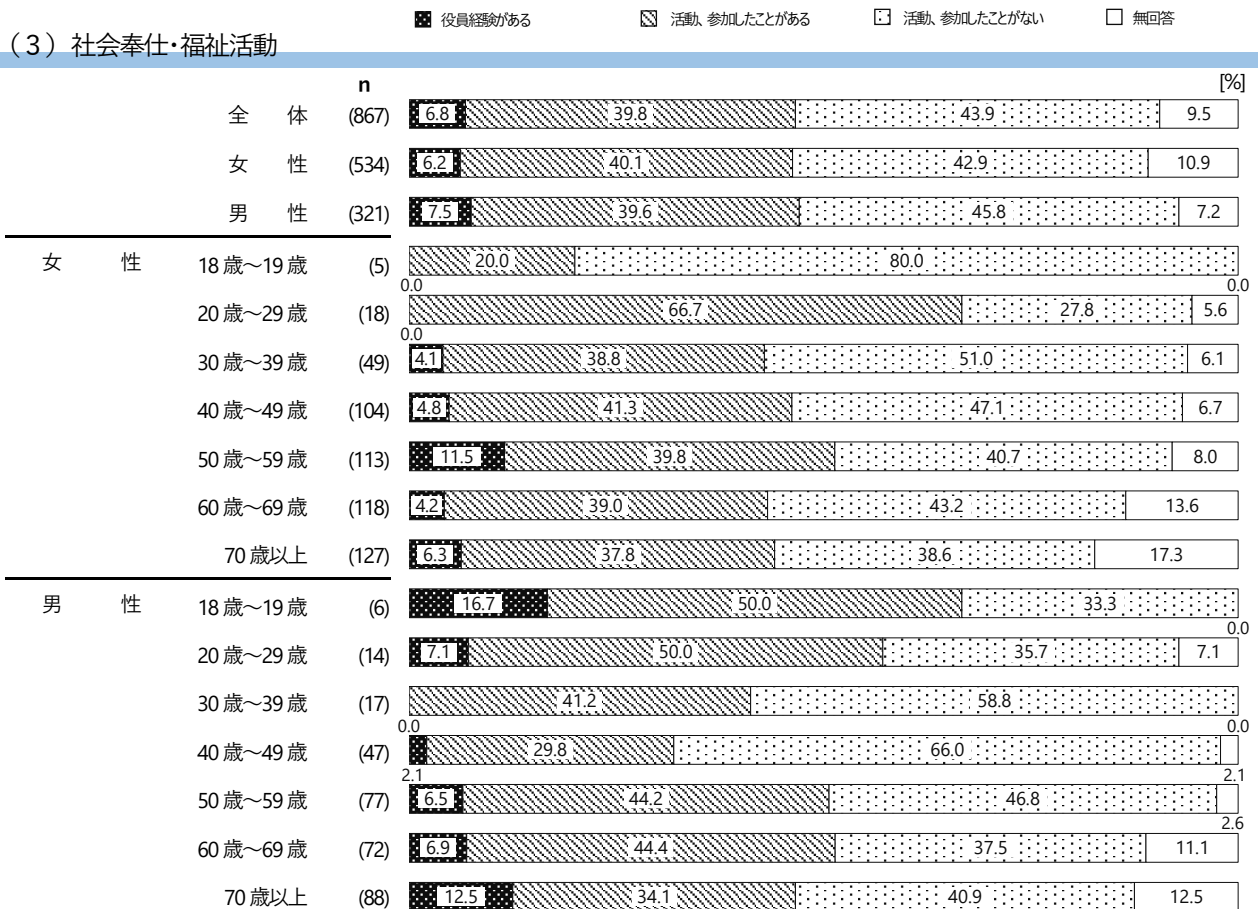
図表5-3-2 参加経験のある活動（性・年代別）



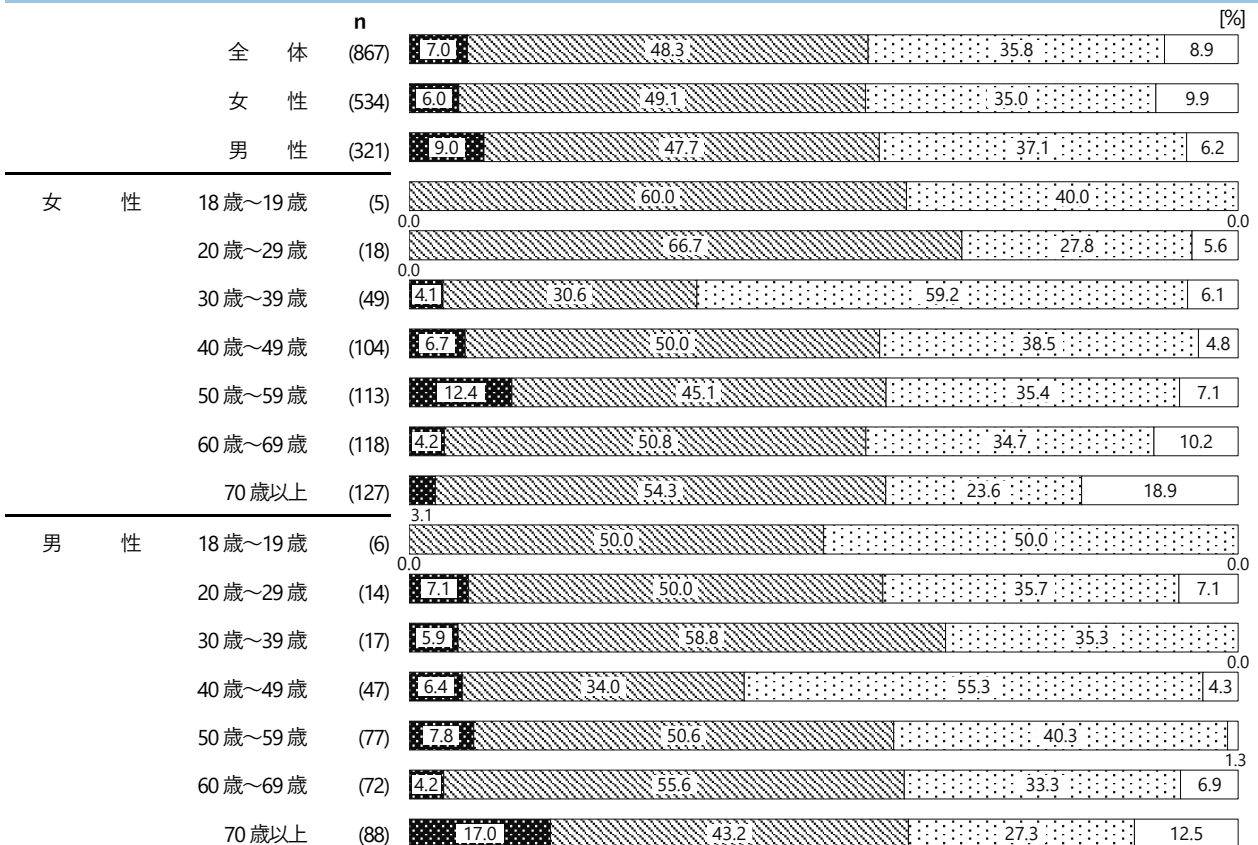
(2) P T Aや子ども会などの活動



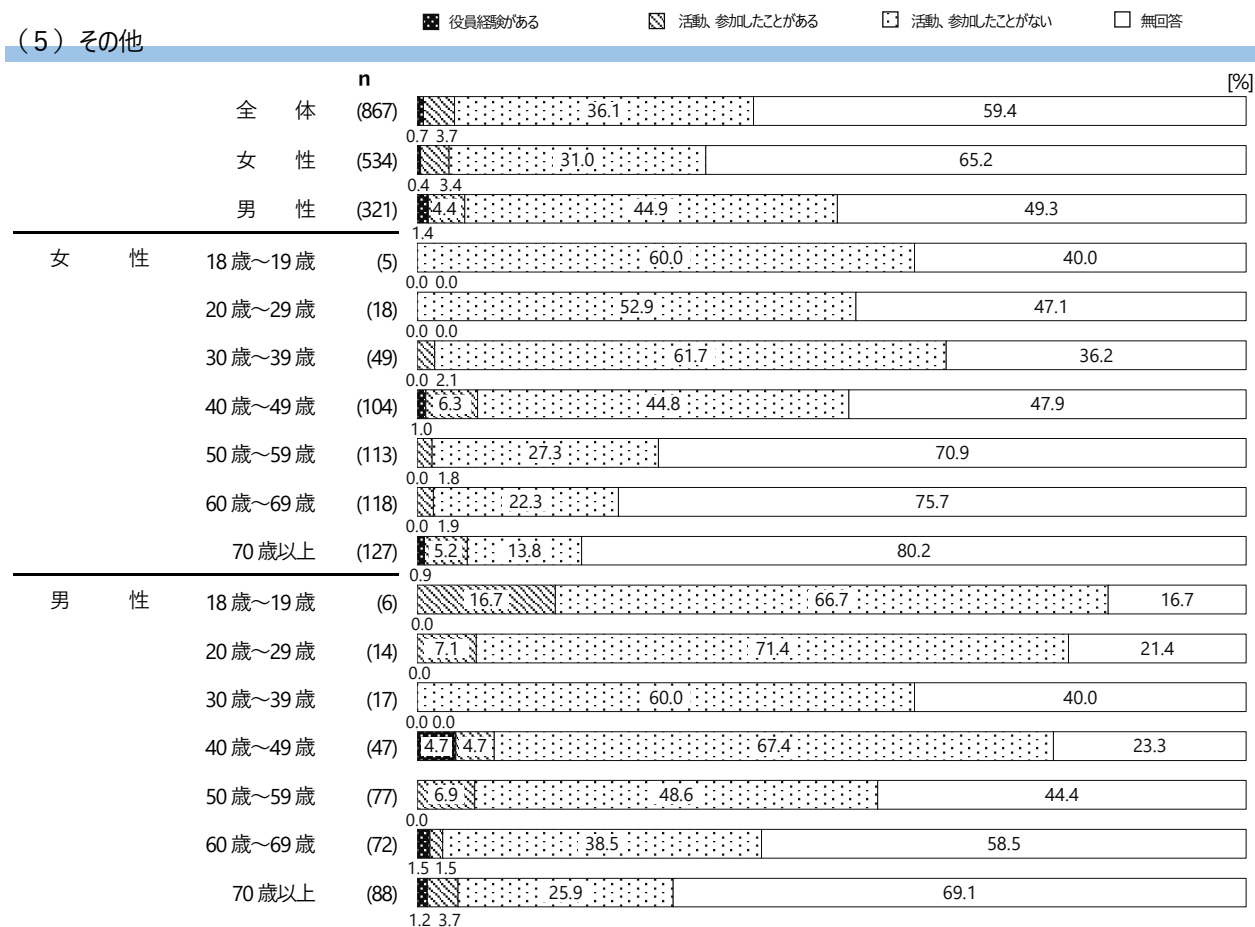
図表5-3-2 参加経験のある活動（性・年代別） つづき



(4) スポーツ・趣味・学習活動



図表5－3－2 参加経験のある活動（性・年代別） つづき



(※) nが30未満である女性18歳～19歳、女性20歳～29歳、男性18歳～19歳、男性20歳～29歳、男性30歳～39歳の結果は参考扱いとする。

(1) 自治会、町内会などの活動について性・年代別でみると、「役員経験がある」は女性では50歳代が44.2%、男性では60歳代が44.4%で最も高くなっている。

(2) PTAや子ども会などの活動について性別でみると、「役員経験がある」は女性(57.5%)が男性(10.6%)を46.9ポイント上回っている。性・年代別でみると、女性50歳代が73.5%で最も高く、女性40歳代(68.3%)、次いで女性60歳代(63.6%)の順となっている。

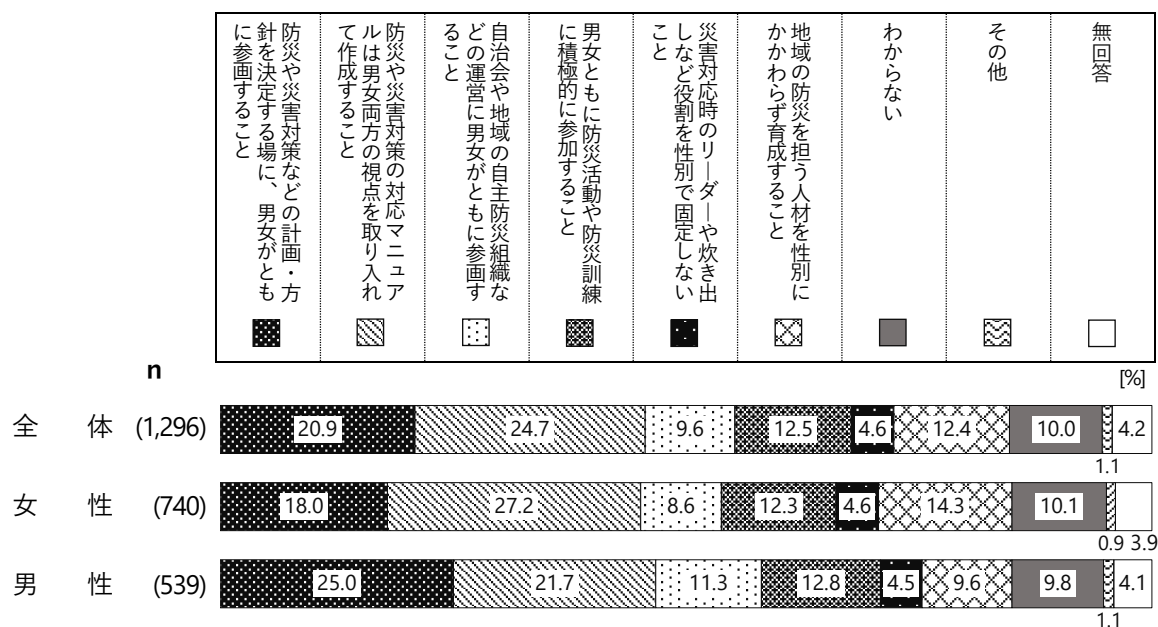
(3) 社会奉仕・福祉活動について性・年代別でみると、「活動、参加したことがある」は女性では40歳代が41.3%、男性では60歳代が44.4%で最も高くなっている。一方、「活動、参加したことがない」は女性では30歳代で51.0%、男性では40歳代で66.0%が最も高くなっている。

(4) スポーツ・趣味・学習活動について性・年代別でみると、「活動、参加したことがある」は女性では70歳以上が54.3%、男性では60歳代が55.6%で最も高くなっている。一方、「活動、参加したことがない」は女性では30歳代が59.2%、男性では40歳代が55.3%で最も高くなっている。(図表5－3－2)

5-4 防災分野における男女共同参画推進のために必要なこと

問 19 地域の防災についてうかがいます。あなたは防災分野で男女共同参画を進めるためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。（○は1つだけ）

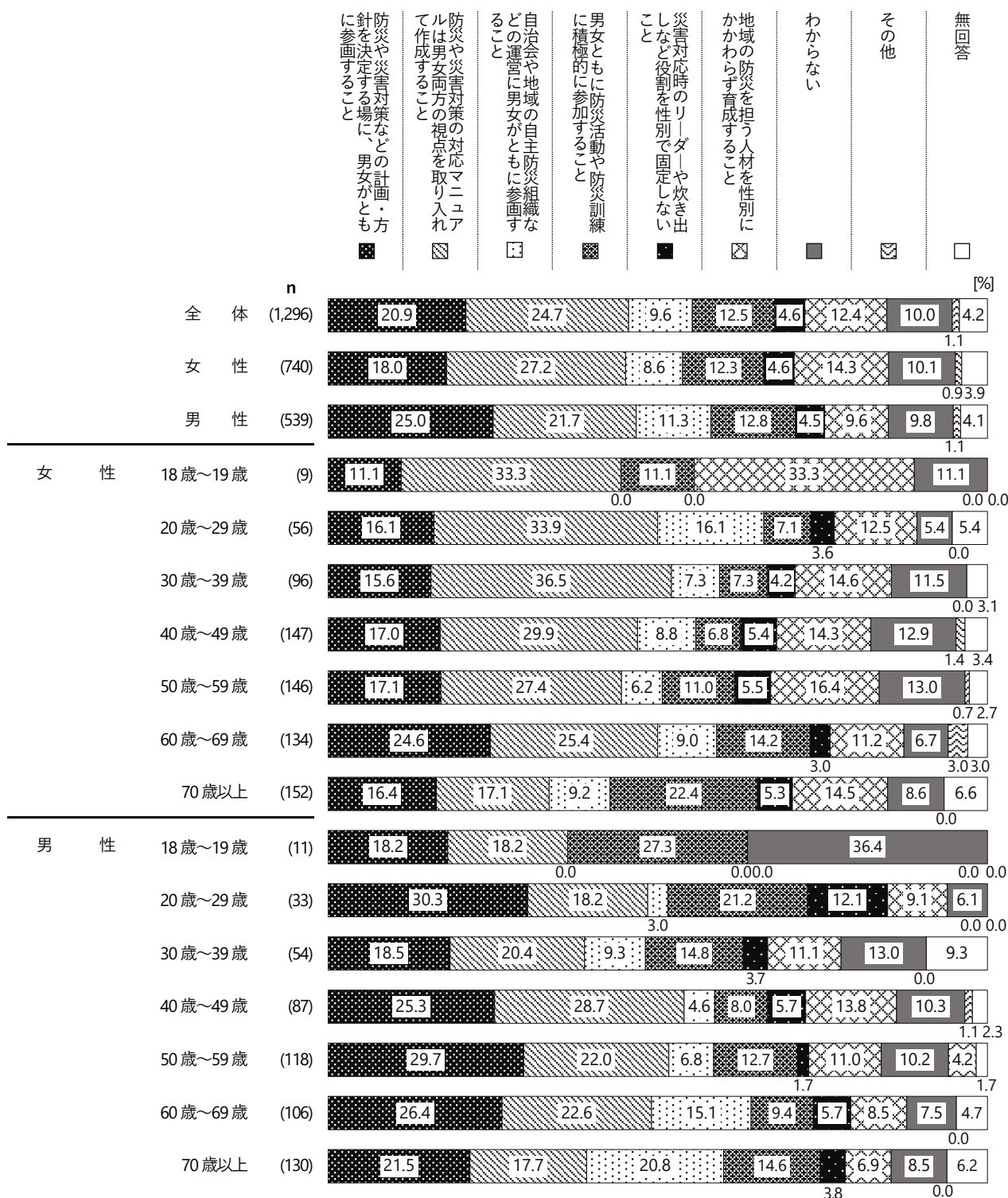
図表 5-4-1 防災分野における男女共同参画推進のために必要なこと（性別）



全体でみると、「防災や災害対策の対応マニュアルは男女両方の視点を取り入れて作成すること」(24.7%)が最も高く、次いで「防災や災害対策などの計画・方針を決定する場に、男女がともに参画すること」(20.9%)、「男女ともに防災活動や防災訓練に積極的に参加すること」(12.5%)、「地域の防災を担う人材を性別にかかわらず育成すること」(12.4%)の順となっている。

性別でみると、「防災や災害対策などの計画・方針を決定する場に、男女がともに参画すること」は男性(25.0%)が女性(18.0%)を7.0ポイント上回っている。「防災や災害対策の対応マニュアルは男女両方の視点を取り入れて作成すること」は女性(27.2%)、男性(21.7%)で5.5ポイント、「地域の防災を担う人材を性別にかかわらず育成すること」は女性(14.3%)、男性(9.6%)で4.7ポイント、女性が男性をそれぞれ上回っている。(図表5-4-1)

図表 5 - 4 - 2 防災分野における男女共同参画推進のために必要なこと（性・年代別）



(※) nが30未満である女性18歳～19歳、男性18歳～19歳の結果は参考扱いとする。

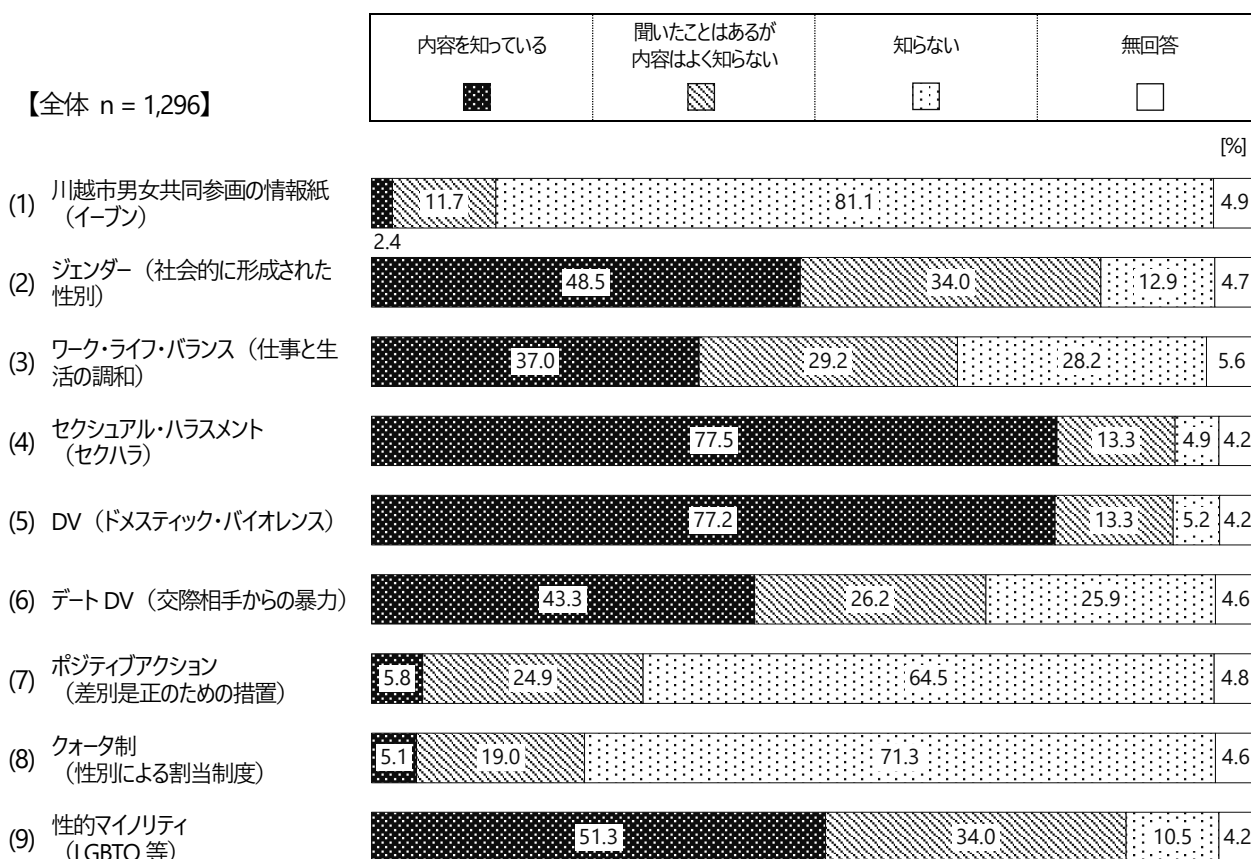
性・年代別でみると、「防災や災害対策の対応マニュアルは男女両方の視点を取り入れて作成すること」は女性30歳代が36.5%で最も高く、次いで女性20歳代(33.9%)、女性40歳代(29.9%)の順となっている。「防災や災害対策などの計画・方針を決定する場に、男女がともに参画すること」は男性20歳代が30.3%で最も高く、次いで男性50歳代で29.7%、男性60歳代で26.4%の順となっている。「男女ともに防災活動や防災訓練に積極的に参加すること」は、女性では70歳以上が22.4%、男性では20歳代が21.2%で最も高くなっている。(図表5-4-2)

6. 男女共同参画を推進するための取組について

6-1 男女共同参画に関する言葉の認知状況

問 20 次にあげる男女共同参画に関する社会の動きや言葉について、見たり聞いたりしたことがありますか。(1)～(9)についてお答えください。(○はそれぞれ1つずつ)

図表 6-1-1 男女共同参画に関する言葉の認知状況



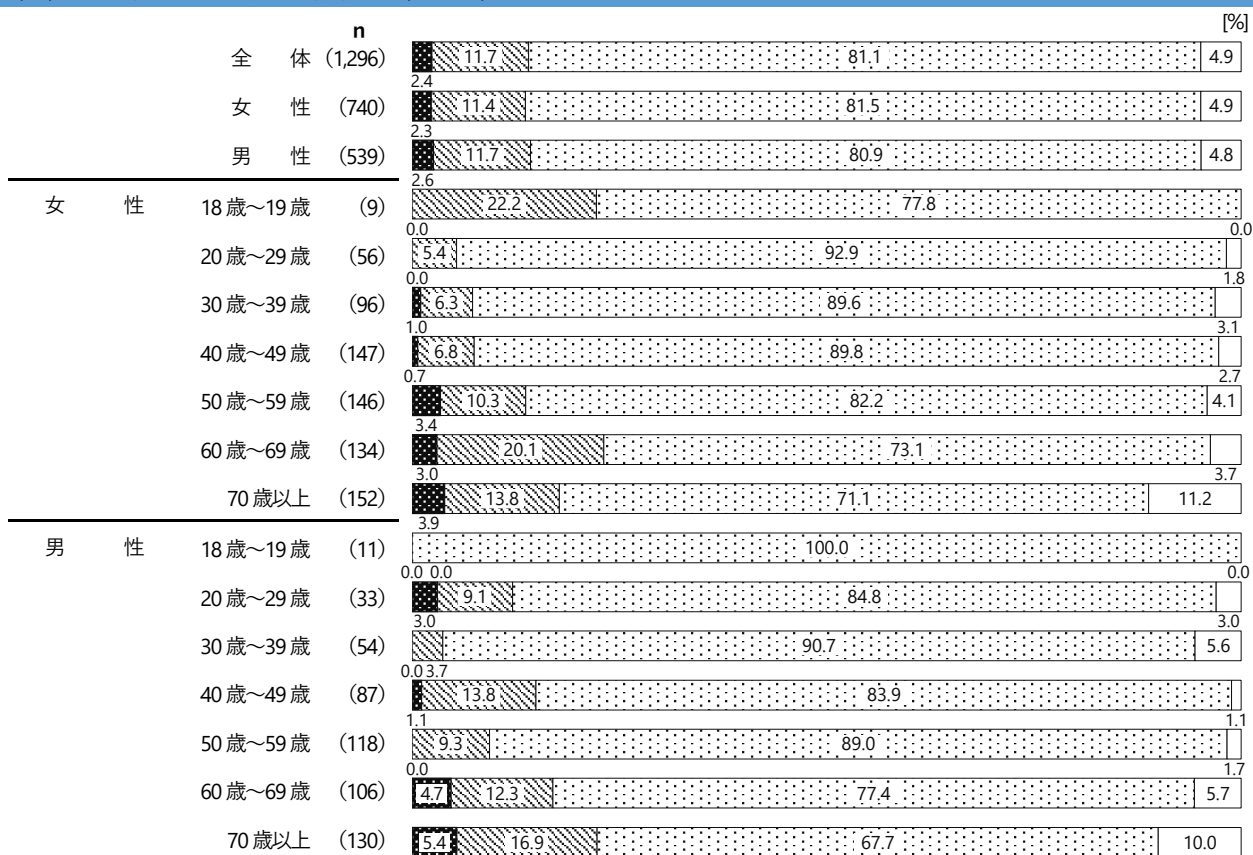
全体でみると、「内容を知っている」は【(4) セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)】(77.5%)、【(5) DV(ドメスティック・バイオレンス)】(77.2%)が7割半ばを超えて高くなっている。次いで【(9)性的マイノリティ(LGBTQ等)】(51.3%)、【(2)ジェンダー(社会的に形成された性別)】(48.5%)、【(6)デートDV(交際相手からの暴力)】(43.3%)の順となっている。

一方、「知らない」は【(1)川越市男女共同参画の情報紙(イーブン)】(81.1%)が最も高く、次いで【(8)クォータ制(性別による割当制度)】(71.3%)、【(7)ポジティブアクション(差別是正のための措置)】(64.5%)の順となっている。(図表6-1-1)

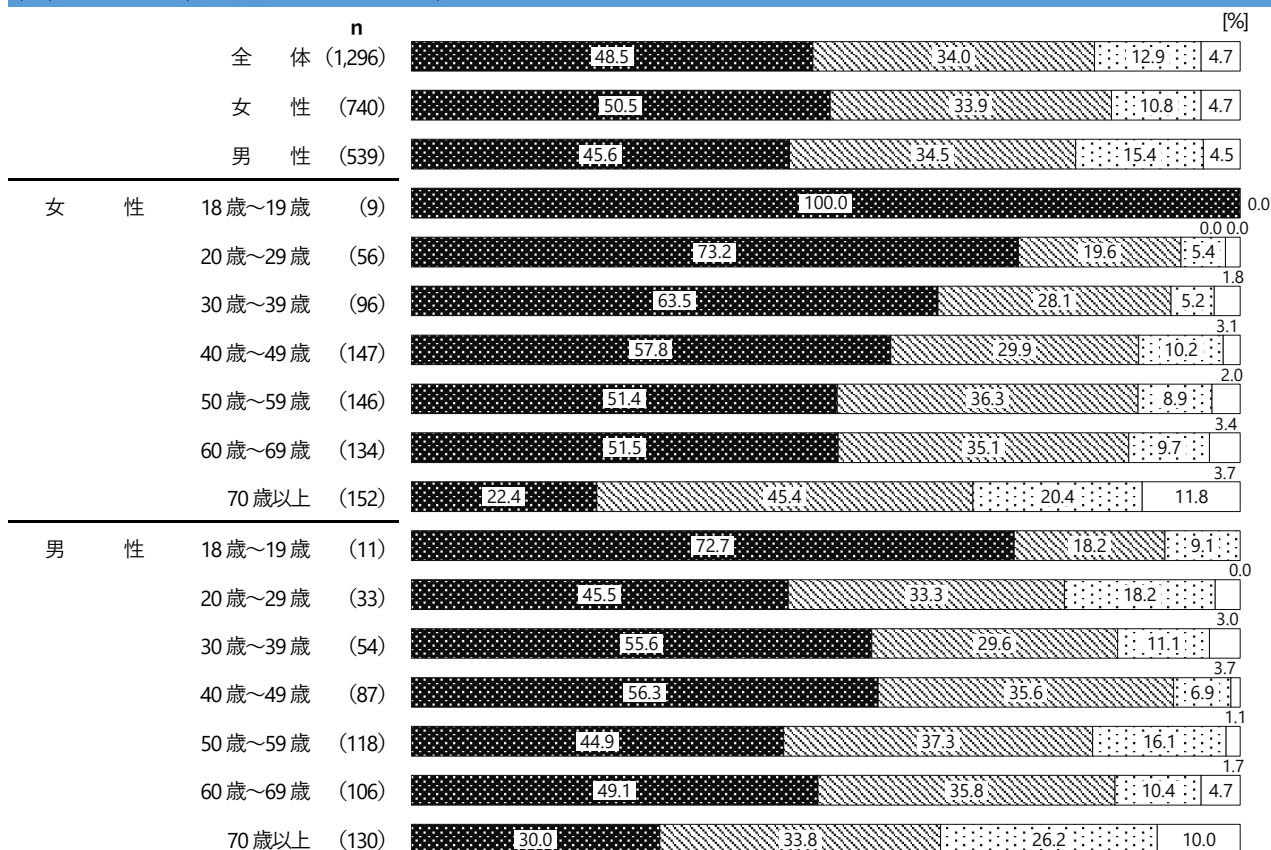
図表6-1-2 男女共同参画に関する言葉の認知状況（性・年代別）

■ 内容を知っている ▨ 聞いたことはあるが内容はよく知らない □ 知らない □ 無回答

(1) 川越市男女共同参画の情報紙（イブン）



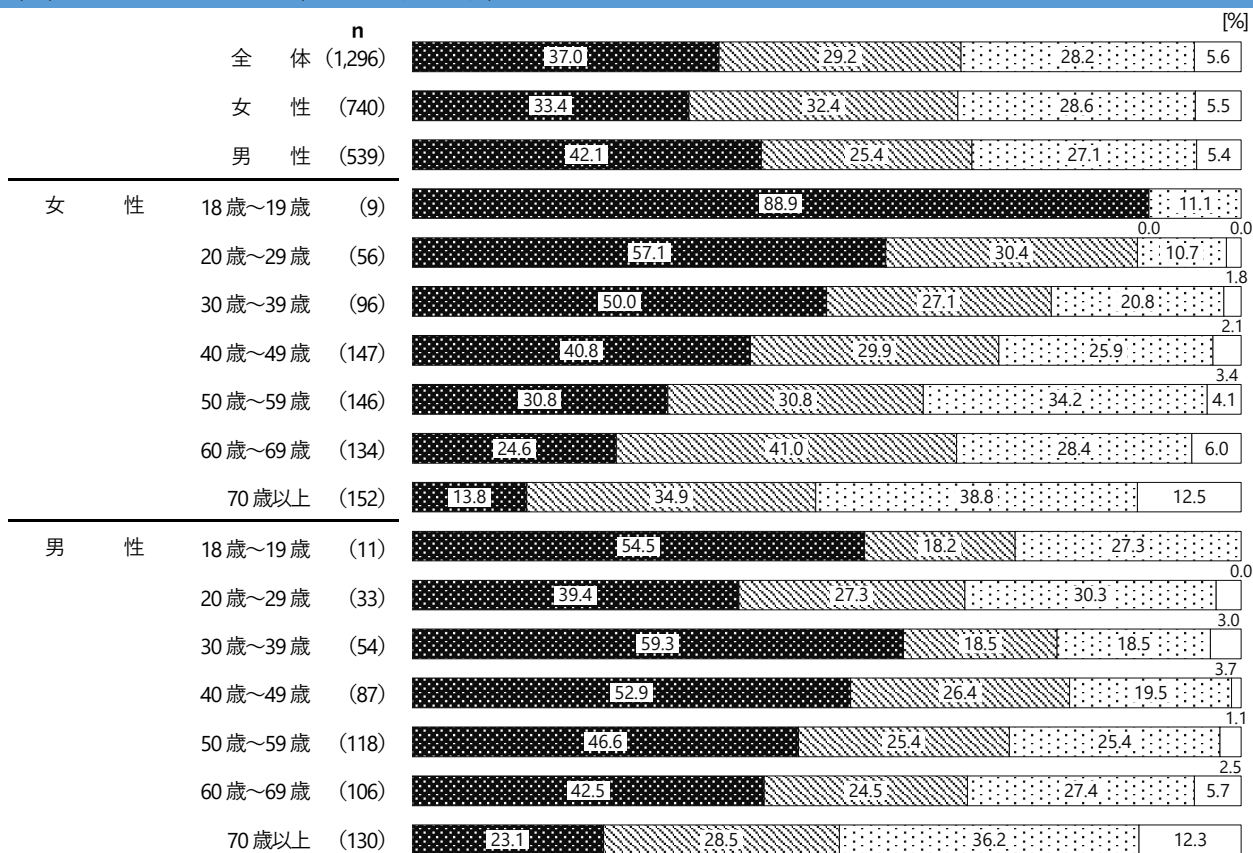
(2) ジェンダー（社会的に形成された性別）



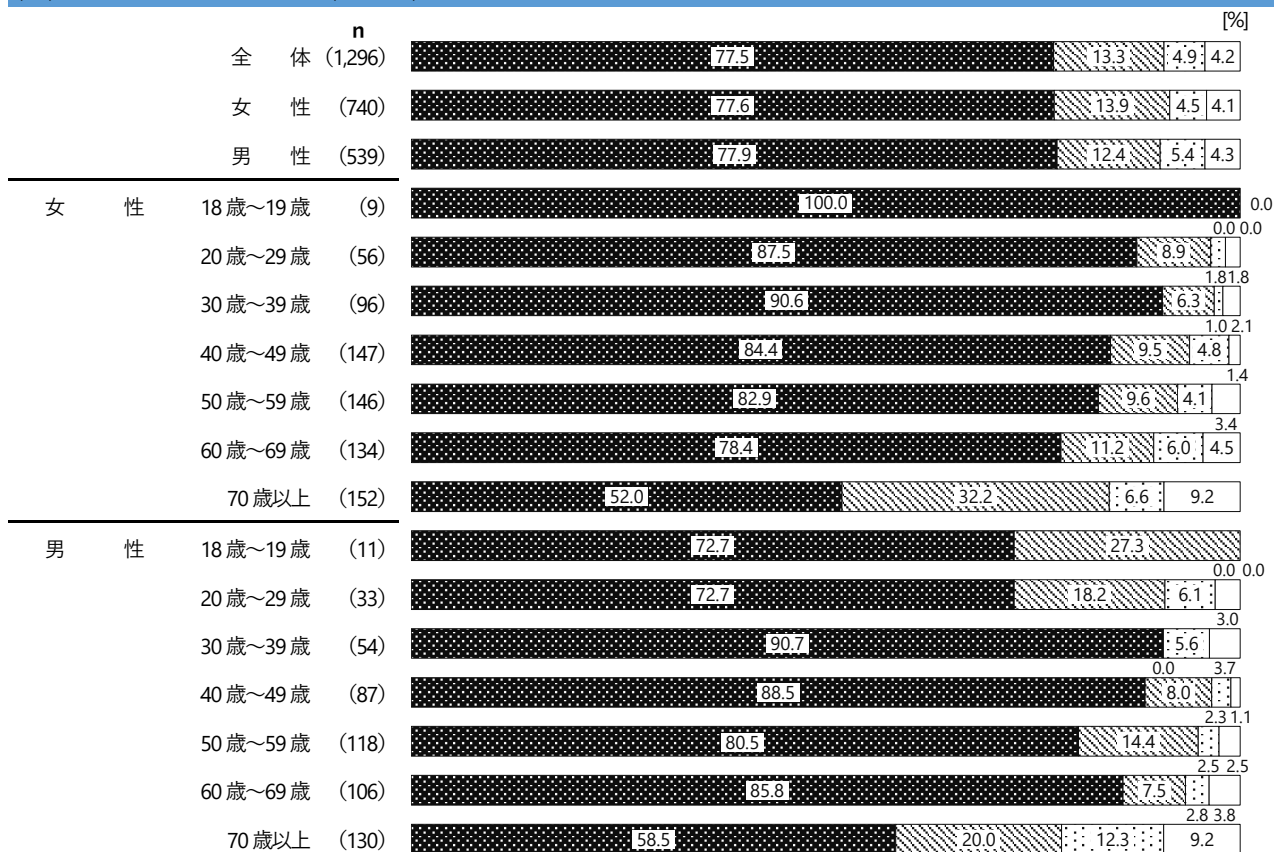
図表6-1-2 男女共同参画に関する言葉の認知状況（性・年代別） つづき

■ 内容を知っている ▨ 聞いたことはあるが内容はよく知らない □ 知らない □ 無回答

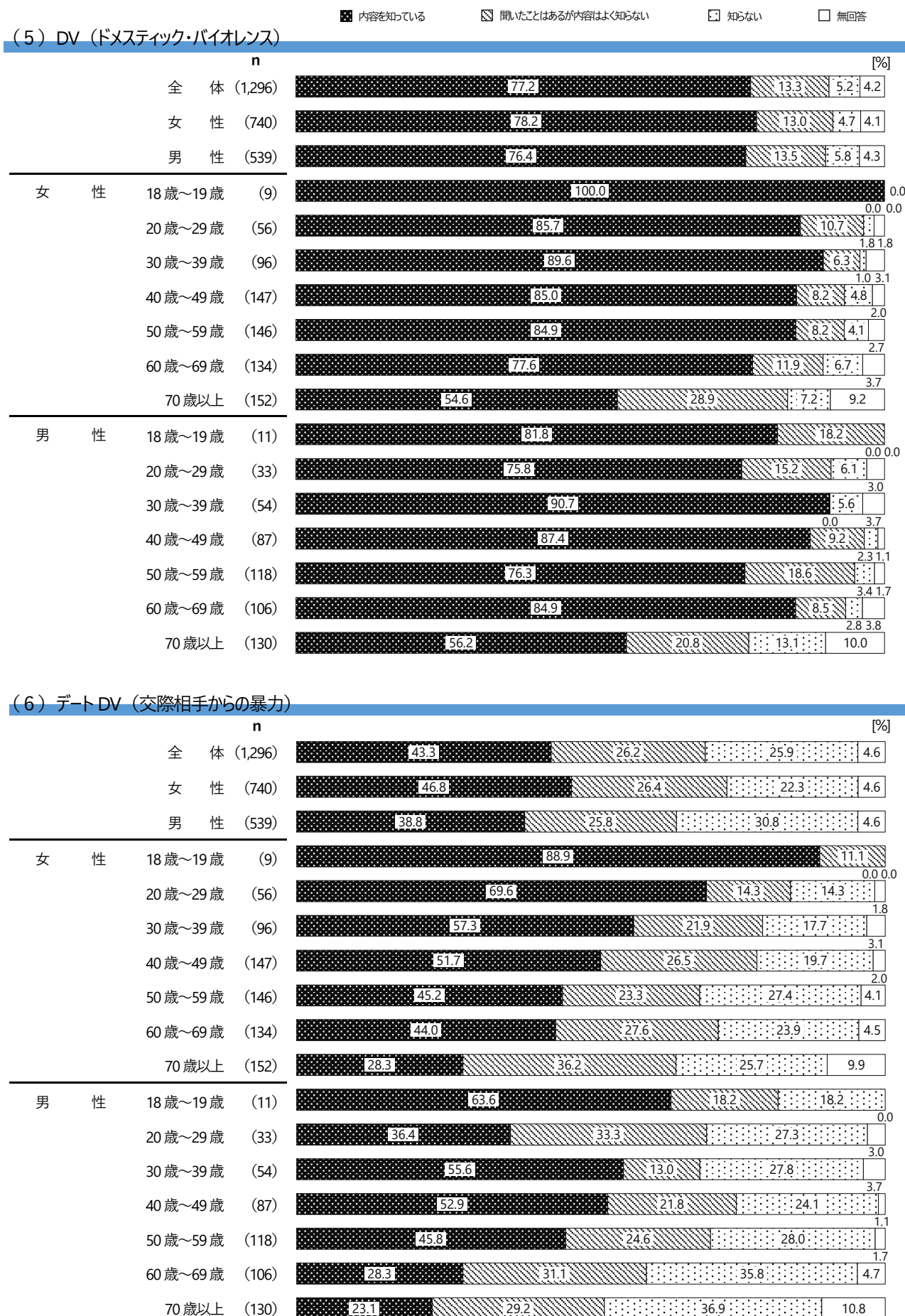
(3) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）



(4) セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）



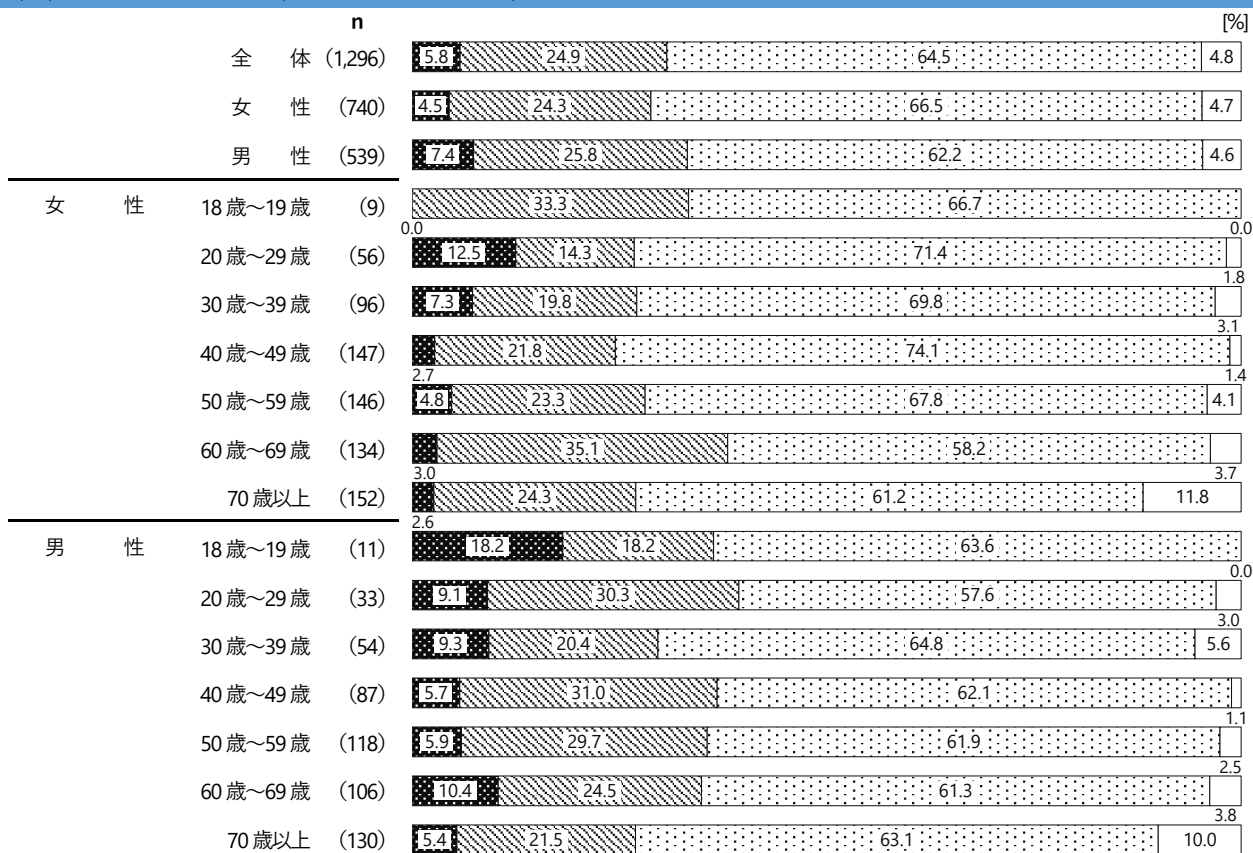
図表6-1-2 男女共同参画に関する言葉の認知状況（性・年代別） つづき



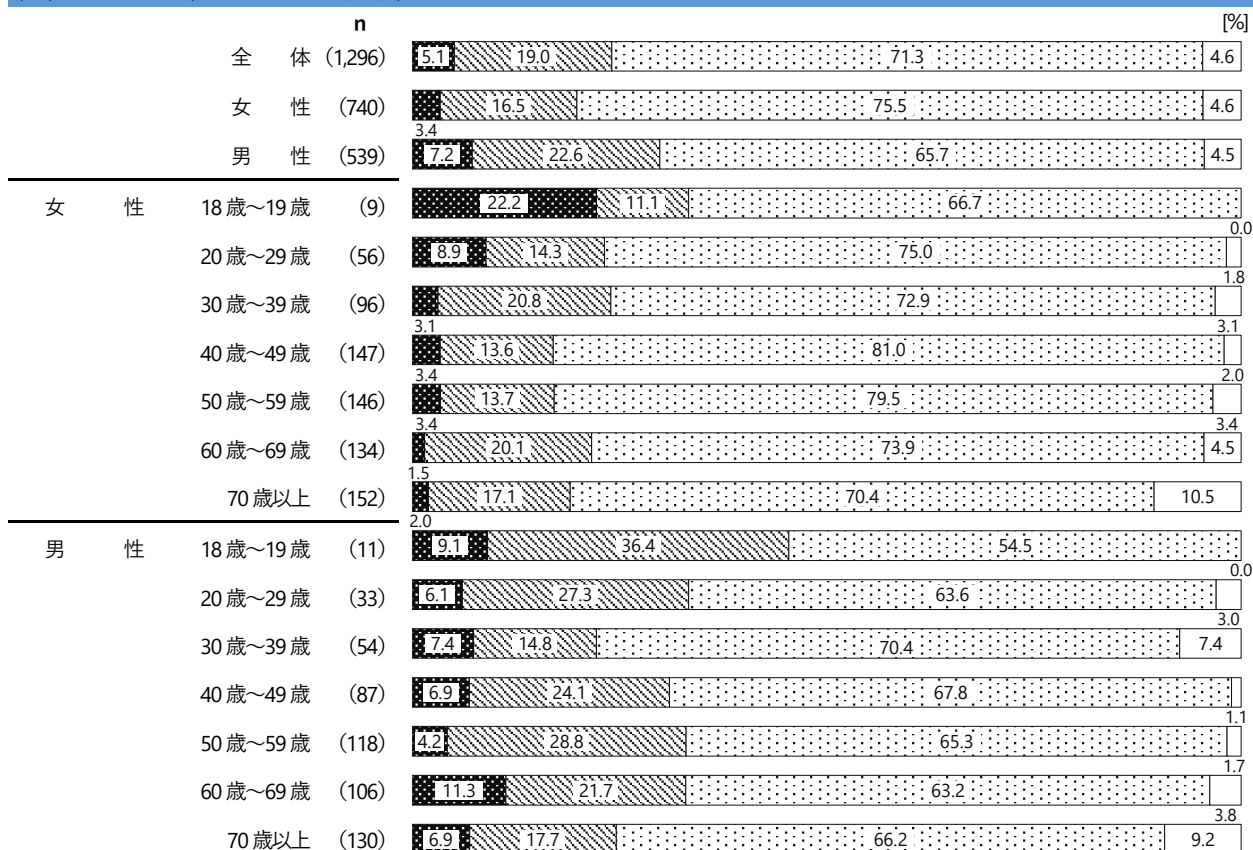
図表6-1-2 男女共同参画に関する言葉の認知状況（性・年代別） つづき

■ 内容を知っている ▨ 聞いたことはあるが内容はよく知らない □ 知らない □ 無回答

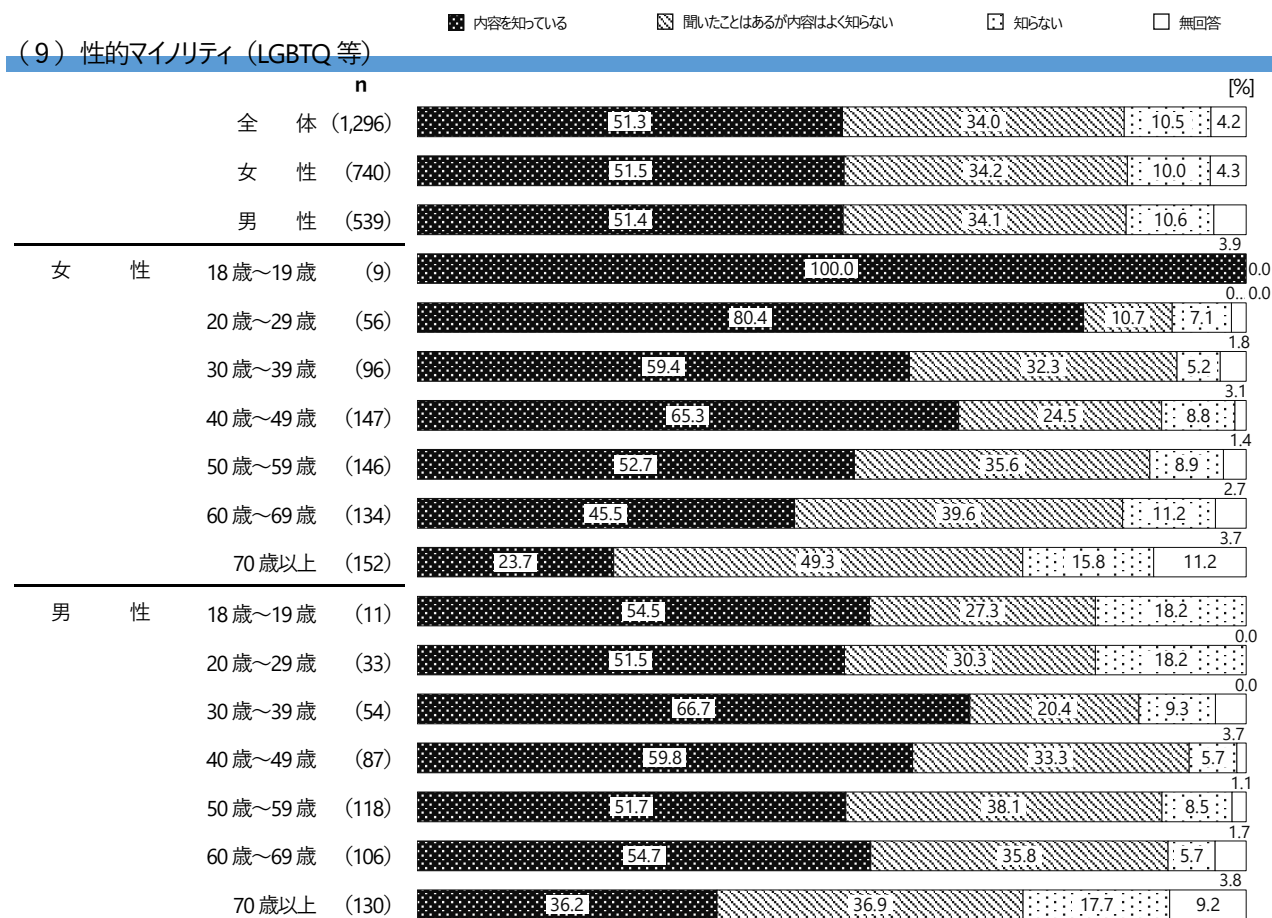
(7) ポジティブアクション（差別是正のための措置）



(8) クォータ制（性別による割当制度）



図表6－1－2 男女共同参画に関する言葉の認知状況（性・年代別） つづき



(※) nが30未満である女性18歳～19歳、男性18歳～19歳の結果は参考扱いとする。

性・年代別でみると、(1)川越市男女共同参画の情報紙(イーブン)について、「聞いたことはあるが内容はよく知らない」は女性60歳代で20.1%と最も高く、次いで男性70歳以上(16.9%)、女性70歳以上(13.8%)と男性40歳代(13.8%)の順となっている。

(2)ジェンダー(社会的に形成された性別)について、「内容を知っている」は女性20歳代(73.2%)が7割以上で最も高く、男性20歳代(45.5%)を27.7ポイント上回っている。「知らない」は男性70歳以上で26.2%、女性70歳以上で20.4%と高くなっている。

(3)ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について、「内容を知っている」は男性30歳代(59.3%)、女性20歳代(57.1%)、男性40歳代(52.9%)、女性30歳代(50.0%)で5割を超えて高くなっている。また、男性60歳代(42.5%)は女性60歳代(24.6%)を17.9ポイント上回っており、男性50歳代(46.6%)は女性50歳代(30.8%)を15.8ポイント上回っている。

(4) セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)について、「内容を知っている」は男性 30 歳代 (90.7%) と女性 30 歳代 (90.6%) で 9 割以上と高くなっており、女性 20 歳代 (87.5%) は男性 20 歳代 (72.7%) を 14.8 ポイント上回っている。「聞いたことはあるが内容はよく知らない」は女性 70 歳以上が 32.2% で最も高くなっている。

(5) DV(ドメスティック・バイオレンス)について、「内容を知っている」は男性 30 歳代 (90.7%) が 9 割以上で最も高くなっており、次いで女性 30 歳代 (89.6%)、男性 40 歳代 (87.4%)、女性 20 歳代 (85.7%) となっている。「聞いたことはあるが内容はよく知らない」は、女性 70 歳以上が 28.9% で最も高くなっている。

(6) デートDV(交際相手からの暴力)について、「内容を知っている」は女性 20 歳代において 69.6% と最も高くなっており、次いで女性 30 歳代 (57.3%)、男性 30 歳代 (55.6%) となっている。また、女性 20 歳代 (69.6%) が男性 20 歳代 (36.4%) を 33.2 ポイント上回っている。

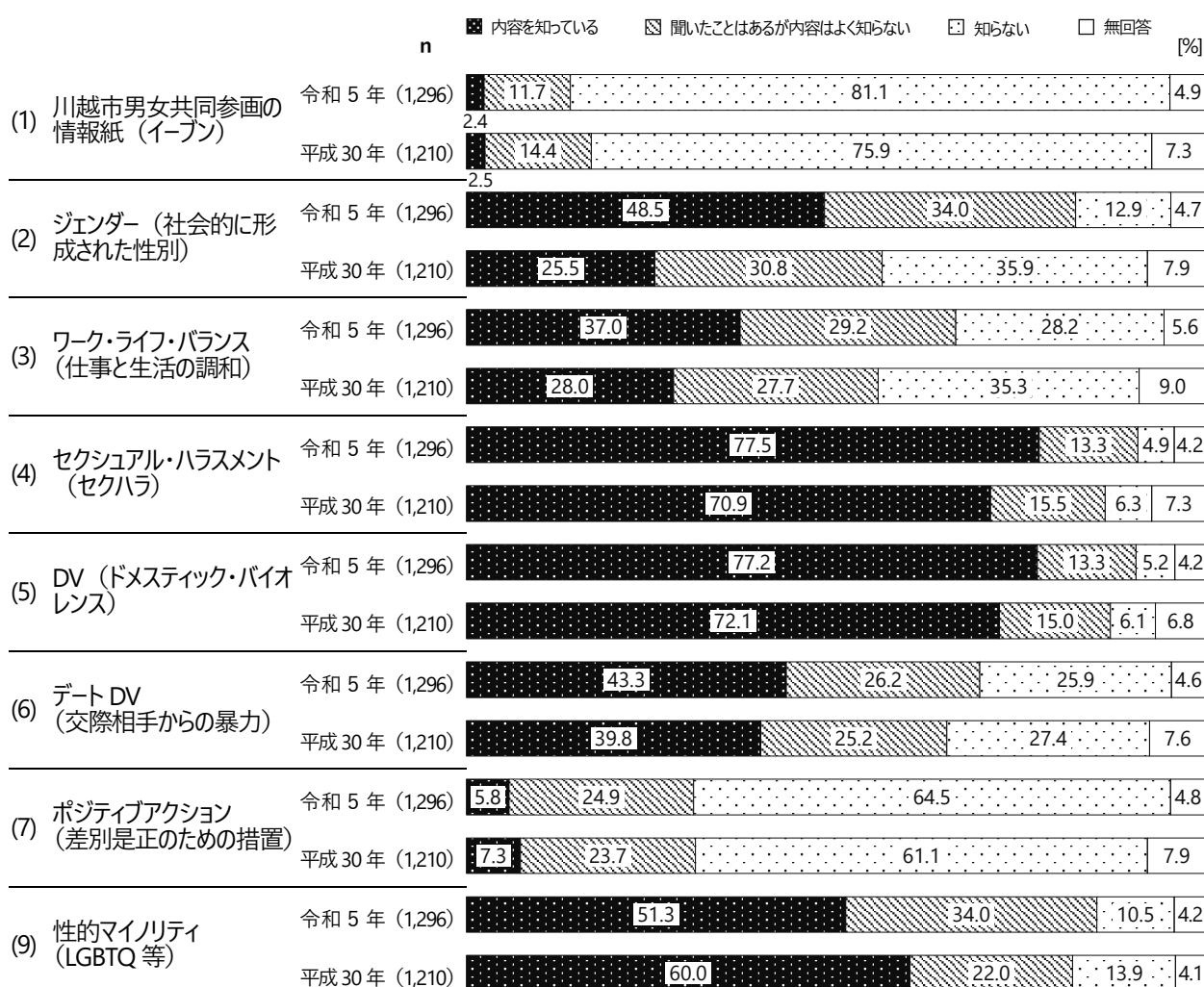
(7) ポジティブアクション(差別是正のための措置)について、「内容を知っている」は女性 20 歳代で 12.5% と高く、次いで男性 60 歳代で 10.4%、男性 30 歳代で 9.3% となっている。

(8) クォータ制(性別による割当制度)について、「内容を知っている」は男性 60 歳代 (11.3%) で最も高く、女性 20 歳代で 8.9%、30 歳代以降では男性が女性より数値が高くなっている。「知らない」は、女性 40 歳代 (81.0%) が 8 割以上で最も高くなっている。

(9) 性的マイノリティ(LGBTQ等)について、「内容を知っている」は女性 20 歳代 (80.4%) で 8 割以上と最も高くなっており、次いで男性 30 歳代 (66.7%)、女性 40 歳代 (65.3%) となっている。

(図表 6-1-2)

図表 6－1－3 男女共同参画に関する言葉の認知状況（前回調査との比較）



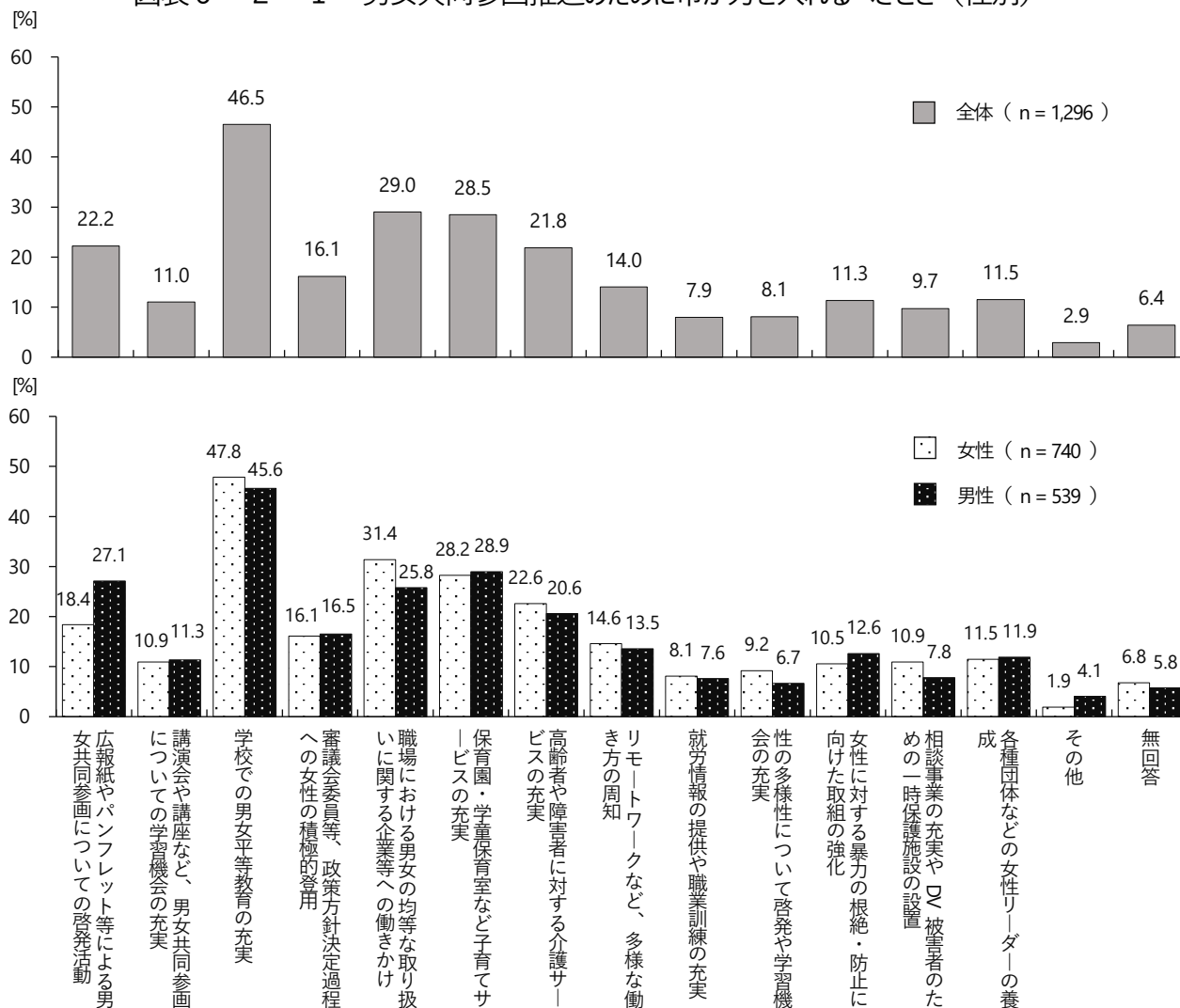
※「(8)クォータ制（性別による割当制度）」は今回調査で新設された問のため除いている。

全体で前回調査との比較を見ると、「内容を知っている」は【(2)ジェンダー(社会的に形成された性別)】(48.5%)で平成30年(25.5%)より23.0ポイント、【(3)ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)】(37.0%)で平成30年(28.0%)より9.0ポイント、【(4)セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)】(77.5%)で平成30年(70.9%)より6.6ポイント、【(5)DV(ドメスティック・バイオレンス)】(77.2%)で平成30年(72.1%)より5.1ポイント、【(6)デートDV(交際相手からの暴力)】(43.3%)で平成30年(39.8%)より3.5ポイント増加している。(図表6－1－3)

6-2 男女共同参画推進のために市が力を入れるべきこと

問 21 男女共同参画を進めるために、市では今後どのようなことに力を入れたらよいと思いますか。
(○は3つまで)

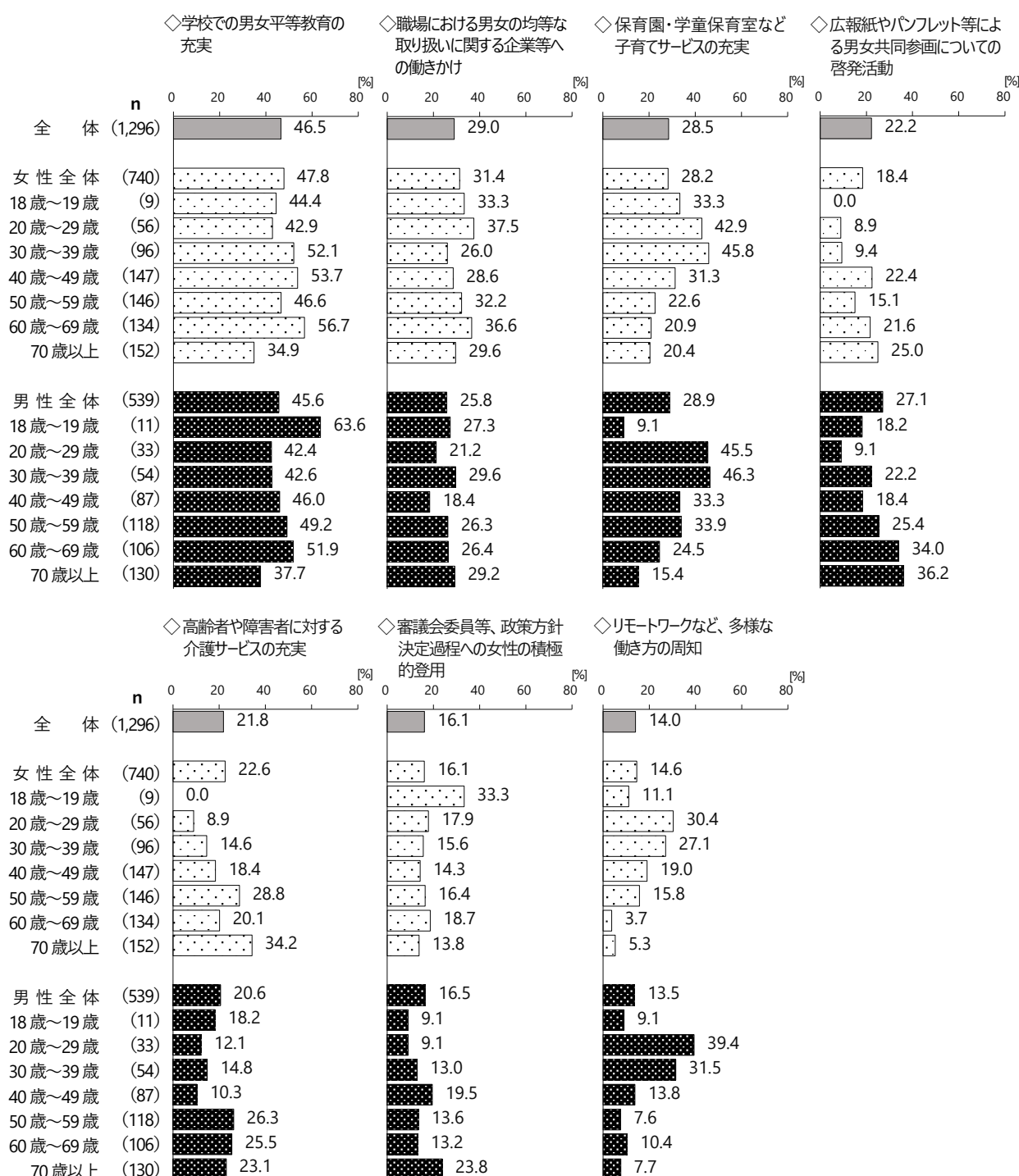
図表 6-2-1 男女共同参画推進のために市が力を入れるべきこと (性別)



全体でみると、「学校での男女平等教育の充実」(46.5%)が最も高く、次いで「職場における男女の均等な取り扱いに関する企業等への働きかけ」(29.0%)、「保育園・学童保育室など子育てサービス」(28.5%)、「広報紙やパンフレット等による男女共同参画についての啓発活動」(22.2%)、「高齢者や障害者に対する介護サービス」(21.8%)の順となっている。

性別でみると、「広報紙やパンフレット等による男女共同参画についての啓発活動」は男性(27.1%)が女性(18.4%)を8.7ポイント上回っている。また、「職場における男女の均等な取り扱いに関する企業等への働きかけ」では、女性(31.4%)が男性(25.8%)を5.6ポイント上回っている。(図表6-2-1)

図表 6-2-2 男女共同参画推進のために市が力を入れるべきこと - 上位 7 項目 - (性・年代別)



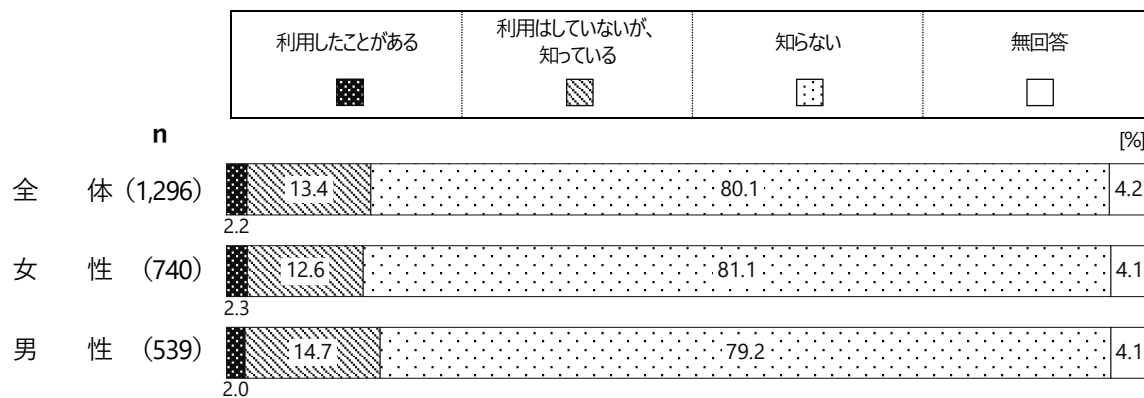
(※) n が 30 未満である女性 18 歳~19 歳、男性 18 歳~19 歳の結果は参考扱いとする。

性・年代別でみると、「学校での男女平等教育の充実」は女性 60 歳代で 56.7%、女性 40 歳代で 53.7%、と高くなっている。「職場における男女の均等な取り扱いに関する企業等への働きかけ」は女性 20 歳代で 37.5%、女性 60 歳代で 36.6%となっている。「保育園・学童保育室など子育てサービスの充実」は 20 歳代、30 歳代の男女共に 4 割以上と高くなっている。「広報紙やパンフレット等による男女共同参画についての啓発活動」は男性 70 歳以上で 36.2%、男性 60 歳代で 34.0%となっている。(図表 6-2-2)

6-3 男女共同参画推進施設の利用経験の有無

問 22 川越市には男女共同参画を推進するための拠点として、男女共同参画推進施設（ウェスタ川越 3階）があります。あなたは、この施設を利用したことがありますか。（○は1つだけ）

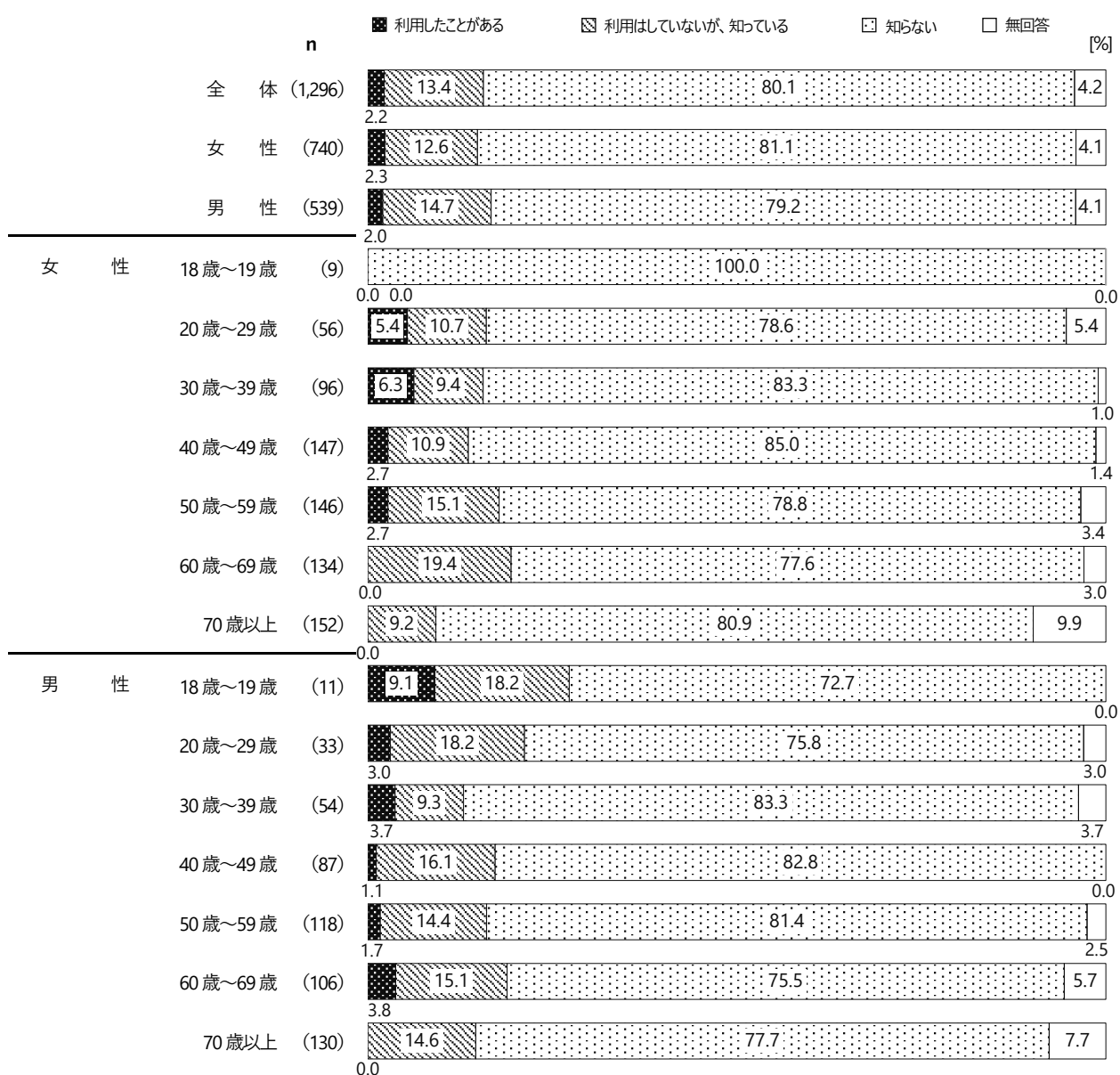
図表 6-3-1 男女共同参画推進施設の利用経験の有無（性別）



全体でみると、「利用したことがある」は 2.2%となっている。「利用はしていないが、知っている」は 13.4%、「知らない」は 80.1%となっている。

性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表 6-3-1）

図表 6 - 3 - 2 男女共同参画推進施設の利用経験の有無（性・年代別）



（※） n が 30 未満である女性 18 歳～19 歳、男性 18 歳～19 歳の結果は参考扱いとする。

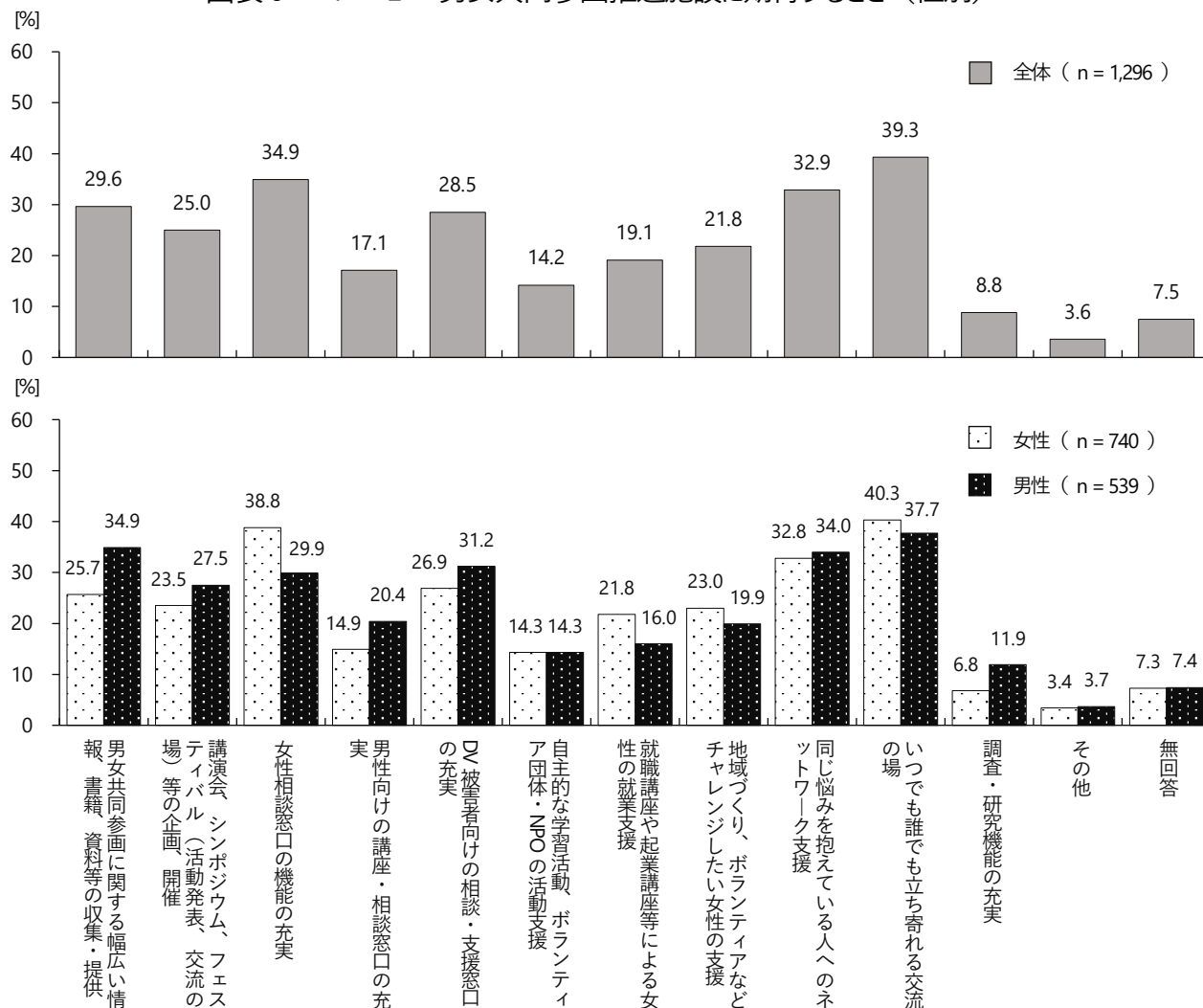
性・年代別でみると、「利用したことがある」は女性 30 歳代で 6.3%、女性 20 歳代で 5.4%となっている。「利用はしていないが、知っている」は女性 60 歳代で 19.4%、男性 20 歳代で 18.2%となっている。

（図表 6 - 3 - 2）

6-4 男女共同参画推進施設に期待すること

問 23 あなたは、この「男女共同参画推進施設（ウェスタ川越）」にどのような運営・役割を期待しますか。（〇はあてはまるものすべて）

図表6-4-1 男女共同参画推進施設に期待すること（性別）



全体で見ると、「いつでも誰でも立ち寄れる交流の場」（39.3%）が最も高く、次いで「女性相談窓口の機能の充実」（34.9%）、「同じ悩みを抱えている人へのネットワーク支援」（32.9%）、「男女共同参画に関する幅広い情報、書籍、資料等の収集・提供」（29.6%）、「DV被害者向けの相談・支援窓口の充実」（28.5%）の順となっている。

性別で見ると、「男女共同参画に関する幅広い情報、書籍、資料等の収集・提供」は男性（34.9%）が女性（25.7%）を9.2ポイント上回っている。「女性相談窓口の機能の充実」は女性（38.8%）が男性（29.9%）を8.9ポイント上回っている。（図表6-4-1）

